

第8回

地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議

宇大スピリッツ3C

~Change~

主体的な挑戦により、自らを変え、社会に貢献する

~Challenge~

~Contribution~

平成29年8月7日
宇都宮大学長 石田 朋靖



改革の契機は

ミッション再定義 + 国立大学機能強化（3 類型化）

国立大学は**横並びである必要はない**と強く認識

外部からの厳しい指摘、自己分析

“～がない”、“～がない” だから…でなく**弱み**とそれを超える**特長**は？

地域に根ざした**教育重視の大学**

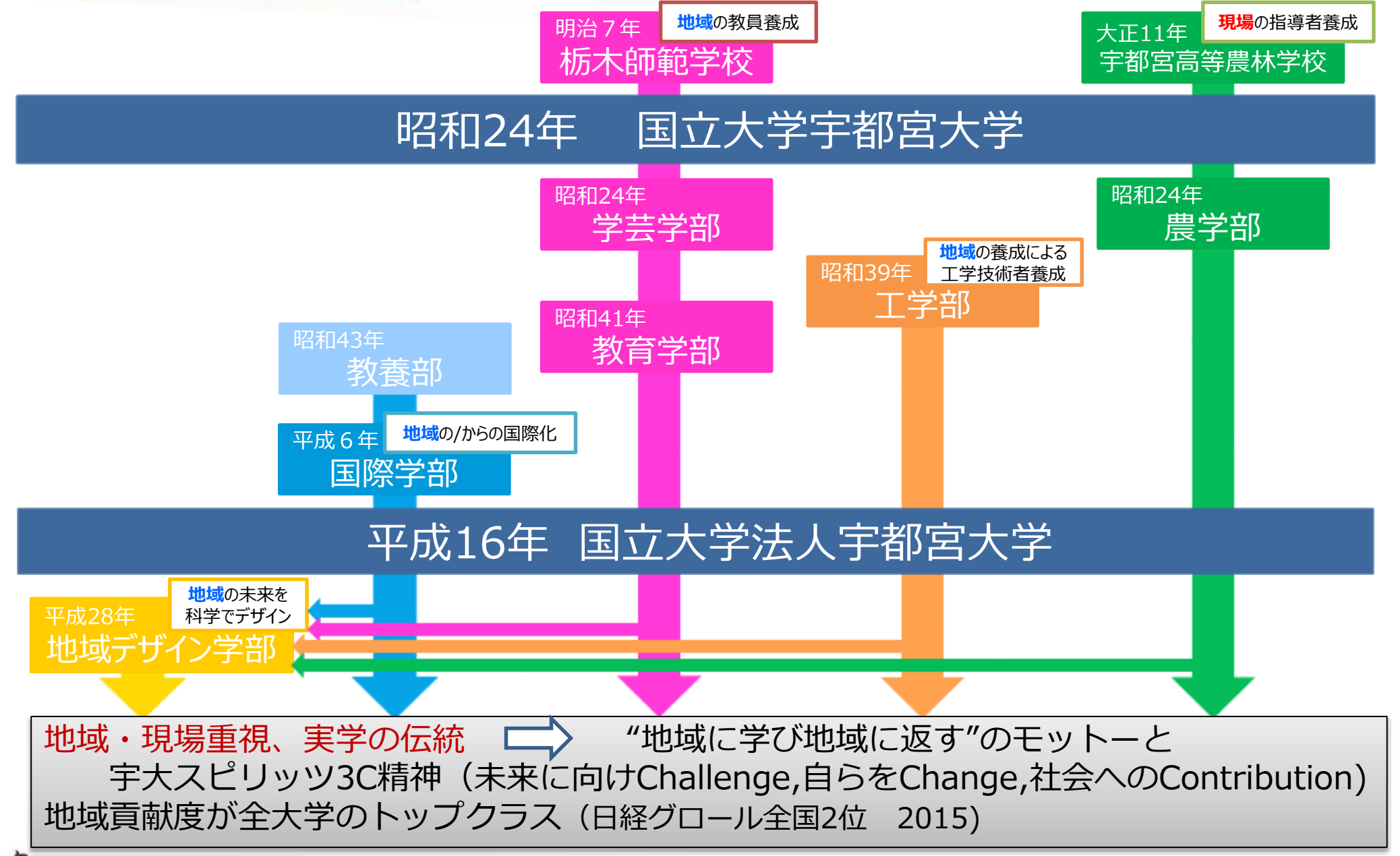
あらたな発想を育む教育・現実を強く意識した実学



教員のユニークな**研究は不可欠**

傍らであらたな知が創造されている環境

沿革から生まれた特長



大学規模や地理的条件による特長

コンパクトな国立大学

- 教員数:350名、職員数:210名、
- 学生数 学部:4,000名、大学院:800名
- キャンパスは1.5km離れた2つだけ

構成員同士の顔が
見える距離感
＝横断的な研究や
組織の融合
＝寄り添った教育

多様性に富んだ地域

- 全国の縮図のような多様性に富んだ地域に位置
- 工業:三大工業地帯に次ぐ北関東工業地域
 - 農業:首都圏農業、本州一の酪農、里山
 - 中核市、ベッドタウンから限界集落まで
 - 日光、那須、鬼怒川など有数の観光地域

実学を支える豊富な
現場

公立大学のない栃木県 (栃木、徳島、佐賀、鹿児島)

- 一つの国立大。あとは全て私立大

地域の産官金からの
期待と連携のし易さ

そうした中で宇都宮大学が選んだ道は

行動する知性と良識を備えた、地域における知の拠点

最も学生を大切に育てる大学へ
最も地域から信頼される大学へ
新たな知を創造し続ける大学へ

宇大スピリット「3C精神」のもとで
改革に挑戦しています



Challenge 主体的に挑戦し、
Change 時代の変化に対応して自らを変え、
Contribution 広く社会に貢献する

「3C精神」を受け継ぐ人材の養成

「3C精神」による研究の推進

「3C精神」による大学改革の推進

<地域を元気にするエンジンとなる大学>

宇都宮大学のガバナンス体制

学長選考会議

- ①経営協議会学外委員から5名 = **学外委員が議長**
- ②教育研究評議会から5名

学長

監事

元国立大学長
元財務省官僚

主要会議への全出席、
全部局の業務監査、
学長と密な意見交換

役員会

最終的な意思決定機関
[学長、理事4名] (陪席：監事2名)

－理事・副学長－

総括理事、企画・広報担当
教育・学生担当
研究・産学連携担当
総務・財務担当

－副学長－

グローバル戦略担当
大学院改革担当
点検・評価担当
アドミッション担当

－学長特別補佐－

学内連携・教職協働担当

－学長補佐チーム－

学内連携推進 各学部の中堅教員1名

教育研究評議会

教育研究に関する重要事項の審議機関 (毎月第2水曜日)
[学長、理事4名、副学長1名、部局長等16名] (陪席：監事)

経営協議会

大学経営に関する重要事項の審議機関 年5回程度) 審議と多くの提案
[学外委員8名、学内委員5名] (陪席：監事)
学外委員：民間3名 (地元企業、全国企業、地元報道)、行政機関1名 (栃木県)、地元経済団体2名、教育機関2名 (高校長会、私大理事長)

各種運営会議

部局等

教授会等

連絡調整

企画戦略会議 (毎月第1水曜日)

予算調整会議 (年2回)

人事調整会議 (毎月1~2回程度)

[学長、理事4名、副学長1名、部局長等6名]
(陪席：監事)

学長打合せ

各業務内容の確認、意見交換 (毎週月曜日)
[学長、理事4名、副学長1名、学長特別補佐]

副学長等意見交換会

副学長等の業務進捗状況等について、
報告及び意見交換 (2ヶ月毎に1回)
[学長、理事4名、副学長4名、学長特別補佐]

学長リーダーシップによる制度改革

学 長

指
示



■ 組織及び運営体制の整備

- ①教授会の役割の明確化
- ②学部長選考方法の見直し（学長指名制）
- ③学長補佐体制の強化
- ④教員組織の一元化（教教分離）

■ 人事システムの改革

- ⑤学長裁量ポイントの確保（全教員Pの7.5%）
→強化分野への戦略的活用
- ⑥教員人事システムの改革
- ⑦准教授以下の全新規採用教員にテニュアトラック制

■ 機能強化の促進

- ⑧学長裁量経費による機能強化
→大学改革、地域貢献、教育研究環境整備、業務運営改善等の実現
- ⑨内部質保証システムの導入 – P D C Aサイクルの確立と実質化–

①【教授会の役割の明確化】 平成26年度～

平成26年の学校教育法の一部改正を踏まえ、**学長のリーダーシップのもと、戦略的に大学の組織及び運営体制を整備**するため、次のとおり改正を行った。

①教授会の審議機関としての役割

・各学部等に関することを審議する機関

変更

・学長が教育研究の重要事項決定にあたり、審議し意見を述べる機関
・教育研究に関する事項について審議し、学長、学部長の求めに応じ意見を述べる機関

②教授会の審議事項

・教員人事に関する事項
（選考委員会を設置）
・学部長等候補者の選考

変更

・人事調整会議からの要請により教員の**教育研究業績のみを審査**
（**選考委員会は人事調整会議の下におく**）
・学部長等候補者の推薦

②【学部長選考方法の見直し】 平成27年度～

○ 平成27年度から、**学部長等**の選考方法を見直し、従来の教授会による選考を廃止し、**学長による指名制**を導入した。

・学部長等候補者の選考
『各学部毎に選挙を行い、**教授会で候補者（1名）を決定**』

変更

・学部長等候補者の推薦
『学長から候補者の推薦を求められた学部等は3名程度の候補者を**順位を付けずに学長に推薦**、個別面談により**学長が選考**』

③【学長補佐体制の強化】平成27年度～

学長のリーダーシップのもと、教育研究機能を最大限に発揮する、副学長を充実させ、機動的かつ効率的な運営整備を行った。

【副学長の職務】

「学長の職務を助ける」

学長の補佐体制を強化。学長の指示を受けた範囲において、副学長が自らの権限で校務を処理

「学長を助け、命を受けて校務をつかさどる」

年 度	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9
副学長	1 名	3 名	4 名	4 名
担当	●基盤教育改革推進	●グローバル人材養成・研究交流 ●新学部関係 ●点検・評価	●グローバル研究交流（戦略③を主に） ●地域連携（戦略①を主に） ●点検・評価 ●地域連携（戦略④を主に）	●グローバル戦略 ●大学院改革 ●点検・評価 ●アドミッション

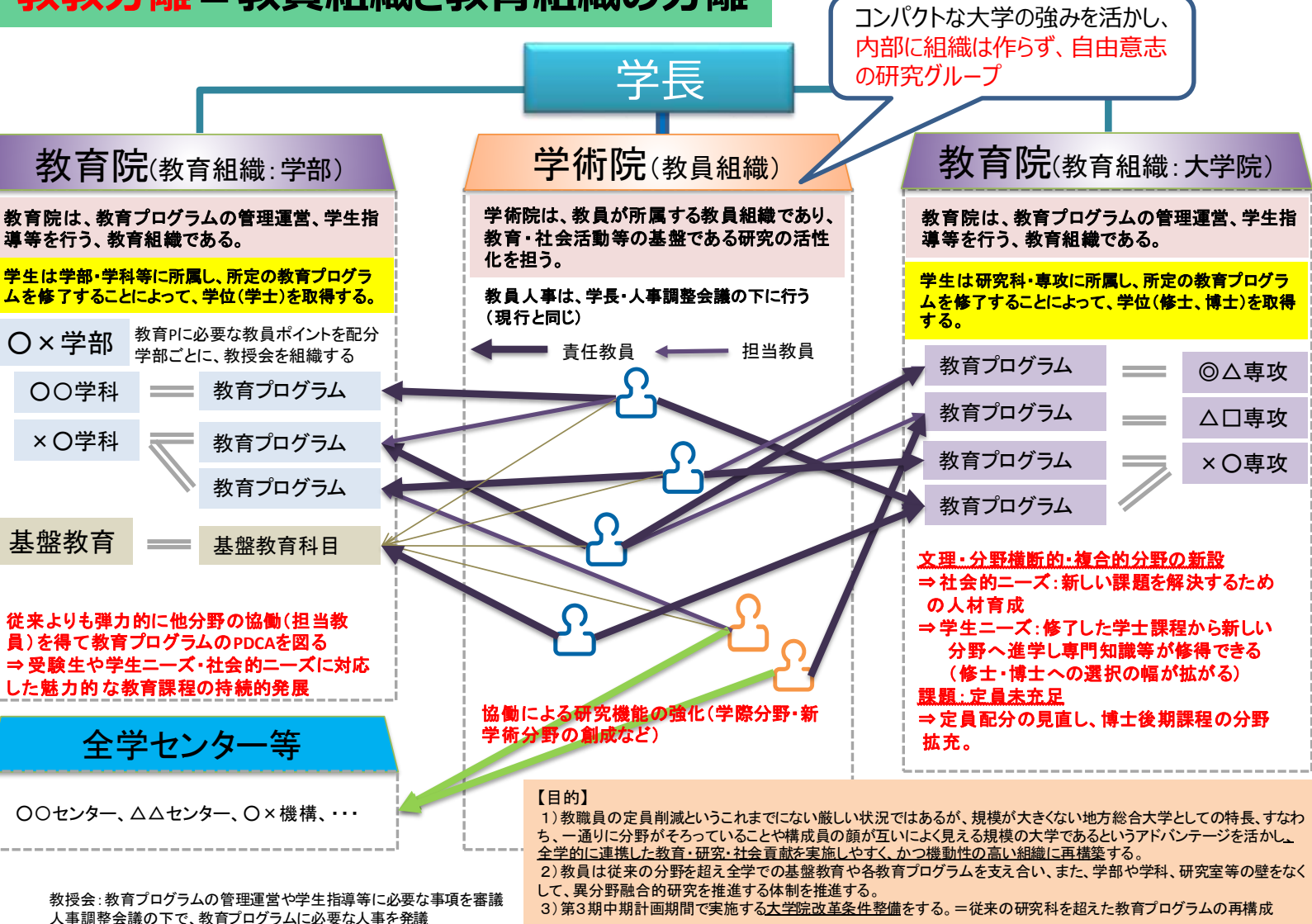
学長が必要と認める課題や戦略に応じた学長補佐体制の強化

担当事項		主な成果
H 2 8 副学長	グローバル関連・研究交流担当	米国パデュー大学等の卓越校との連携の発展、THE世界大学ランキングへのランクイン（801+）日本版:53位
	地域連携担当(戦略①)	新学部「地域デザイン科学部」開設(H28.4)に伴う外部機関との連携強化
	社会連携担当(戦略④)	「地域連携戦略機構(仮称)」(H32設置予定)の設置に向けた関連センターとの意見調整、設置に係る大枠の策定
	点検・評価担当	第2期法人評価に係る実績報告書の取りまとめ
	学長特別補佐(学内連携等担当)	学長補佐チーム(各学部中堅教員1名)のリーダーとして、新たに導入した各学部独自の「年度計画プラス(計画Ax)」の共通運用を先導
	学長補佐チーム	新たに導入した「年度計画プラス(計画Ax)」のPDCAを実施。教員の中期目標計画の理解を深める

担当事項		主なミッション
H 2 9 副学長	グローバル戦略担当	留学生受入戦略の策定、海外留学等の推進、連携校との研究交流、学生交流の実質化
	大学院改革担当	新大学院設置（平成31年度予定）に向けた、体制の確定、教育内容の整理、ニーズ調査等
	点検・評価担当	新教員評価システムの構築、各学部点検・評価委員会のマネジメント
	アドミッション担当	入試広報の強化、新テストへの対応、「アドミッションオフィス」の構想と設立準備等
	学長特別補佐	学長補佐チーム(各学部中堅教員1名)のリーダーとして、学内のベクトル合わせに向けた連携の推進、教職協働の実質化と強化等
	学長補佐チーム	各学部から中堅教員1名。各学部の「年度計画プラス」策定のファシリテーター。進捗状況Check。

④【教員組織の一元化と弾力化（教教分離の実質化）】

教教分離＝教員組織と教育組織の分離



導入の背景

◇人件費予算の漸減による教員数の減少
→基盤教育を含めた教育プログラムの全員体制による支え合いの必要性

特徴

◇一通りの分野を持つ総合大学ながら、構成員のお互いの顔が見える適度な規模のメリットを活かす。

◇全教員が学術院（教員組織）に所属。内部に組織は作らず、学部や分野の壁をなくした機動性の高い組織構造

期待される効果

◇文理・分野横断的・複合的分野の新設。既存分野の改革
→社会的ニーズ: 新たな課題解決のための人材育成
→学生ニーズ: 修了した学士課程から新たな分野へ進学(専門知識選択の幅拡大)

◇教育の全学的な支え合い

具体的成果

◇文理融合型の地域デザイン学部の設置

◇従来の学部を超えた教育担当

◇文理・分野融合型の新たな“大学院組織”設置の実現

弾力的な組織への改革⇒文理・分野融合の実質化&新領域の創成&持続的な革新

⑤【学長裁量ポイントの確保】

【学長裁量ポイントの戦略的活用】

学長裁量ポイント（全教員ポイントの7.5%（2,739ポイント））を確保し、組織改革等を行い、**教育研究の強みを伸ばしうる、あるいは社会からの強いニーズがあると学長が判断した教員ポストに活用するため、学長裁量ポイントを貸与し（基本的に5年間）、継続的な機能強化を図った。**
（教授100P、准教授79P、講師66P、助教62P）

●貸与状況(H27~H28)

強化分野	内容	貸与ポイント
新学部を設置	新たな教育研究分野の強化	256
光工学分野の強化	大学院先端光工学専攻設置に向けた強化	499
教員養成力の強化	・教職大学院設置に向けた実務家教員（158） ・教育委員会と連携強化のため教育行政専門家（100）	258
グローバル人材養成力の強化	栃木県等と連携した人材養成プログラムの推進	158
農学系センター拡充改組と専門教育の充実	バイオ・雑草・地域マネジメントに関する教育、研究、社会連携の推進	320
大学間連携の推進	全国教育関係共同利用拠点としての教育力強化	66
情報戦略の強化	I R 分析	66
地域連携の推進	COC機能の強化（栃木県から現職の職員派遣）	79
全学センターの強化	地共センター・基盤教育センター・オプトセンター	637
その他	役員教授職留保	400
合計	教授27人分に相当	2,739

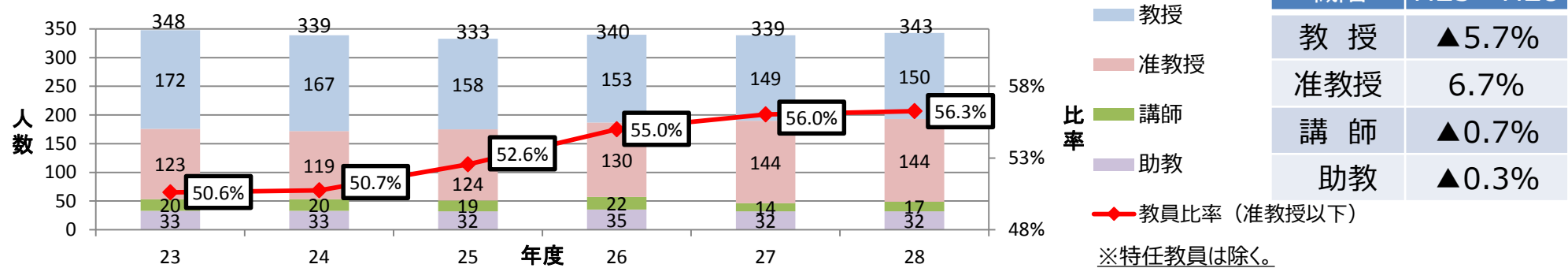
※この他、学長戦略経費により新学部に准教授 1 名、若手女性講師 1 名を採用。

⑥【教員人事システムの改革】 平成24年度～

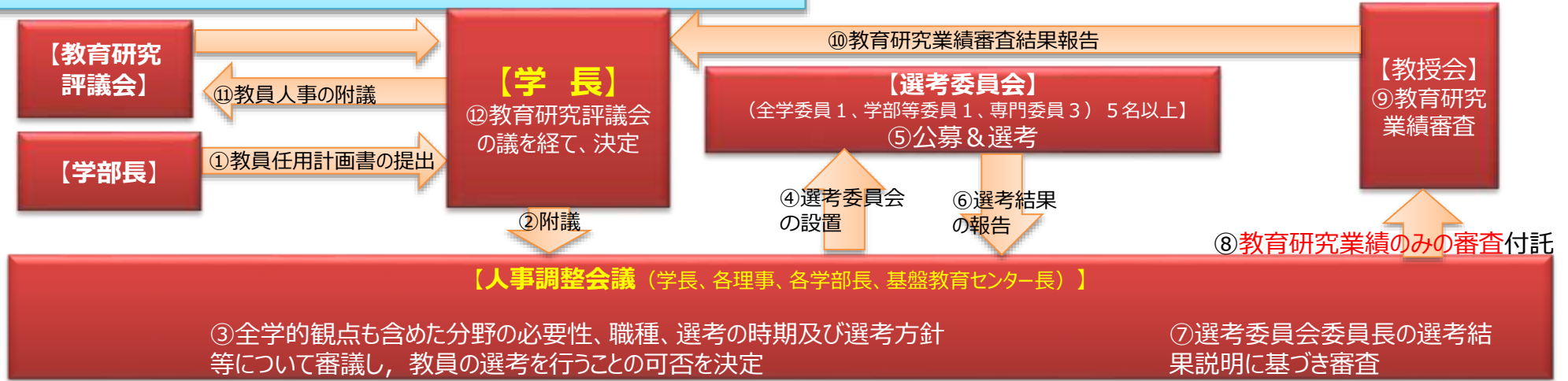
○平成24年度に教員ポイント制による人員管理を導入し、これまでできなかった教員の職階バランスの見直しや若手教員の積極的な採用が可能となり、職階のアンバランス是正と教員増（17名）を図った。

○平成27年度から、従来の学部教授会が主導する教員人事体制から、学長が議長を務める「人事調整会議」で教員人事の選考を一括してマネジメントするように改革した。教員人事の選考を一括する体制は先駆的な取組であり、職階バランスの改善や若手教員の積極的な採用を進めた結果、平成24年3月と平成29年3月の比較で教授の割合が5.7%減少し、准教授・講師・助教の割合が5.7%増となっている。

●弾力的な人事計画により若手教員の積極的採用 → 職階バランスの改善



あらたな教員人事のフロー



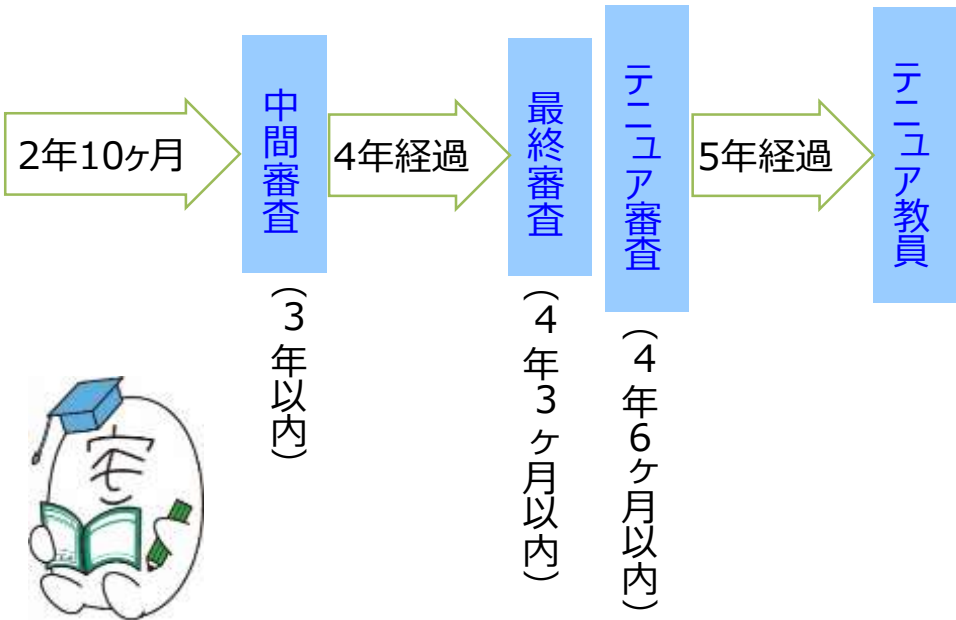
⑦【准教授以下の全新規採用教員にテニュアトラック制】 平成28年度～

「宇大版テニュアトラック制度」の導入

宇大版テニュアトラック制度は、コンパクトな大学の特徴を生かした積極的な教育・研究活動等の能力を有した教員を採用・育成することを目的とし、**全ての准教授、講師、助教の採用にテニュアトラック制度**を適用

◇テニュアトラックの流れ

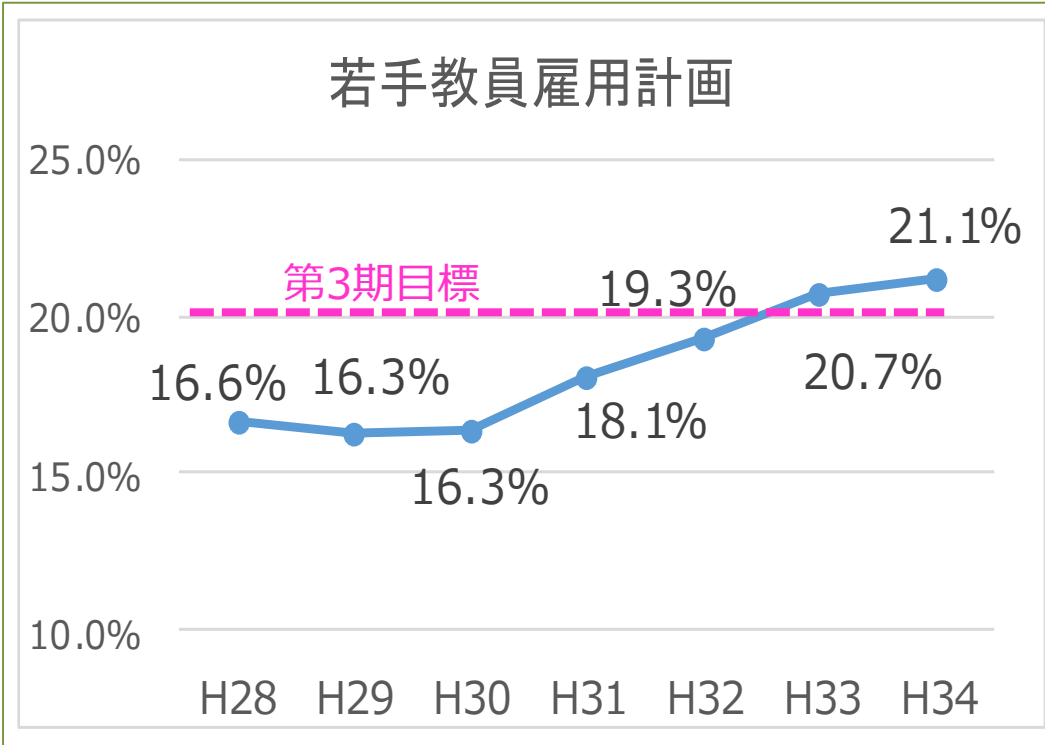
5年間の任期付きで採用し、3年目以降4年半以内にテニュア審査を行い、可否を判定し、テニュア（任期なし）教員として採用



「若手教員テニュアトラック制度」の導入

40歳未満、特に**35歳未満の助教**の採用にテニュアトラック制度を適用

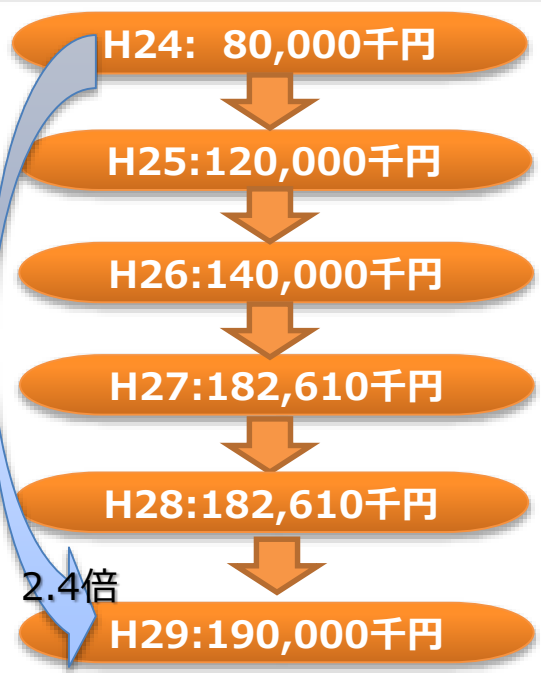
◇文部科学省「国立大学改革強化推進補助金（国立大学若手人材支援事業）」により
平成28年度:**助教3名(うち女性2名)**採用
平成29年度:7名採用予定



⑧【学長裁量経費による機能強化】 平成24年度～

○ 各学部等における機能強化に向けた取組、グローバル化の推進や組織改革等を積極的に推進するため、平成27年度には学長裁量経費により、「改革推進経費（11,000千円）」を各学部及び基盤教育センターに配分するとともに、「教育研究強化推進経費（23,225千円）」を職階に応じ全教員に対して配分し教育研究を強化推進するなど様々な取組を実施した。

【学長戦略経費の増額】



人件費等を除く
大学運営費の7.8%

- 重点配分の内容(主なもの)
- 大学改革関連
 - 新学部関係、改革推進、グローバル関連支援
- 地域貢献活動関連
 - 経営工学講座 (MOT)、COC事業関連支援
- 教育研究環境整備
 - インロールメント・マネジメントIR関連
- 教育研究環境支援
 - 男女共同参画推進、女性教員採用支援、新任教員研究支援
- 高大接続関連
 - グローバルサイエンスキャンパス推進
- 広報活動関連
 - 新学部広報施策、研究成果等情報発信、若手SDグループ活動支援

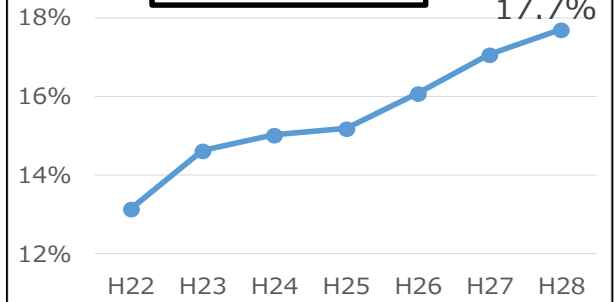


新学部の設置

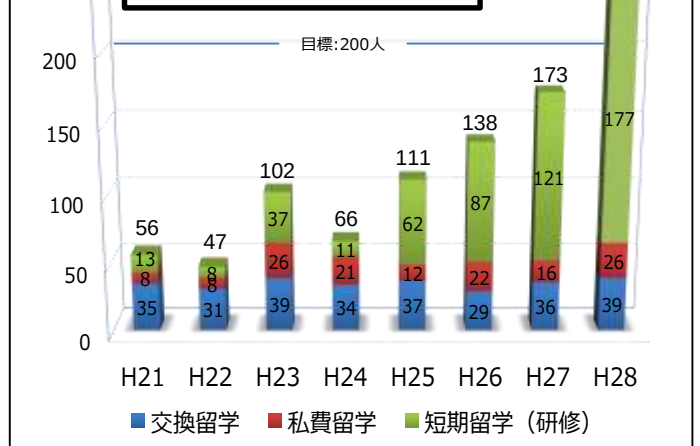
平成28年度にまちづくりのプロを育てる地域デザイン科学部を設置



女性教員比率の増加

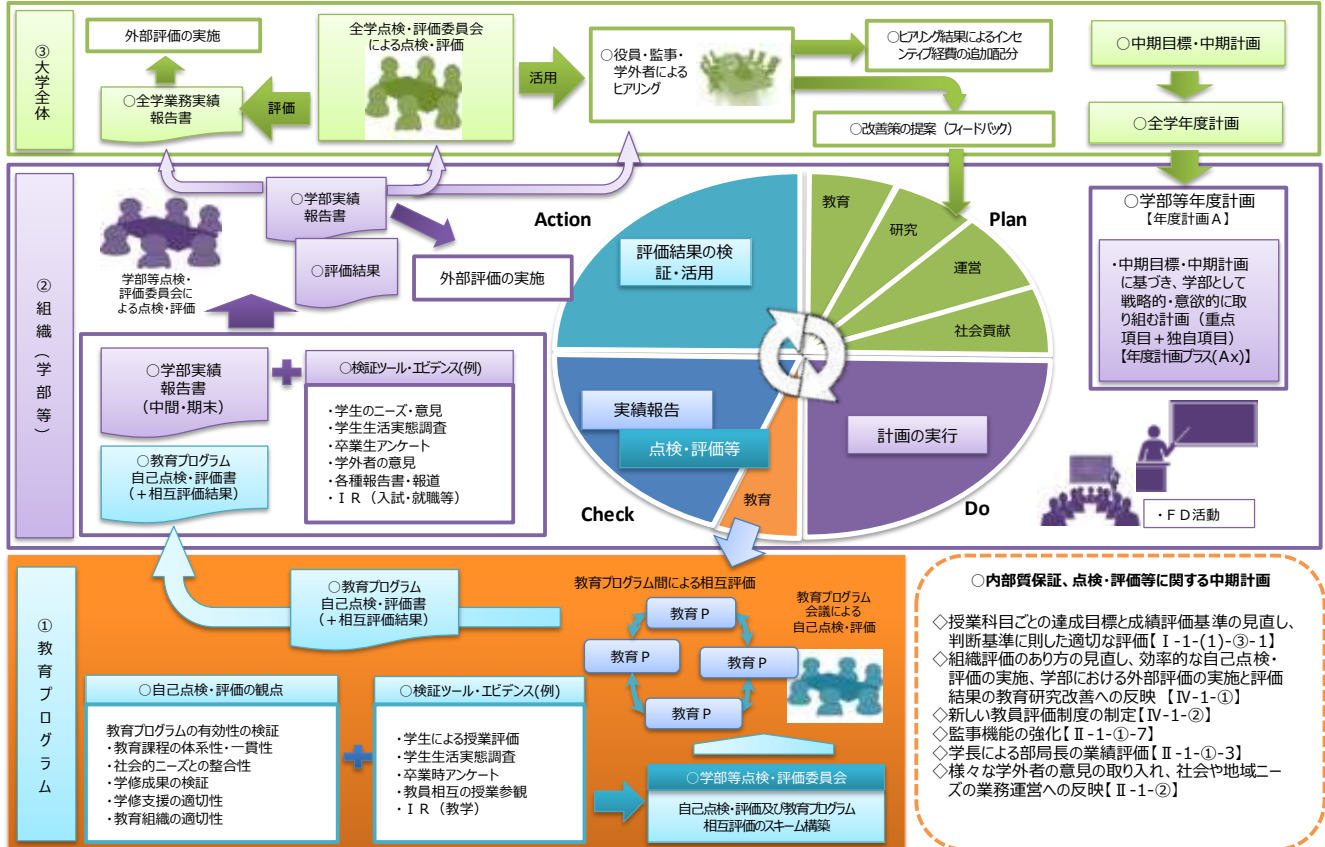


海外派遣学生の飛躍的増加



⑨【新たな「内部質保証システム」の導入】－PDCAサイクルの確立と実質化－ 平成28年度～

宇都宮大学内部質保証システム図



特徴

- ◇大学全体、部局、教育プログラムの3つの評価レベルの役割の明確化
- ◇第三者の視点を取り入れた評価の実施
- ◇エビデンスベースによる自己点検・評価の実施と諸活動の改善・改革状況の学内外への公表

導入による成果 (平成28年度)

- ◇全学的な年度計画と部局年度計画の関連性の明確化
- ◇部局年度計画に重点項目、独自項目を設定する「年度計画プラス(計画Ax)」の導入
→部局運営のメリハリ
- ◇点検・評価の結果を次年度の年度計画に反映できるよう計画、実績、評価のスケジュールの全面的な見直し →PDCAサイクルの実質化

評価結果等の活用 (平成29年度)

- ◇部局長 (学部長) の業績評価の実施
→部局長としてのリーダーシップの視点から取組の成果を確認
→役員 (監事を含む) との意見交換による期待・課題等の伝達

当年度の年度計画に反映

◇外部評価者を交えた各学部実績評価の実施
→外部評価者(経営協議会学外委員)及び監事を含む役員による各学部実績評価ヒアリングを実施
→ヒアリング結果を踏まえて役員により評価を確定

インセンティブ経費(学部等機能改善経費)を配分

総額24,000千円:学長戦略経費の12.6%に相当

アクションプラン2016 成果報告書の公表

- ◆配付
全教職員
学生の保護者
県内全自治体
経済団体
報道各社
- ◆HP掲載

アクションプラン2016 「地域の“知”を創造し変革をリードする大学に」

ビジョン

地域の“知”を創造し変革をリードすることによって地域の発展を支える「**地域活性化の中核的拠点**」としての機能を強化ため、**学長のリーダーシップ**の下で、「**地域の知の拠点形成**」,「**地域人材育成の基盤強化**」,「**グローバルリーダーの育成**」,「**地域イノベーションの創出**」,「**ガバナンス改革**」を**5大戦略**として**実行**する。

戦略① 地域の知の拠点形成

取組A

地域デザイン科学部設置による、地域課題解決機能の強化

取組B

高度専門職業人を育成する分野融合型の**新大学院組織**へ改革

取組C

地域創生推進機構による地域との共創機能の強化

戦略② 地域人材育成の基盤強化

取組D

大学教育推進機構設置と、教学IR、社会ニーズの分析に基づく教育の質保証の深化

取組E

教職大学院を核とする学校教育の質の向上

取組F

地域イノベーションを支える専門職業人育成と**工学部の全面改組**

戦略③ グローバルリーダーの育成

取組G

グローバルリーダーの育成強化（大学英語教育学会賞受賞プログラムや「トビタテ！留学JAPAN：地域人材コース」等の活用など）

取組H

次代の地域リーダーの育成：グローバルサイエンスキャンパス等高大連携事業推進

戦略④ 地域イノベーションの創出

取組I

フードサイエンス、ものづくり等、**工農融合イノベーション**：地域イノベーション戦略推進地域支援プログラム
ロボティクス技術を活用した地域イノベーション

取組J

世界に通じる**先端的研究**の開発・推進：光工学研究、感性工学、分子農学など

戦略⑤ ガバナンス改革

取組K

教員組織の一元化（教教分離）や大学運営を的確にマネジメントする「大学教育推進機構」の設置などのガバナンス機能の強化

取組L

年俸制の拡大、クロスアポイントメント制度、女性教員採用特別制度などによる多様な人材の確保

宇都宮大学：「地域の変革をリードする“知”の拠点形成」（地域発展を支える大学）

重点支援① 「主として、人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界 ないし全国的な教育研究を推進する取組等を第3期の機能強化の中核とする」



戦略①：地域の“知”の拠点形成
戦略②：地域人材育成の基盤強化
戦略③：グローバルリーダーの育成
戦略④：地域イノベーションの創出
戦略⑤：ガバナンス改革

様々なステークホルダーとの意見交換を経て
県内25の全首長との意見交換、栃木県知事や宇都宮市長など幹部との定期的な意見交換会、
経済同友会、地元自治会、各学部等同窓会との定期的な懇談会
地元マスコミ記者との懇談会

【地域の変革をリードする“知”の拠点形成】

Vision1 「行動的知性」の育成

Vision3 地域の強みを発揮するイノベーションを創出

学部改革

3C精神（Challenge, Change, Contribution）の醸成と地域活性化の拠点機能を強化

- **新学部設置**による5学部体制の確立と改革を全学に波及
- **組織改革の推進**：「地域デザイン科学部」の設置(平成28年度)、国際学部改組(平成29年度)、工学部改組(平成31年度予定)、教教分離(平成28年度)
- **「行動的知性」の育成**：AP事業や新学部設置を契機として、アクティブ・ラーニングの全学的推進
- **地域連携による教育研究の活性化**：COC事業や「地域イノベーション戦略支援プログラム」等を活用した地域志向教育研究の強化
- **グローバル教育の強化**：基盤教育での実践的英語教育の充実、トビタテ留学JAPAN等を活用した留学・語学研修などを拡充
- **教育の質保証**：ディプロマポリシーに対応した能力別の達成度を可視化しチャート化するなど、実質化・見える化を推進

Vision2 異分野を融合した柔軟な発想で新たな知を創造

Vision4 構成員一人ひとりの個性を活かした協働を推進

更なる改革の推進

- **「地域創生推進機構」の設置（H30年度予定）**：COC事業とCOC+事業を統合再編して持続的な取組とするために、また、従来の生涯学習などの市民教育を担っている地域連携教育研究センターや、産学連携の核としてきた地域共生研究開発センターを一つの機構として設置することによって、地域連携・支援やシンクタンクの役割による共創的機能を強化する。（新規にコーディネーター、URA、等の人件費を必要とする）
- **大学院改革（H31年度予定）**：既存の4研究科を1研究科に統合し、文理融合・分野融合から新領域への挑戦（「学際創生科学研究科（仮称）」）。
- **工農融合による地域イノベーションの創出**：地域イノベーション戦略支援プログラムと地域科学技術実証拠点整備事業(平成28年度)を核として、地域イノベーションの創出を支える教育研究を推進する。
- **地域志向教育研究の拡充**：独自資金（宇都宮大学3C基金）を活用して、COC事業等で取組んでいる地域志向教育研究を拡充する

学内資源の再配分とマネジメント & 弾力的な教員組織として教教分離の
確立と実質化 & 人事調整会議による全学的人事マネジメントなど
学長ガバナンスによる、改革を進めやすい制度変更

○経営協議会学外委員の意見や学長と県内25の首長との対談

厳しい地域社会の環境、少子高齢化や人口減少、経済の疲弊・・・、イノベーション創出による地域経済の活性化、社会科学系の学部のない大学＝地域行政との連携の弱さ、地域（＝現実の社会）と強く密着した社会科学系、地域（空間＋コミュニティー）の持続性、安心・安全は？複合的＝広域化した課題：社会制度づくり、まちづくり、防災・減災策・・・

○学長ガバナンス改革 人事システム、教教分離など

「地域を元気にするエンジン」としての宇都宮大学でありたい。
⇒ 地域そのものを対象とする文理融合の総合学を

まちづくりのプロを育てる**地域デザイン科学部**を平成28年度に設置
【理念】地域の持続的な発展に関する教育・研究・地域貢献を推進することによって、豊かな生活の実現に貢献



養成する人材像

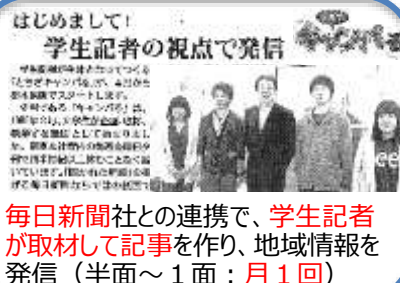
地域の課題を理解し、各地域の強み（地域資源・地域特性）を活かした**まちづくりを支える専門職業人**を養成

・アクティブ・ラーニングを実践した教育・地域と連携した教育

学部共通教育

“地域対応力”の養成

- 分野を融合して学ぶ仕組み
- 3学科混成の小グループ
- 学生・教員、全学科融合して地域デザインに関わる基本と応用を**総合的に学習**（1年次授業科目）
- ◇地域メディア演習
- ◇地域コミュニケーション演習
- ◇地域の姿と課題Ⅰ
- ◇地域デザイン訪問
- ◇地域デザイン学序論A・B・C



実践的学科専門教育

“専門分野”の確立

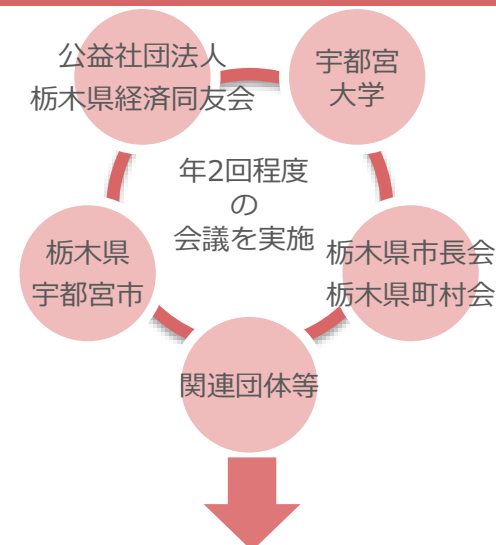
- コミュニティデザイン学科
- 建築都市デザイン学科
- 社会基盤デザイン学科
- 専門科目**アクティブ・ラーニング化100%**
- 学科専門を超えた**学修**
- 他学科科目の履修

総合力

地域プロジェクト演習・卒業研究

コミュニケーション能力やリーダーシップを身につけながら、**活かした総合力**を養い地域デザインの新たな力が芽生える。

地域デザインネットワーク



ネットワーク会議

機能	学部外部評価、学部への提案、成果の共有・普及、交流
会議構成員	地域デザインネットワークの構成員の内以下のもの ・自治体委員：県・宇都宮市を含み、県北・県央・県南にわたる若干名 ・企業・地域自治組織・NPO：若干名 ・地域連携に係る下図の委員長・学科長
外部評価を基軸とするPDCAの確立	
専門委員会	地域課題専門委員会 他 地域の実務者（自治体・企業・地域自治組織、NPO団体他）及び下記担当教員から、専門分野に合わせて組織

大学院「教育実践高度化専攻」「先端光工学専攻」の設置

県からの強い要望 + 学長ガバナンス改革 人事システム、学長裁量ポイントなど + (地元)産業界の強い要望

■ 大学院教育学研究科専門職学位課程 「教育実践高度化専攻（教職大学院）」

（平成26年10月設置認可：平成27年4月設置）
◆定員15名（現職派遣10名程度、学卒院生5名程度）
※栃木県教育委員会から現職派遣される者の入学料の半額は、栃木県教育委員会が負担。

○ 宇都宮大学教職大学院の特長

学校改革力

- ・学校課題を見極め、解決する力
- ・協働して課題解決に取り組む力

授業力

- ・授業研究を組織する力
- ・深い学びを保障する力

個への対応力

- ・特別支援教育の考え方を学習指導や学校経営に活かす力

育成する3つの力

◆最新の理論・指導法の幅広い学び
◆理論と実践のつなぎ（リフレクション）
◆学校現場に密着した実践研究

○ 教育学研究科の改組

総定員 70名→40名

修士課程

- カリキュラム開発専攻（定員7）
- 学校教育専攻（定員8）
- 特別支援教育専攻（定員5）
- 教科教育専攻（定員50）

専門職学位課程

- 教育実践高度化専攻（定員15）

修士課程

- 学校教育専攻（定員25）
 - ◆教育科学コース（4）
 - ◆特別支援教育コース（3）
 - ◆教科教育コース（18）

■ 大学院工学研究科博士前期課程 「先端光工学専攻」（平成27年4月設置） ◆定員25名

●強み特色を伸ばし、社会的役割を果たす（ミッション再定義）

工学部・工学研究科のミッション

◆光工学の強化 ◆感性情報学の確立 ◆大学院の拡充 ◆工農連携の推進 ◆文理融合の開拓

○ 先端光工学専攻の特長

- 光工学に関する基礎から応用まで（3つの科目群）
 - 基礎光学：**幾何光学、波動光学などの稀少科目、実務家による講義などの実践的基礎科目群
 - 応用光学：**様々な学問分野と光学を結びつける科目群
 - 感性画像光学：**視覚光学からディスプレイ技術、感性情報学までカバーする科目群
- 国際的に通用する高度な専門知識の修得
 - アリゾナ大学光学部の遠隔地受講生用講義（ディスタンス・ラーニング）の導入 等
- オプティクス教育研究センターとの協力体制
 - センターが有する光学関連企業等とのネットワークを活用した実践的光学教育

○ 工学研究科の改組

総定員 197名→212名

改組前	専攻	定員
改組前	機械知能工学	28
	電気電子システム工学専攻	28
	物質環境化学専攻	29
	地球環境デザイン工学専攻	25
	情報システム科学専攻	29
改組後	学際領域プログラム	37
	オプティクスプログラム	37
	機械知能工学専攻	37
	電気電子システム工学専攻	42
	物質環境化学専攻	33
	地球環境デザイン工学専攻	38
情報システム科学専攻	25	
先端光工学専攻	25	

宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

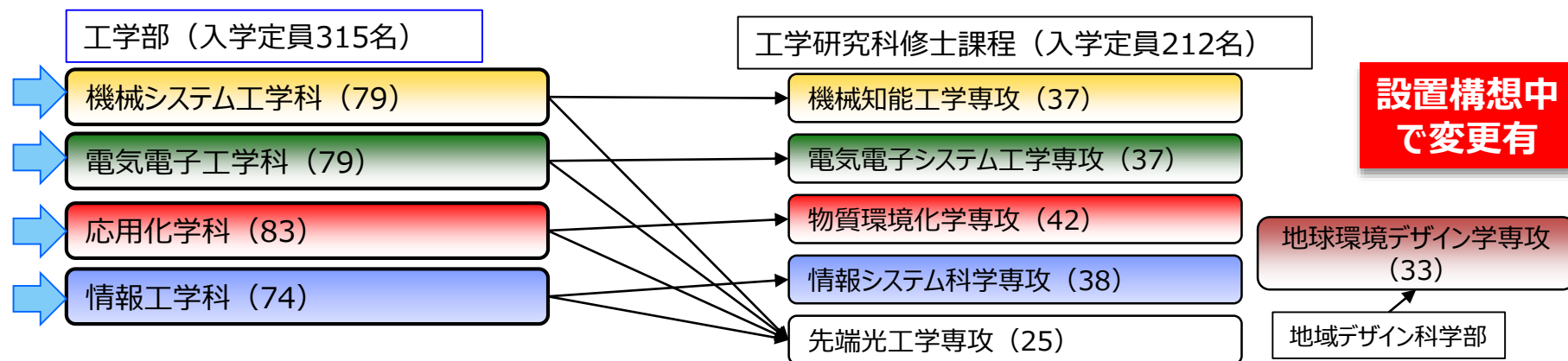
18

社会&地域ニーズに応える工学部の全面改組（平成31年度予定）

※本内容は、平成29年7月時点の構想であり、今後の検討により変更になる場合があります。

現状

学科別入試



改組後

H31年度
(2019年)

- 1 学科 3 コース = 学科構成の柔軟運用
- 工学基礎力および情報関連教育の強化
- 幅広い視野で学際領域を推進できる工学人材
- 強みである光工学教育の強化

工学部基盤工学科（入学定員315名）

基礎教育ターム

基礎数学科目群
物理系科目群
プログラミング
データ解析

倫理教育
生命人間科学
各コース導入科目

物質環境化学コース

機械システム工学
コース

光工学科目群

情報電子オプティクスコース

学際創生科学研究科（修士課程）
（入学定員333名）

地域創生科学専攻（92）
/ 地域社会デザイン学コース
/ 地域デザイン工学コース
工農創生科学専攻（241）
/ 光工学コース
/ 分子農学コース
/ 物質生命化学コース
/ 機械知能工学コース
/ 情報電気電子システム工学コース
/ 農林創生科学コース



一括入試

社会&地域ニーズに応える大学院全面改組（平成31年度予定）

※本内容は、平成29年7月時点の構想であり、今後の検討により変更になる場合があります。

理念

地域の変革をリードする「知の拠点」として，21世紀の**新しい課題や新領域に挑戦**することによって，高度な教育，研究，社会貢献を推進して，豊かな社会・生活の実現に貢献する

設置構想中
で変更有

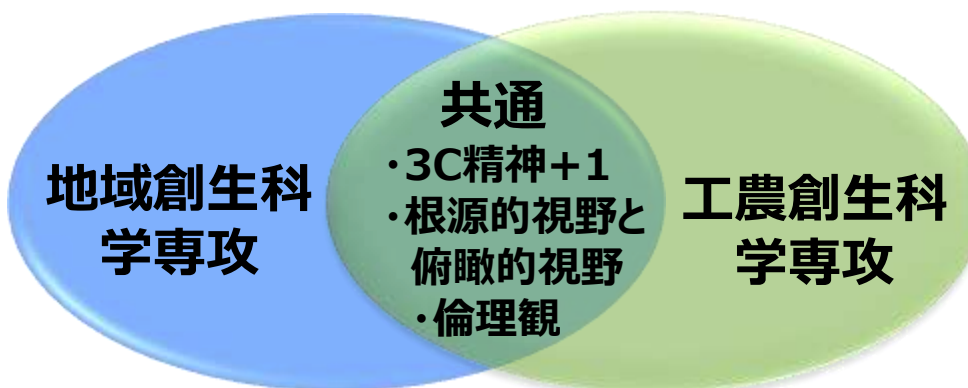
育人材

宇大スピリッツ3C精神+1（主体的にChallengeし，自らChangeして，社会にContributionする + Creation：創造的思考力・実践力）を持ち，**高度な専門的知識・技術**に加え，**根源的視野**や**俯瞰的視野**を持ち，社会や人間生活の発展に貢献できる人材

文理融合・分野融合による新領域への挑戦+俯瞰的・複眼的実践力養成

文理・分野融合し地域や国際的な課題解決を支える教育研究

地域社会デザインや地域デザイン工学、国際社会、多文化共生、人間発達など



工農融合による地域イノベーションを支える教育研究

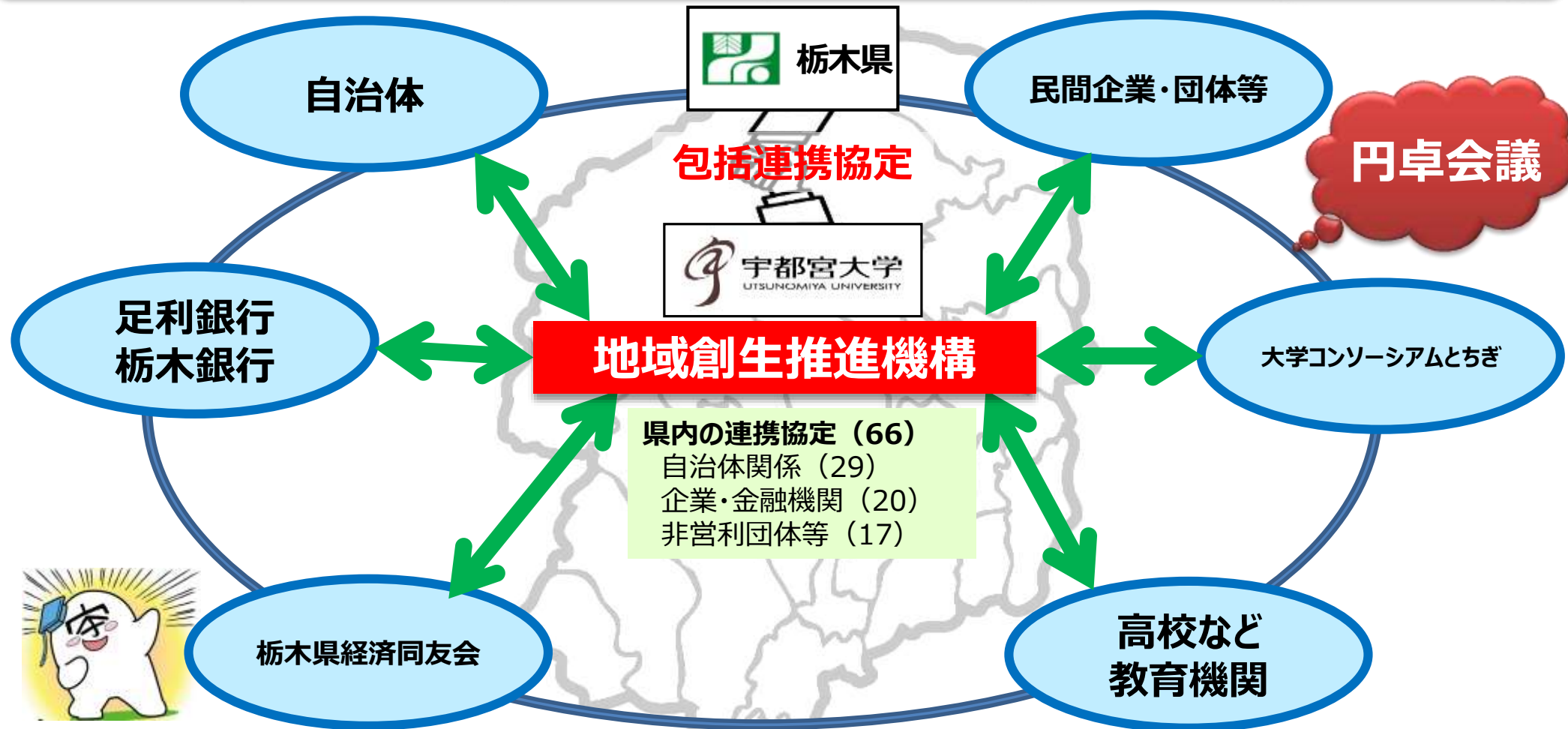
光工学、分子農学、物質生命化学、機械知能工学、情報電気電子、農林創成科学など

学際創生科学研究科 (名称は全て仮称)

地域との共創機能強化のために地域創生推進機構の設置（平成30年度予定）

県・地元産業界の強い要望 + 学長ガバナンス改革

- 地域とのハブとしてニーズとシーズのマッチング共創機能を強化
- “産学連携” “地域連携” “宇大アカデミー”の三位一元とワンストップ・ソリューション化



地域から宇大へのワンストップ・ソリューション

地域との円卓会議

地域創生推進機構

理事（機構長）1名

総合企画室

副学長（副機構長）1名
教員3名：ディレクター（各部門担当）

なんでも相談窓口 ワンストップ機能・学内調整

地域デザイン部門

自治体や教育機関等と協働

地域連携（行政機関）

シンクタンク的な役割

地域連携（団体、企業等）

CSR、CSVの観点から
幅広く社会的活動を支援

高大連携・大学間連携

高次の教育プログラムの開発実施、
地域人材育成の強化
○SSH等の高大連携
○グローバルサイエンスキャンパス
○トビタテ留学JAPAN
：地域人材コース

宇大アカデミー

社会人の学びを推進

オープン・アカデミー

ITを活用した教育発信

宇大未来塾

（平成29年度秋開講）

地域のニューリーダーの育成

- 「とちぎ志士プログラム」
- 「3Cものづくり経営講座」

UUカレッジ

（平成30年度開講）

大学の学問に関心がある企業人/市民に講義等を開放

Univ. of the 2nd/3rd Age

公開講座推進室

国立大初の「生涯学習教育研究センター」の伝統

産学イノベーション部門

産官学金連携を推進

産学コーディネーション&URA

地域志向研究の推進

知的財産

共同研究・受託研究

“御用聞き”機能の強化

研究環境

機器分析設備等の学内外の共同利用管理。ポスドク人材活用

栃木県重点戦略

- ものづくり産業の更なる発展
- 新たな成長産業の創出・育成
- フードバレーとちぎの推進

地域を支える専門職業人の育成と定着促進

県・地元産業界の強い要望 **+** 学長ガバナンス改革 学長裁量ポイント

宇大未来塾

未来を支える社会人の教育（平成29年秋開講）

大学の教育資源の活用と県内の関係機関・団体等との連携から、栃木県内の経済界・地域社会を担う若者を対象として、21世紀社会の変貌を視野に入れて、地域のニューリーダーの育成を目的に「宇大未来塾」を開講する。この塾は、魅力あふれる元気な“とちぎ”の実現に貢献できる人材を育成して、栃木県における「人づくり」「地域づくり」に寄与する。

【プログラム】

3C精神（Challenge Change Contribution）を持った魅力的な“とちぎ人”を育むために、宇大未来塾では次のプログラムを実施する。

- 「とちぎ志士プログラム」（学びの動機付け、人的ネットワーク）
- 「3Cものづくり経営講座」（ものづくり開発のマネジメント能力を養成）
（旧 MOT講座（栃木県産学官連携経営工学講座））

【組織】

塾長：石田朋靖（宇都宮大学長）

特別顧問：福田富一（栃木県知事）

特別顧問：小林辰興（栃木県経済同友会 筆頭代表理事）

顧問：飯塚真玄（株式会社TKC 名誉会長）

顧問：飯村慎一（光陽電気工事株式会社 代表取締役社長）

顧問：中津正修（トヨタウッドユーホーム株式会社 代表取締役社長）

シニアアドバイザー（代表）：関雅樹（株式会社栃木ブラックス 取締役会長）



「とちぎ志士プログラム」

2017年10月11日より毎月第2第4水曜日開講 10:00~21:00 宇都宮大学UUプラザ等にて
対象者：20代~30代の社会人で、自分の未来・可能性を広げようとする意欲のある者

栃木のトップリーダーが講師やアドバイザーとして、変化を創り出す力と価値、未来を創り出していく仲間とのネットワークが広がります。

変化を創り出す力と価値、未来を創り出していく仲間とのネットワークが広がります。

挑戦を支える強いコミュニケーション力、チームマネジメント力、社会を動かす力、課題の発見力と応用力を磨きます。

塾長からのメッセージ

不変な中で変化する未来に対して果敢に挑戦し（Challenge）、自らを変えながら（Change）、未来の夢をしっかりと地域社会の発展に貢献する（Contribution）。そんな3C精神を具えた社会の“とちぎの志士”と、その人的ネットワークを育てたいと思っています。 塾長 石田 朋靖 宇都宮大学長

宇大未来塾を支えるトップリーダー



塾長 石田 朋靖 宇都宮大学長



特別顧問 福田 富一 栃木県知事



特別顧問 小林 辰興 栃木県経済同友会 筆頭代表理事



顧問 飯塚 真玄 株式会社TKC 名誉会長



顧問 飯村 慎一 光陽電気工事株式会社 代表取締役社長



顧問 中津 正修 トヨタウッドユーホーム株式会社 代表取締役社長



シニアアドバイザー 関 雅樹 株式会社栃木ブラックス 取締役会長

工農融合による地域イノベーション栃木コンソーシアム



- ★スマート農業とちぎの拡大
- ★とちぎ特産物の高付加価値化と多面的利用
- ★ロボット技術への潜在的ニーズを事業化
- ★新産業創出や既存産業の高付加価値化



国際味覚審査機構
優秀味覚賞三ツ星



フード・アクション・
ニッポン アワード2016



発明大賞
東京都知事賞



宇都宮大学改革工程表：「地域の“知”を創造し変革をリードする」（地域の発展を支える大学）

第二期中期目標期間		第三期中期目標期間						
平成27年度まで		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	
戦略① 地域の知の拠点形成								取組 A
		継続 「地域デザイン科学部」を核とした地域の知の拠点形成						取組 B
		新大学院設置						
地域デザインセンターの設置		新規 地域の知を創造し変革をリードする知の拠点形成						取組 C
COCとCOC+の事業を活用した地域密着型教育・地域志向研究の推進								
具体的な取組	・地域デザイン科学部の設置 ・地域デザインセンターの設置 ・新大学院構想の確立 ・幅広い社会人向けの体系的教育プログラムの開設検討	・地域との共創機能やシンクタンク機能の強化 ・新大学院(修士課程)の設置申請 ・地域のニューリーダーの育成を目的に「宇大未来塾」開講 ・地域創生推進機構の設置に向けた準備	・地域創生推進機構の設置 ・マッチング機能とシンクタンク機能の強化 ・社会人の学び直しを支援する「UUカレッジ」開講 ・地域連携・地域志向研究に関する意見交換	・新大学院(修士課程)の設置 ・新大学院(博士後期課程)の設置申請 ・マッチング機能とシンクタンク機能の強化 ・地域演習プロジェクトの報告・発表会の開催	・マッチング機能とシンクタンク機能の強化 ・地域演習プロジェクトの報告・発表会の開催	・新大学院(博士後期課程)の設置 ・マッチング機能とシンクタンク機能の強化 ・地域演習プロジェクトの報告・発表会の開催		
戦略② 地域人材育成の基盤強化								取組 D
		継続 創造的 E M I R の導入と学生の学修データを活用した学修指導の高度化						取組 E
A P 事業によるアクティブ・ラーニングと学修評価システムの確立と拡充		教学 I R による教育の質向上サイクルの確立						取組 F
平成27年度 教職大学院の設置	継続	大学と県教育委員会との協働による教員の先進的職能成長プログラムの構築				教職大学院を核とする学校教育の質の向上への貢献		
地域イノベーションを支える専門職業人の育成(地域志向科目の開発と実施, P B L 教育の拡充など)								
具体的な取組	・ E M I R 担当教員, D B 構築担当教員, 学修支援担当教員配置 ・ファクトデータ生成システム, 学生統合データベースの構築, アドバイジング機能の高度化 ・県教育委員会主催ミドルリーダーを対象とする研修参画等	・学生カルテシステムへのファクトデータの連結 ・ファクトデータを利用した教学マネジメントの試行 ・教職大学院修士生及び連携協力校へのフォローアップ方法の開発・評価等	・ E M データ活用による入試広報の改善 ・教学 I R レポート作成 ・指導教員向けマニュアルの整備 ・「ミドルリーダー教員の資質能力」ルーブリックの試用と評価	・基盤教育と専門教育それぞれで養成しているジェネリックスキルと知識技能を多面的に評価するシステムの確立 ・カリキュラムモデルの構築 ・ルーブリックの公表, 県内教育センター等との共有	・アクティブ・ラーニングの体系化と全学的展望 ・課題解決へ向けた実践力の養成 ・体系的教育実践科目, 学校ボランティア拡充, 実務家教員による実践的授業 ・地域を担う地域志向科目, 人材育成プログラム整備・創設 ・海外及び地域企業でのインターンシップの充実・拡充 ・実践型・課題解決型教育プログラム(P B L 教育)の拡充			
説明		機能強化促進分		競争的資金等		学内財源等(予算要求事項)		

第二期中期目標期間		第三期中期目標期間					
平成27年度まで	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	
戦略③ グローカルリーダーの育成							
「トビタテ！留学」JAPAN：地域人材コース」、栃木県・経済同友会による海外留学支援などを活用した留学機会・環境の拡充							取組 G
継続	地域経済・社会の変容をリードするグローバルな実践力向上のプログラム構築			多様な国際交流プログラムの積極的展開			取組 G
グローバルサイエンスキャンパス事業「君が未来を切り拓く！～宇大の科学人材育成プログラム～」				グローバル高大接続の展開			取組 H
具体的な取組	・English for Academic Purposesの教材を各学部の専門分野に応じて開発し、英語教育プログラムを充実する。 ・海外の卓越校との大学院生の研究交流を推進する。 ・各学部が連携し、グローバル・カリキュラムの拡充を図る。	・国際学部の改組 ・各学部の専門分野に応じて開発したEnglish for Academic Purposesの教材を評価点検し、内容を充実させる。 ・新たな海外英語研修プログラムの実施に向けた準備等。	・平成29年度までに具体化した事業については引き続き充実・評価するとともに、事業の評価・点検を行いつつ、更なる内容の充実、新たな施策の検討を行う。	・全学副専攻（グローバル人材育成プログラム）の拡充 ・「トビタテ！留学JAPAN：地域人材育成コース」による留学の推進 ・国際標準教育制度導入、単位等等価交換システムによる相互留学制度の確立 ・デュアルディグリープログラム、海外インターンシップや海外語学研修プログラムの拡充 ・サマー・ショートプログラムの構築・実施 ・教職センターを核として教育委員会等との連携を強化し、高校生向け教育プログラムを充実させ入試を弾力化 ・グローバル化に対応する地域貢献事業の全学的展開			
戦略④ 地域イノベーションの創出							
地域イノベーション戦略推進支援プログラム「とちぎ特産物の多面的高度利用によるイノベーション」				フードバレーとちぎを支える地域イノベーションの推進			取組 I
バイオイメージング技術の総合的推進事業			新規 ロボティクス技術を活用した地域イノベーション加速化事業				取組 I
平成27年度 先端光工学専攻の設置	世界に通じる先端的研究の開発・推進、光工学分野の国際ネットワーク形成による世界的研究拠点の形成						取組 J
具体的な取組	・高輝度極端紫外光源や極端紫外顕微鏡の開発と細胞内器官の観察 など	・先進的ロボット技術による地域潜在イノベーション推進拠点の整備 ・高輝度極端紫外光源の開発と極端紫外顕微鏡の開発と細胞内器官の観察 など	・地域志向研究を活性化して、新産業の創出や既存産業の高付加価値化に結びつく地域イノベーションを創出 ・「雑草鳥獣管理学講座」の設置	・工学部の改組 ・地域志向研究を活性化して、新産業の創出や既存産業の高付加価値化に結びつく地域イノベーションを創出 ・フードバレーとちぎの推進 ・光工学分野研究の推進（国際的ネットワークによる世界的研究拠点形成） ・工学・農学分野における特色のある研究の推進			
戦略⑤ ガバナンス改革							
教授会における役割の明確化など		ガバナンス機能の強化					取組 K
		人事・給与システム改革					取組 L
具体的な取組	・「教教分離」の導入 ・「若手教員テニュアトラック制度」の導入	・「クロス・アポイントメント制度」の導入 ・宇都宮大学内部質保証システムの実施	・大学教育推進機構の設置 ・新「教員評価制度」の導入	・女性教員、若手教員の積極的採用 ・在職職員の年俸制適用への加速 ・業績給の設定 ・積極的な情報発信を行う広報体制の強化			

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

GUIDE BOOK for 2018

宇大で学び、宇大で出会う。

国立大学法人 宇都宮大学
平成30年度入学案内



国立大学法人

宇都宮大学

地域デザイン科学部 国際学部 教育学部 工学部 農学部 大学院

学長メッセージ

“宇大スピリット＝「3C精神」で未来を開拓しよう!”

宇都宮大学では、宇大スピリット＝「3C精神」を大切にしています。これは、明るい未来を開拓するために「Challenge」＝主体的に挑戦し、「Change」＝時代の変化に対応して自らを変え、さらに「Contribution」＝広く社会に貢献するという意味を含めた言葉です。これらを大学の空気として醸成し、学生と教職員が一体となって未来を開拓していく強い決意を込めています。

教育においては、未来を拓く「行動する知性」を養ってもらうため、多くの新しい試みを積み重ねています。全国的にも有名な「基盤教育英語」もそのひとつです。また多くの科目で「アクティブラーニング」という形式を積極的に取り入れています。受け身になりがちな大学での教育を変え、具体的な課題に対して学生同士が主体的に議論しながら考えを深めていくものです。

特に、本学は中規模国立大学であり、学生数に限られており、教職員と学生との「顔の見える距離」が保たれています。このメリットを活かし、学生一人ひとりと向き合った指導をすることで、アクティブラーニングを始めとする新たな教育を効果的に実践していると自負しています。

また2016年度、国際学部、教育学部、工学部、農学部などの4つの学部に加えて、新たに地域デザイン科学部を設置しました。変化する社会に対応し未来を開拓する教育を提供するため、宇都宮大学自身も3C精神によって進化しています。

宇都宮大学は、「日本で一番に学生を大切に育てる大学」でありたいと願い、教職員が熱意を持って、学生の目線に立った支援をしています。

皆さん、宇都宮大学で学び、ともに未来を開拓していきましょう!

宇都宮大学長 石田朋靖

宇都宮大学の理念と方針

宇都宮大学は、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献することを理念とし、広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践するため、次の基本的な方針を定めています。

1. 幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成します。
2. 持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進します。
3. 地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開します。

宇都宮大学のアドミッション・ポリシー

求める学生像と受入れの基本方針

1. 未来を切り開いていこうとする夢と情熱を持っている人
2. 知的好奇心に富み、専門職業人として持続可能な社会の形成や発展に貢献したい人
3. 教養と専門知識を修得するための基礎的な学力とコミュニケーション能力を持っている人
4. 自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人

宇大スピリット＝「3C精神」
～明るい未来を開拓するために～

Challenge……主体的に挑戦し
Change……時代の変化に対応して
自らを変え
Contribution…広く社会に貢献する

Guide^{for} 2018
book
UTSUNOMIYA
UNIVERSITY

CONTENTS

学長メッセージ	01
目次	02
キャンパスマップ	03
宇都宮大学の特色 1 基盤教育英語プログラム EPUU	05
宇都宮大学の特色 2 短期海外語学研修	07
宇都宮大学の特色 3 キャリア教育・就職支援	09
宇都宮大学の教育システム	11
教職センター	13
学部・大学院 INDEX	14
地域デザイン科学部	15
コミュニティデザイン学科	17
建築都市デザイン学科	18
社会基盤デザイン学科	19
国際学部	21
国際学科	23
教育学部	25
学校教育教員養成課程	27
工学部	29
機械システム工学科	31
電気電子工学科	32
応用化学科	33
情報工学科	34
農学部	37
生物資源科学科	39
応用生命化学科	40
農業環境工学科	41
農業経済学科	42
森林科学科	43
大学院	45
国際学研究科・教育学研究科	45
工学研究科・農学研究科	46
教育研究施設	47
学生支援（入学料・授業料・奨学金・学生寮）	53
学生支援（附属図書館・健康管理センター）	54
国際交流	55
課外活動	57
入試情報	59
周辺環境とアクセス	65

国際学部／教育学部／農学部



宇都宮大学の 特色 1 基盤教育英語プログラムEPUU

EPUU

「宇都宮大学の総合的多面的英語教育改革」により

**2013年度大学英語
教育学会賞(実践賞)受賞**



EPUUの特徴 1 テーマは「浴びる英語」

「浴びる」ための施設「EPUU Stations」は6種類8教室！



CALL ラボ

コンピュータがあなたの発音を直します



DVD ラボ

最新DVDが1,300枚、観たい映画はここにある



READING ラボ

絵本から専門書まで、とにかく英語で読みましょう



クリニック

ネイティブ講師常駐の会話指導室です



シアター

シアターの椅子は映画館より「本物」みたい



EXPO

EPUUの授業を覗いてみよう



EPUUの特徴 2 TESOL教員団

英語ネイティブ教員と、英語圏の大学院でTESOL(英語を母語としない人への英語教授法)を修了した日本人教員による集団運営のプログラム



全1年生約1,000名の

学生評価は現在

4.75 (5点満点)

EPUUの特徴 3 習熟度別授業 — 充実した Honors Program —

入学時のTOEICにより1年次生は4～5レベル、1年修了時のTOEICにより2年次生は2レベルの、習熟度別クラス

TOEICスコアが650点以上の学生 (Honors Student) 用のHonors Program



全学部全学年のHonors Studentと一緒に授業「Honors English」



毎週ネイティブの先生から1対1の会話指導「English Clinic」



日光や那須で2泊3日の英語合宿「Honors Camp」

~~1年次科目~~

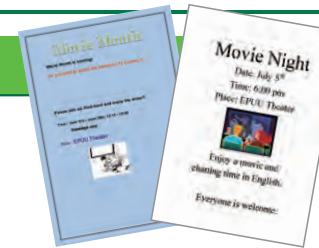
2年次科目

「飛び級制度」で1年次から2年次科目の履修

EPUUの特徴 4 教材は本物の映画！

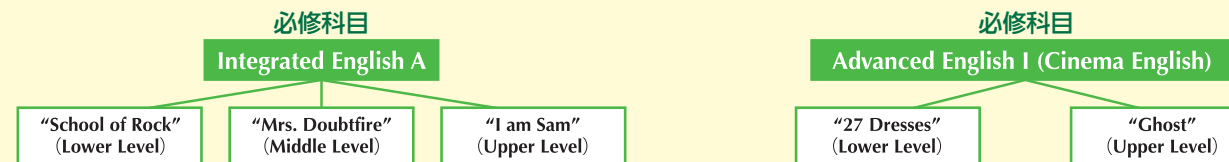
ナマの映画を教材として活用！

1年生は全員、週1回、CALLラボを使用した映画英語教材による授業
2年生には選択必修の「Advanced English I (Cinema English)」



映画英語
スペシャルイベント
**Movie Month
Movie Night**

2017年度使用映画

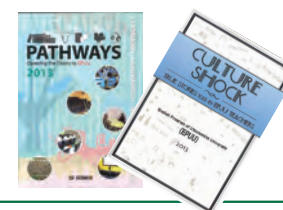


EPUUの特徴 5 「学生目線」の英語教育

教授法・教材開発、発行物、イベント等、プログラム運営は常に「学生目線」で、学生が望むものを！

EPUU オリジナル教科書

EPUU 生だけのために、
EPUU 教員団が自ら作成！



年2回発行の プログラム機関紙 EPUU TIMES

身近な EPUU の話題について英語で読みます！

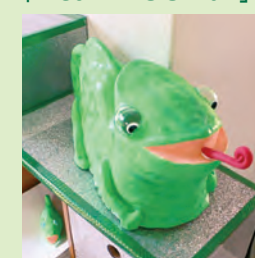


英語学習強調週間



1週間毎日英語による特別授業を実施
英語による専門入門の講義もあります

質問や要望は、投書箱
「Dear EPUU-kun」へ



Voice



農学部 応用生命化学科3年
金子 美幸
(群馬県立太田女子高等学校)

EPUUの1年次必修科目の担当は、峯恵里菜先生(週2回)と、Steve Dooley先生(週1回)でした。いずれも習熟度別の少人数クラスで、アクティビティ中心の授業でした。高校の時の教科書を読んだり文法を習ったりする授業と違い、映画や歌を教材に、活きた英語、使える英語を学べて、とても楽しかったです。

峯先生は日本人なのですが、お母さまがイギリス人なので英語ネイティブで、発音がきれいで「優しい癒し系のお姉さん」という感じで、落ち着いて受講できました。ちょっとテンションのところが可愛い峰先生をクラス全員が大好きで、毎回の授業を皆で楽しみにしていました。



イギリス人のDooley先生は、背が高く、身体が大きくて、初めての授業の時にはそのサイズに圧倒されました。ユーモアたっぷり、一人一人の学生を丁寧に指導してくださいました。少しでも日本語を口にすると「Japanese?」と言われてしまうので、英語だけで話すよう一生懸命努力しました。



あまりに授業が楽しいので、次第に「英語を頑張ろう!」と自分で思えるようになり、英単語や口語表現などを、主体的に熱心に勉強するようになりました。入学10ヶ月後に受けたTOEICはスコア200点以上も上がっていて、なんとなんと650点以上取得した人のHonors Studentの仲間入りをしていました。自分がまさかHonorsになれるとは夢にも思っていなかったので、心底ビックリしました。嬉しかったです！

2年生の夏にはHonors Campに参加してみました。帰国生でもないのにHonors Studentになった自分自身に感激し、留学生や帰国生が多数参加するHonors Campの雰囲気を知ってみたいと思ったのです。「自分のできるだけやっていても、成長できない。まだ他のHonors Studentみたいに英語ペラペラではないけれど、勇気を出して飛び込んで、成長してみたい!」と考えました。PresentationやDebate、APAを使って書く英語論文など、とても苦労しましたが、高レベルの学生達の中に入って頑張ることにより、強い刺激を受け、勉強のモチベーションも上がりました。

これから卒業までの2年間は、EPUU Clinicに毎週通い、ネイティブの先生方との1対1の会話を、もっと上手にできるよう頑張りたいと思っています。

サザンクロス大学

Southern Cross University

オーストラリア

外国語臨地演習(英語)／海外英語研修

担当教員 国際学部
メッセージ 佐々木 一隆 教授

この海外英語研修はオーストラリア東部海岸近くのサザンクロス大学で行われます。プログラムは2週間の英語研修とホームステイが中心で、1年生から4年生までの計20名が参加可能であり、全学部の専門教育の授業として位置付けられています。本授業の目標は、オーストラリアの文化、社会、自然などを教室の内外で学びながら英語の総合能力を高め、ホームステイによる生活を通じて英語圏の国々で暮らせる力を身につけることにあります。特に、2週目の後半には本海外英語研修の締めくくりとして、各学生の特定の専門領域あるいは自然や環境などの一般的な見地から、オーストラリアと日本を比較する英文エッセイを書き、そのエッセイに基づいて英語でプレゼンテーションを行います。また、現地の学生やホームステイ先のホストファミリーとの深い交流を通じて、異文化体験をすることもできます。

プログラムの主な内容は、サザンクロス大学の教員による2週間の英語研修であり、宇都宮大学の夏休み期間中(8月末から9月上旬)に実施する計画です。国際学部の英語ネイティブと日本人教員による事前・事後指導も行い、両教員は可能な範囲で研修に同行する予定です。海外での英語研修には日本では得られない効果があり、貴重な体験もできます。各学部からの積極的な参加を期待しています。

担当教員 国際学部
メッセージ Andrew Reimann 准教授

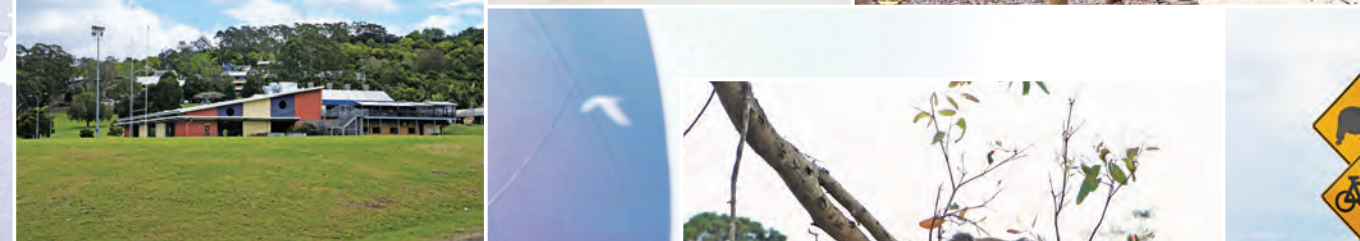
The English program at Southern Cross University is a great opportunity for students to improve language and communication skills, while studying specialized information and content related to their majors. The exchange is also an effective and enjoyable way to learn and experience culture, interact with international students and participate in Australian family life as part of a home stay. During the two-week stay, students will take interesting communicative classes, join activities on campus and in the local area, explore nature and engage with the local population and customs. Some of the highlights of the program include wild life viewing on and around the campus, whale and dolphin watching on the Gold Coast, a hands on tour of the koala refuge center, an evening of camping and stargazing, and several other field trips and outdoor activities on and around the campus. The teachers and staff are all very friendly and professional and the facilities are very modern, clean and comfortable. Overall the two weeks at Southern Cross University are an unforgettable life changing experience. Participating in this program is one of the best ways to improve your English, learn about culture and make lasting memories.

参加学生 農学部 生物資源科学科3年
メッセージ 遠藤 誠

私は農学部ということもあり英語に触れる時間が少なかったため、英語の中でも特に英会話はあまり得意ではなく、好きではありませんでした。そのため、到着してから母国語が通じない環境に窮屈さを感じていました。しかし、2週間の英語漬けの生活の中で、英語は日本語と同様に「生きていくうえで必要なコミュニケーションツールでしかない」ということに気づきました。それからは積極的にホストファミリーや先生と話すようになり、英語を話すことが楽しくなったと思います。そういった意味ではあの2週間で、語学以上に人間的に成長できたと確信しています。



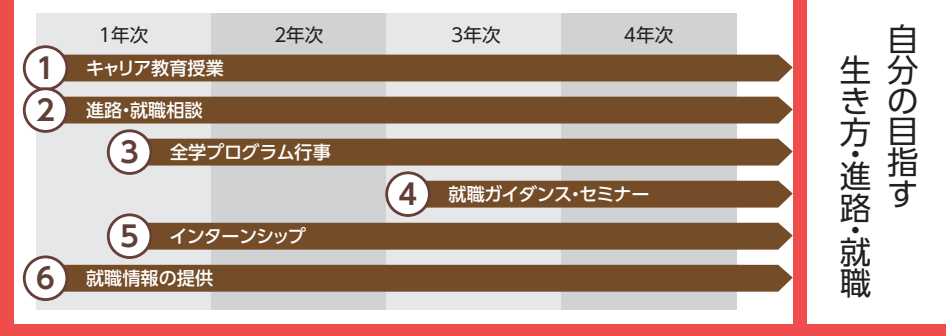
そしてこの語学研修で手にした最高の思い出や仲間は一生の宝です。もし行こうか迷っているなら、絶対に行くべきだと思います。海外で学ぶ英語や文化には何にも代え難い価値があるからです。そんな素晴らしい体験をするチャンスに学部や学年は関係ないと思います！



キャリア教育・就職支援センター

学生生活の中で将来の生き方や職業とのかかわりについて考え、主体的にキャリア形成を行えるようにするキャリア教育と、就職ガイダンス・セミナーの実施、就職情報の提供などの就職支援を一体的に行い、学生の進路選択、就職活動をサポートします。

キャリア教育・就職支援センターによるサポート



キャリア教育・就職支援センターHP <http://www.career.utsunomiya-u.ac.jp/>

1 キャリア教育授業

1・2年生のうちから社会の状況に目を向けるとともに、自分や自分らしい生き方について考え、学生生活の目標を立て具体的な進路・職業選択ができる目を養います。

基礎的キャリア科目

キャリア教育科目の一部をご紹介します

働くとは?キャリアとは?自分の生き方を考えます

自分が生きている社会に関心を持ち、働き方等の実態を正しく理解すること。
様々な人の人生に触れ、「働く」を理解し、そこから、自分を知り、感じ、考えていくこと。これらの授業では、このことを大切にしています。

人間と社会	キャリアデザイン
働くことを考え、進路を選択する時に基本となる産業・企業経営の動向、雇用・労働の現実と問題点等について、最新の情報を学生目線で解説します。	自己理解のための演習、自分のキャリアモデルへのインタビューとグループワークなど様々な体験を通して、職業や企業、働くこと、自分についての理解を深めます。将来をよく考える具体的なキャリアプランを描くための基礎科目です。



受講者の声

- 将来のビジョンを想像するとき、「不安」な気持ちがとても大きかったが、受講後は「わくわく」するくらい前向きな感情を持てるようになりました。
- 今まで知らなかったことや、様々な価値観を得ることができました。
- この授業を受けていなかったら、ぼんやりしたまま大学を卒業するところでした。
- この授業を受ける以前は、公務員になることばかりを考えていました。他の道を考えることができなかったのは、自分が知らないことばかりで、本当に成功できるのか不安が大きかったからです。この授業を受け、自分の可能性や能力を見直そうと思いました。

起業の実際と理論

～アントレプレナーシップ(起業家精神)の養成～

この授業では、起業でも企業でも必要な力、「アントレプレナーシップ」の養成を目指しています。講義の他に、起業家・経営者との対話もあり、授業の中でビジネスプランを作成し、発表します。学生は楽しみつつも真剣そのものです！



受講者の声

- とにかく本当に良かったです。やらなくてはならないことが見えました。
- 授業で出てきた「自分の環境を見つめ直す」という言葉が胸に響きました。今の環境に甘んじているところもあると感じるので、よく考えたいと思いました。
- 起業家・経営者のお話を伺って、時間がたくさんある大学生のうちに自分の世界を広げることが大切だと分かりました。

その他の授業

「より良く生きる」「働くことの意味と実際(グローバル時代のキャリア形成)」「企業のグローバル戦略とキャリア形成」「グローバル時代の企業経営」等

2 進路・就職相談・個別就職支援

「将来について考えたい!」「自分に向いている職業は?」など、キャリアアドバイザー等に毎日相談できる体制が整っています。
また、学生個々の状況に応じた相談や求人開拓、求人紹介など、きめ細かな就職支援を行っています。

4 就職ガイダンス・セミナー

- ・就職ガイダンス「いよいよ始まる就職活動」
- ・就職ガイダンス「業界・企業・職種研究法」
- ・ビジネスマナー講座
- ・エントリーシートの書き方・面接対策講座
- ・自己理解セミナー
- ・学内合同企業・公務員等説明会
- ・就活支援バスツアー
- ・公務員面接対策
- ・教員採用対策セミナー
- ・筆記試験対策講座
- ・職務適性テスト
- ・外国人留学生のための就職セミナー

5 インターンシップ

■職場体験型インターンシップ

企業や官公庁など、実際の職場で仕事を体験します。
社員と同じような分野で働く中で、企業・仕事・働くことを理解するものです。

■課題発見・解決型インターンシップ

通常のインターンシップとはひと味違った全学年対象の新しいインターンシッププログラム!

地域社会の職業人と関わり合いながら、組織が抱える課題に対し、学生がチームとなり具体的な提案を行っていく実践型のインターンシップです。職業意識、チームワーク、課題解決力、主体性、チャレンジ精神、組織理解・自己理解...これから社会で活躍する上で必要な力を身につけます。



キャリア・カフェ

キャリア教育、就職関連図書や資料を自由に閲覧し、学生が相互に情報を交換する場

キャリア・カフェは、将来について考えたい学生や就職活動をしている学生たちの集まる場所です。学生同士がコーヒー・紅茶を飲みながら、情報交換をしたり、キャリアアドバイザーによる就活ミニセミナーや、JUST主催の就活講座を開催しています。

キャリアを考えるため!
就職活動をする上で!
情報がたくさん!

- ・就職活動に役立つ書籍等
- ・公務員・教員の試験対策本
- ・日経新聞・経済雑誌
- ・就職情報



- 自由に使えるパソコン!
- 自分に合った職業を診断するシステムがあります!
- 昼休みを利用したミニオープンセミナーを開催!
- 本格的なコーヒーマシンでコーヒーや紅茶が飲めます♪

3 全学プログラム行事 “キャリアフェスティバル”

毎年秋に開催されるキャリアフェスティバルは、宇大独自のイベントで、全学年を対象とした、キャリア教育プログラムのひとつです。産業界や企業が不透明なグローバル社会の中で、どのような経営戦略の下に進もうとしているのか、どのような人材を求めているのか。今後の学生の将来を取り巻く環境や業界・企業の動向・考え方を学ぶ機会を提供しています。



業界を代表する企業約10社を招いてパネルディスカッション、分科会を行います。



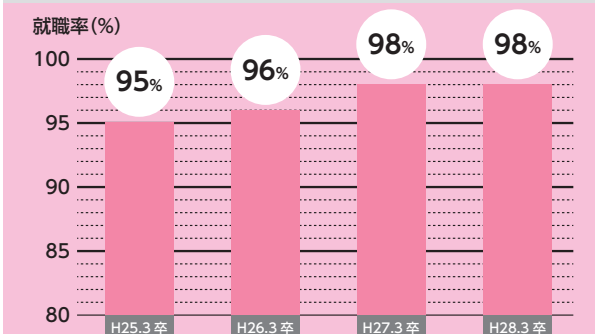
YouTube
宇都宮大学チャンネル
※スマートフォン推奨

6 就職情報の提供

求人・セミナー情報等はUU Career Navi(Web上の検索システム)に、公務員・教員等の募集案内、就職関連雑誌等はキャリア・カフェや図書館3Fキャリア教育資料コーナーにあります。

Check! 高い就職率

キャリア教育、手厚い就職支援のもと、高い就職率を維持しております。



学生団体 JUST (Job hunting Uda! Support Team)

宇大就活応援団

JUSTとは、後輩の就職活動をサポートしている内定者の団体です。就職イベントを企画・実施したり、体験記を作成したりして、後輩に就職活動の体験を伝えています。身近な先輩なのでちょっとした疑問でも聞きやすい、先輩の生の声がとてもためになる、とイベントや冊子は大好評です。



宇都宮大学の教育システム

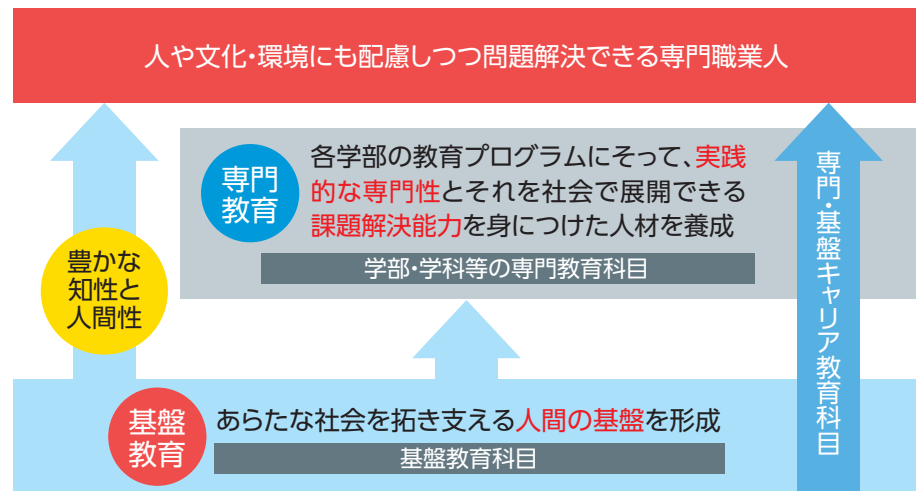
本学の学士課程教育は、全学部で教員が協働で実施する「基盤教育」と、学部・学科等ごとに実施される「専門教育」の二つの部分から構成されています。

教育目標

専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成をめざします。

具体的には

- 1.現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性、そして、知と行動力を統合した行動的知性を育成するための「基盤教育」(P12)を行います。
2. 実践的で専門的な知識を修得するための「専門教育」(P14)を行います。
- 3.それらのふたつを有機的に結びつけた4年一貫教育により、問題解決能力を身につけ、“あらたな社会”を拓き支える人材を育成します。



また本学では、実施する教育活動の全貌を前もって分かりやすく知らせておくことが重要であると考え、

- ①どのような人材に養成するかを明示した“教育プログラム・シラバス”
- ②科目ごとの到達目標や成績基準を明示した“教科シラバス”
- ③学修・教育達成目標がどの教科によってどのように達成されるかを一覧表にした“確認マトリックス”

を作成しています。これらを有機的に連携させ、教育の質を保証するシステムを構築すると同時に公開し、社会への説明責任を果たしています。

“Learning+1” (ラーニングプラスワン)

Challenge・Change・Contribution

意欲的に挑戦し(Challenge)、自らの可能性を広げ(Change)、広く社会の発展に貢献(Contribution)することを期待しています

“Learning+1”(ラーニングプラスワン)とは

現代の多様に複雑化する諸課題に対する理解を深め、解決に向けて行動するためには、複眼的な知識や視点を身につけることが大切になってきています。そこで、学部における専門教育にプラスして、多様な他の領域の知識や能力を身につけることができる“Learning+1”を用意しています。自主的かつ意欲的に学ぶ領域を広げ深めることによって、「人間力」を高め将来の可能性を広げることがサポートします。現在、グローバル人材育成プログラムおよび高齢者共生社会プログラムを開設しています。

“Learning+1”プログラム例

グローバル人材育成プログラム

グローバル化社会での地域活性化、
多文化共生地域づくりを担う人材の輩出

修得される具体的な能力

- A 英語の運用能力
英語によるディスカッション、プレゼンテーション能力
- B 社会人としての基礎力
「問題から出発した専門家」の育成、課題発見力
- C 異文化の理解力・活用能力
「異文化の差」の認識、興味、行動、新しい価値の創造力
- D 地域経済活性化を担う力
国際的な分野での専門知識、問題解決能力
- E 多文化共生地域をつくる力
地域におけるグローバル化への課題認識と対応力
- F 社会的弱者の視点に立つ力
強者と弱者、異なる立場・状況との共生、多面的構想力

詳しくは、「宇都宮大学の学士課程教育2017ー学生の皆さんへの約束ー(冊子)」またはホームページをご覧ください。

URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/research/index.php>

広がる学びの世界

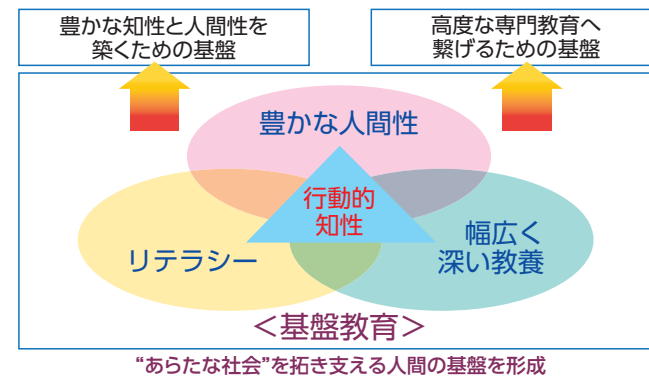
基盤教育

入学したすべての学生は、1・2年次を中心に基盤教育科目を受講します。基盤教育とは、幅広い教養を身につけて豊かな人間性を育むことを目的とした科目群のことです。近年は、実社会で即戦力となり得る人材の養成が求められています。そこで、宇都宮大学の基盤教育では、アクティブラーニングの推進や自由な学習空間ラーニング・commonsの開設など、学生の主体的学修を支援する取組を進めています。

人間の基盤を形成する 基盤教育科目

大学入学後は、専門教育に加え多くの教養教育を学びます。宇都宮大学では、この教育を「基盤教育」と呼んでいます。基盤教育は、4年間の学びの根や幹となり、大きな花を咲かせる上で欠かすことができない大切な学修です。宇都宮大学では基盤教育での学修を、しっかりと支援しています。

なぜ基盤教育を学ぶのか？



豊かな人間性を培う テーマ別教養科目

単位数の多い教養科目の履修では、学生の皆さんの学びの特性を活かした6つのテーマごとに履修ガイドが示されています。ガイドに沿って履修すれば、専門とは異なる学問分野について系統立てて学ぶことができます。

	人文科学系	社会科学系	自然科学系	初習外国語系	総合系
栃木・日本					
世界・地球					
感性・表現					
生命・環境					
情報・技術					
高齢社会を生きる					

学びの特性に応じて
6つのテーマごとに
科目が開講されて
います

主体的な学修 アクティブラーニング

アクティブラーニングとは、一方的に授業を聴くだけではなく、学生自身が課題を意識し、主体的に「学ぶ」学修スタイルを指します。グループワークやフィールドワーク、レポートなどのフィードバックやe-ラーニング活用の推進を通じて、学生とのコミュニケーションを重視する双方向型の授業づくりを進めています。



自由な学びの空間 ラーニング・commons

ラーニング・commonsは、自主的な学修のために24時間いつでも自由に利用できる学びの空間です。グループワークに適した机・椅子やホワイトボードなど学生同士の学びを促進するための設備があり、グループ討論などの経験のある専門スタッフが授業時間外の学生の学びをサポートします。



アクティブラーニングが取り入れられている授業と、ラーニング・commonsなどでの授業外学修とを合わせることで、自ら課題を見つけ、考え抜き、一歩前に踏み出す力などの行動的知性の獲得へ向けた能動的な学修が可能となります。

専門教育

▶P14

教職センター

教育委員会や地域の学校と連携し、教員養成から教職生活までをサポート！

宇都宮大学全体の教職課程の企画運営を統括するとともに、教職を目指す学生への支援と宇都宮大学の教育資源に期待する教育現場への支援を総合的に行う「教職センター」が2014年度生まれました。

社会の姿とそこで生きる人材像が大きく変わる時代に、「生涯にわたって学び続ける教師」を育て、支えるために、教育学部はもとより大学全体の力を結集して地域教育界に貢献します。

全国有数の
教員就職力を
さらに強化
します！

教師になりたい あなたをサポート

こんな教師を育成します！

- 人間力と高い専門性を備えた教員
- 理数に強い教員
- グローバル化への対応

そのために・・・

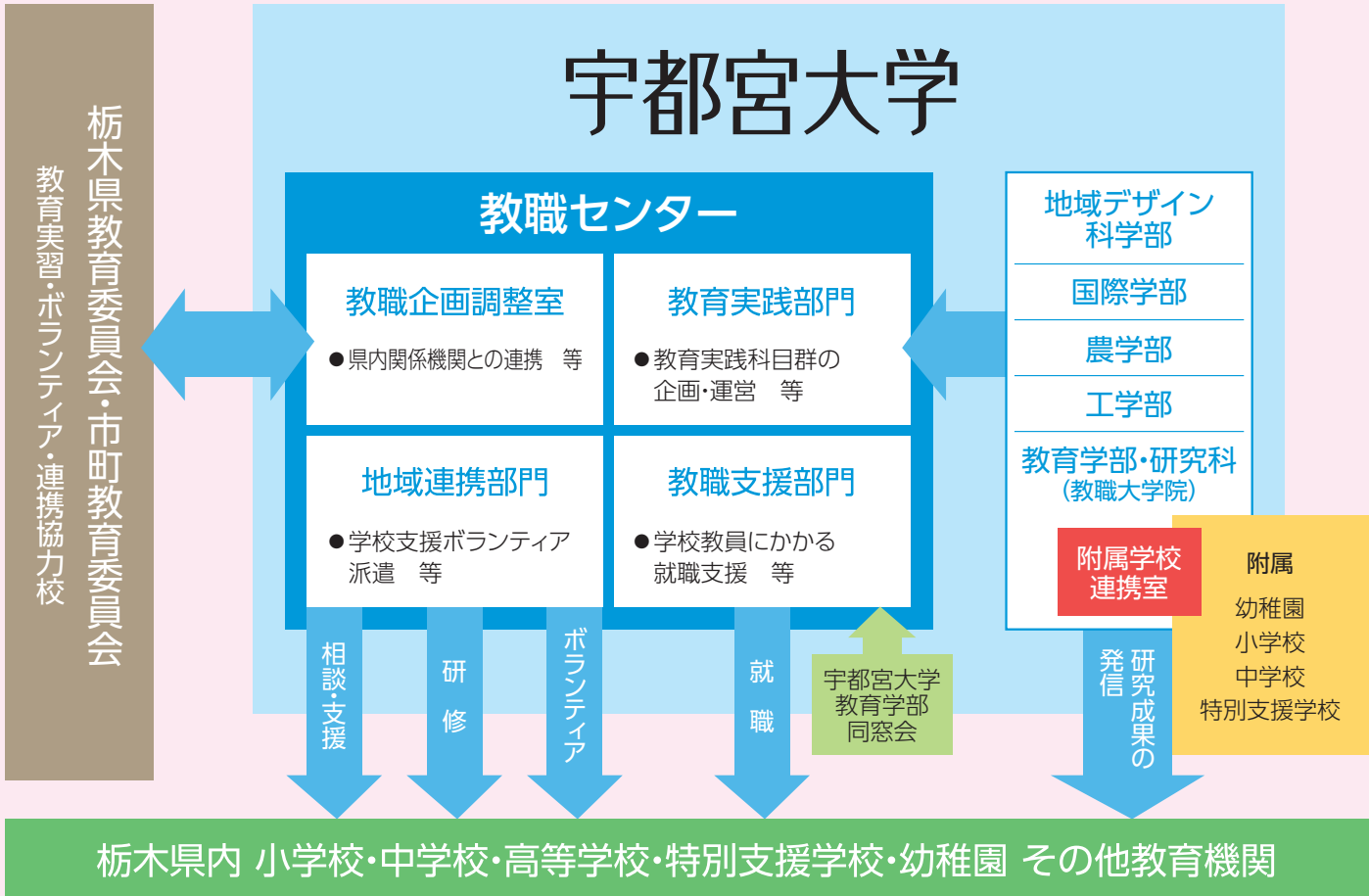
- 学校現場体験の充実
- 学内連携による教職プログラム
- 教員養成カリキュラムの継続的改善

教師になった あなたもサポート

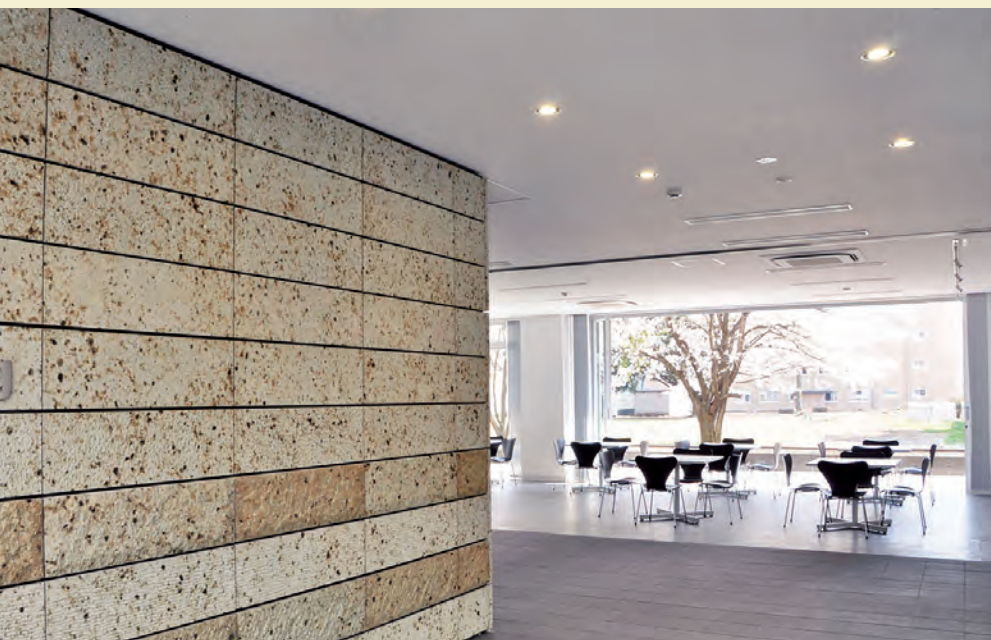
地元の教育界に貢献します！

- 学校現場に生きる研究の推進
- 学校ボランティア、学校支援の充実
- ニーズに即した現職研修の実施
- 栃木県教育委員会との連携による
県内教員就職者の増大

卒業後もフォローアップをします！



地域デザイン科学部



地域の未来を科学の力で

8号館エントランスラウンジ

皆さん一人ひとりが地域を
創る主人公。
共に“とちぎ”で学び合おう。



地域デザイン科学部長
塚本 純

地域デザイン科学部は、“まちづくり”を支える専門職を養成することを目的に、平成28年4月に発足した新しい学部です。「地域の未来を科学の力で」をキャッチフレーズに、教育・研究に取り組みます。本学が立地する栃木県の、都市、農村、豊かな自然など多様なフィールドを活かすとともに、地域とのつながりを大切にしながら、地域の“知の拠点”として活動していきたいと考えています。文系から理系、実践家から理論家、持ち味のある魅力的な教員が、お待ちしております。様々な課題に興味を持ち活動的な学生さんに入ってきて欲しいと思います。皆さんとともに地域で活動しながら学ぶことを心待ちにしています。



学部の教育・研究方針

地域デザイン科学部は、地域の持続的な発展に関する教育・研究・地域貢献を推進することによって、豊かな生活の実現に貢献することを理念とし、平成28年4月に設置されました。“地域デザインの実践力”を身につける、新しい学部です。

今、私たちの身近にある「地域」では、急速に進む少子高齢化、地域経済の衰退とそれに伴うコミュニティ機能の低下、自然環境の大きな変化と自然災害の大規模化などを背景とした、多くの新しい課題があります。こうした課題に対して、課題発見・分析から解決策の提案まで、分野を超え、また多様な主体の協働による“まちづくり”を進める必要性が高まっており、それらを支える知識・技術が社会から強く求められています。

地域デザイン科学部では、各地域の資源や特性を活かしながら多くの新しい課題を解決して21世紀の地域社会を持続可能で豊かにするために必要な教育・研究・地域貢献に取り組めます。学生は、“まちづくり”を支える専門職へ向けて、公共政策、福祉のまちづくり、建築設計、居住環境、都市計画、防災といった、分野横断の“まちづくり”に関わる幅広い知識と専門技術を、文系理系の枠にとらわれず総合的に学びます。

特徴的な学部の活動

学部生全員が1年次から3年次にかけて地域で実践的に学び、「地域対応力」を段階的に身につけます。

特徴1：地域について実践的に学ぶ

“地域と向き合う力”
1年次の「地域デザイン訪問」などで、地域が直面している課題や地域の歴史・文化・自然について知見を深めるとともに、コミュニケーションの基礎力を養います。

“地域の実態を調査し分析する力”
1年次の「地域デザイン学序論」で基礎的学問分野と地域デザインとの関わりを学び、複眼的視点から調査し分析することの重要性に触れます。その後、2年次の「社会調査法」などにおいて、調査・分析する具体的手法を身につけます。

“地域の課題を解決する力”
3年次に、「地域プロジェクト演習」などによって、総合的・実践的な力としての地域課題を解決する力を養います。

特徴2：3 学科混成文理融合の授業を開設

学部共通授業の多くは、学科の枠を超えて、地域での学修により“協働力”を培います。例えば、「地域プロジェクト演習」(3年次必修)は、地方自治体、民間企業などと連携し、学部を横断した学生チームが栃木県内での“地域デザイン”を実践します。

地域デザイン科学部のよくある Q & A

Q 文系の受験生、理系の受験生は、それぞれどう学ぶことになりますか？
ー文理融合した総合的な教育について教えてくださいー

A 文系学科として、地方自治や観光、福祉などの観点から地域社会について学ぶ「コミュニティデザイン学科」があります。受験は文系からでも理系からでもできます。また、理系学科として、人に優しい居住環境や都市あるいは安全で持続可能な社会基盤整備について学ぶ、建設系の「建築都市デザイン学科」と「社会基盤デザイン学科」があります。

そしてどの学科でも、1)3学科混成文理融合の学部共通授業、2)専門科目の学科間の乗り入れ、3)教員間の組織的連携により、文理融合した総合的な教育を実現します。他分野の教員・学生との交流を積極的に経験することで、理系のことも分かる文系人材、文系的素養を持った工学系人材を養成します。

Q 工学部の建設学科や、教育学部の総合人間形成課程は平成28年度入試情報から掲載がありませんが、なくなってしまったのですか？

A そんなことはありません！
建設学科の建築学コースと建設工学コースは、それぞれ新学部の建築都市デザイン学科と社会基盤デザイン学科に移行しました。建設学科の受験を検討していた方は安心して新学部を受験してください。従前の学びに加えて地域デザインに関する新しいカリキュ

ラムも学修できます。
また、教育学部の総合人間形成課程は募集停止となりましたが、そのエッセンスを受け継ぎコミュニティデザイン学科として生まれ変わります。こちらの受験もぜひ検討してみてください。

Q 「地域デザイン科学」とはどのような学問分野ですか？何を学ぶのか教えてください。

A 「地域」とは、一人ひとりの身近にある空間、学ぶ対象、学びのフィールド、学びを還元するところとらえています。学びのフィールドは栃木県になりますが、そこでの学びは他の地域での活動にも必ず役立つ、普遍的なものです。「デザイン」とは、課題解決へ向けた道筋、すなわち設計です。「設計」という言葉には工学的な意味もあるし、社会科学的な制度や政策の立案も含まれます。

栃木県は、都市、農村、豊かな自然など多彩なフィールドがあり、全国の縮図としての性格を持っています。宇都宮大学は、「地域デザイン科学」を実践的に学ぶのに最適なところですよ。関連する幅広い知識と専門技術に加え、多様な主体が協働し、分野横断的な技術をまとめ上げていく総合的な活動について学びます。

入試のアドバイス

ここでは前期日程についてアドバイスします。AO入試、その他入試情報は本学ホームページをご覧ください。

はじめに、コミュニティデザイン学科では、文系、理系どちらでも受験可能です。文系型と理系型の差はありませんので、高校での履修状況を踏まえ得意な方で受験してください。また、個別学力検査では英語に加えて国語又は数学から1科目課します。センター試験で理系型を選択した人が国語を選択しても、文系型を選択した人が数学を選択しても問題はありません。建築都市デザイン学科では、数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数Bを課します。ただし、数Ⅰについてはデータの分析を除きます。また、数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数Bについ

ては確率分布と統計的な推測を除きます。

社会基盤デザイン学科では、建築都市デザイン学科の上記科目に加えて、物理基礎・物理を課します。建築都市デザイン学科も社会基盤デザイン学科も、大学入試センター試験については広く基礎学力をはかり、理科では物理を必修科目としています。また、個別学力検査等では思考力と論理的に表現する能力を評価するために記述式の問題を多く出題します。

以上のとおり、志望する学科に合わせた対策を練ってチャレンジしてほしいと思います。



学 生 メッセージ

コミュニティデザイン学科2年
塚田 貴大
茨城県立下妻第一高等学校卒業

大学生活では、今までとは違い、多くの時間が与えられるので、どんどん新しいことに挑戦してみることが大切だと思います。私たちの学部学科は、新しく開設したばかりです。私自身まだこの先どのような道に進んでいくのか、はっきりしていません。将来のことを考える必要もありますが、学んでいくうちに自分のやりたいことや、興味ある分野がきっと見つかるはずなので、まずは大学生生活を楽しく過ごしましょう。先輩や先生方、そして一緒に学ぶ仲間があなたをサポートします。有意義な学生生活になるよう応援します！



学 生 メッセージ

建築都市デザイン学科2年
大場 稜平
宮城県古川高等学校卒業

地域デザイン科学部は、昨年度より新設された学部です。この学部では、3学科合同の授業が多数あり、他の学科の学生や先生方と意見を交わすことができ、建築の知識だけにとどまらず、多方面から刺激を受けられることが魅力であると感じています。建築の必修科目である設計の課題は想像以上にハードで、辛く感じる時もありますが、同じ学科の友達と試行錯誤し、課題に取り組む時間は自分にとって貴重なものであり、同時に完成した時の達成感是非常に大きなものです。大学4年間で、設計・技術・地域社会などについて学び、社会・環境・人間の気持ちの変化をしっかり捉えられる建築士を目指し、意欲的に取り組んでいきたいと思っています。

コミュニティデザイン学科

新たなまちづくりに向けて社会システムを支え、
魅力ある地域をデザインする

地域社会の成り立ちや課題を理解するために必要な、幅広い教養を身につけるとともに、地域と連携してさまざまな現場を訪れ、体験しながら学習を深めます。さらに、公共政策、地方自治、経済、自然、文化、食生活、観光、社会福祉、社会教育、NPOなどの専門的な分野を専攻しながら、これらを応用した地域デザイン能力を養い、21世紀の地域社会の担い手として、行政機関や民間企業、NPO等で率先して活躍できる人材を育てます。

教育プログラムの特徴は、以下の3点です。

- 1. 地域の自然、文化、生活と社会システムの視点を融合した学際的教育
- 2. アクティブラーニングによる実践的な地域課題解決能力の養成
- 3. 社会人としての基礎力とソーシャルスキルの養成

専門科目

社会システム領域科目：
公共政策入門、行政学、公共経済学、地方自治論、行政法、公共マネジメント、プロジェクト評価論等

地域資源領域科目：
地域資源論、地域食育論、文化マネジメント、農村起業論、観光地理学、食資源活用実習、観光学実習、景観解析等

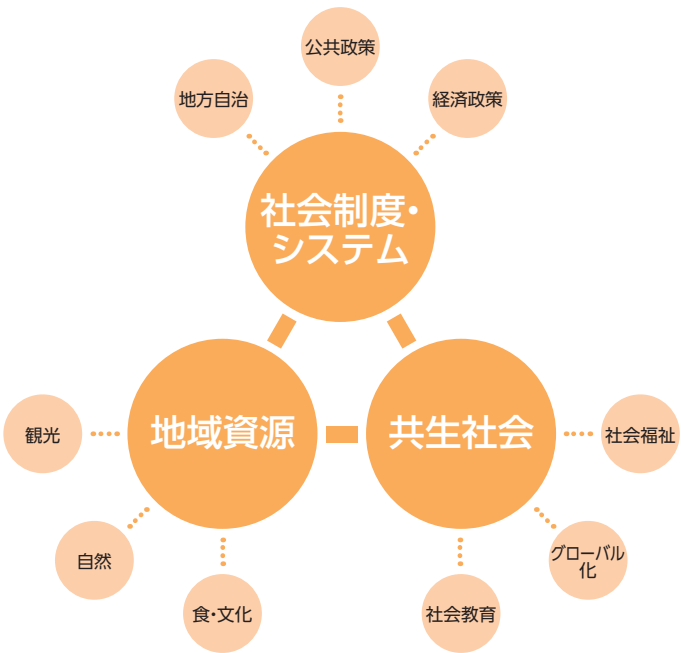
地域実践領域科目：
高齢社会学、地域社会学、地域実践心理学、地域福祉論、NPO論、会話分析入門、多文化理解論、福祉社会学等

卒業後の進路

地域公共リーダーとしての就職先
行政職の国家公務員、行政職の地方公務員
特別職国家公務員(国会職員、裁判所職員等)
金融・保険業
NPO職員 等

地域資源リーダーとしての就職先
観光・旅行業、食品開発加工業、JA、農産物生産加工後継者、コンサルタント業、シンクタンク、ベンチャー企業 等

地域協働リーダーとしての就職先
社会福祉関連法人、コミュニティ施設・社会教育施設、公務員(地方自治体一般行政職)、非営利組織、地域貢献型企業
データ調査会社、その他(大学院など)



資格・免許

- 社会調査士 ●社会教育主事 ●社会福祉主事
- 高等学校教諭一種免許状(公民)

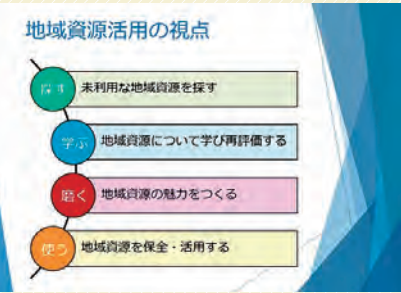
授業紹介

●授業名 **地域資源論** ●他の担当授業名 地域生態学／GIS演習



●教員
高橋 俊守 教授

資源とは、人が何らかの目的をもって働きかける対象を意味します。人は、地域にある様々なものに目を向け、これらを活用しながら暮らしてきました。このため人が暮らしてきたところには、長い年月をかけてつくられた、有形無形の地域資源が随所に認められます。たとえば、美しい農村の景観、人里付近の生き物、清らかな水や空気、伝統的な方法による工芸品や農作物、古くから伝わる伝説や民話、歴史ある神社や寺と祭り、そこで培われた人々のつながりさえも、地域資源の一つなのです。この授業では、地域資源のとらえ方や魅力を解説するとともに、とちぎにある地域資源の様々な事例と活用方法について幅広く学んでいきます。



授業紹介

●授業名 **高齢社会学** ●他の担当授業名 応用社会学／会話分析入門



●教員
中川 敦 准教授

新聞・テレビなどで、高齢者介護・高齢者福祉に関する問題が取り上げられない日はありません。この講義では、高齢社会を生きる私たちが、実際に直面する可能性のあるこうした問題を取り上げ、学生の皆さん各々が、そうした問題にどのような「態度」で向き合えば良いのか、ディスカッションを通じて探る、そうした試みを行ないたいと思います。具体的には、この数十年の間に劇的な変化を見せた「認知症ケア」の歴史をたどりながら、自らをその歴史の中に投げ込み、「老い衰えゆくこと」を社会が、そしてあなたがどう扱うかを考えてみます。現在、認知症ケアでは「本人の思いの尊重」が重要な理念として掲げられています。しかしその理念はなぜ重要なのでしょうか。そしてその理念はどの程度まで実現しており、していないのでしょうか。そうした現実を理解するためにも、あなた自身がこの高齢社会で何を問い、そして何を「思う」のか、を考えることは、若い皆さんにとっても決して無駄なことではないのです。

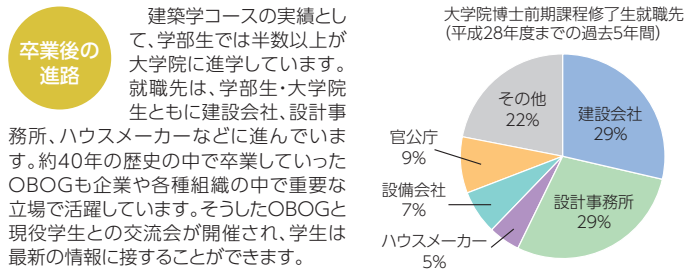


建築都市デザイン学科

建築都市デザイン学科は、1978(昭和53)年に工学部に設置された建築工学科以来の建築教育の伝統をもつ学科です。これまでと同様に、建築学の基礎を学び、一級建築士の国家資格を取得できる素養を身につけるとともに、建築の先端技術や建築をとりまく社会の構造変化を理解します。また、少子高齢化社会、エネルギー問題、防災・減災に基づく安全・安心社会形成などへのリスク対策を学び、各地域に応用する力を養います。さらに、都市・地域の空間を創造する新たな地域デザインとしての建築のあり方を追究します。

社会とつながる様々な学びの機会

4年生・大学院生は、各分野の研究室に所属して、研究や設計に取り組みます。研究室では外部の組織や企業等との共同研究などが行われており、そうした活動の中で、外部の実情に触れる機会も増えます。また在学中に、学業以外の幅広い経験の機会として、企業や自治体でのインターンシップや国内外への建築学外実習などが行われ、学生の自発的な活動の機会が数多くあります。さらに、実際の地域課題に取り組むことで、建築の仕事に関わる異業種の人と連携する力を培い、社会をハード・ソフトの両面から支える人材を育てます。



専門科目

建築都市デザイン学科では、数学などの理数系基礎科目、英語や情報処理基礎、そして人文科学系、社会科学系および自然科学系の科目などを履修することで、社会人・技術者としての幅広い教養とリテラシーを身につけ、専門科目履修のための基礎を形成します。これらは主に1～2年次に履修します。

建築都市デザイン学科の専門科目は、必修科目と選択科目とから構成されます。必修科目は、建築学全般について基本的事項を学修するためのものであり、定められた全ての科目を履修するように学問上の体系と学修の順序が考慮されています。選択科目は、やや専門化した分野について学修するためのもので、上記のような各専門技術者向きの内容の選択を可能にし、各自の将来の進路に適した知見が修得できるように構成されています。

さらに、卒業設計と卒業研究の両方が必修科目であることが一つの特徴です。修得した幅広い建築に関する知識の集大成として「卒業設計」を行い、また、各自でテーマを定め、修得した高度な専門技術を発展させて卒業研究を「卒業論文」としてまとめることによって建築都市デザイン学科のカリキュラムを完了することになります。

設計系：建築図学、建築設計基礎、建築設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、建築地域設計製図
構造系：建築構造力学Ⅰ・Ⅱ、建築構造力学演習Ⅰ・Ⅱ
計画系：建築計画学Ⅰ・Ⅱ
環境・設備系：環境工学Ⅰ、設備工学Ⅰ、建築環境実験
材料・構法系：建築構法、建築材料Ⅰ、建築生産、建築材料実験
再生・安全系：建築コンバージョン論、バリアフリー建築論、建築法規
総合系：卒業研究、卒業設計

資格・免許

- 一級建築士受験資格(卒業後実務経験(2年)が必要)・二級建築士受験資格
- インテリア・コーディネーター
- 福祉住環境コーディネーター
- 宅地建物取引主任

授業紹介

●授業名 **建築地域設計製図** ●他の担当授業名 建築デザイン



●教員
安森 亮雄 准教授

建築設計の学習は、スケッチや図面模写などを通して、空間創造と図面表現の基礎について学ぶ「建築設計基礎」から始まります。2年次から3年前期にかけては、「建築設計製図Ⅰ～Ⅲ」において、住宅や公共建築などの様々な建築の設計方法を学びます。これらを経た3年後期の「建築地域設計製図」では、地域再生などの現代的な課題に対して、建築とその周囲の地域を含めた設計提案を行います。いつでも使えるデザインスタジオ(製図室)で、ひとり1台の製図機が与えられ、同級生や先輩後輩と切磋琢磨しながら学びます。地域のフィールドに赴き問題を発見するための観察力と、講義で得た知識をまとめる統合力、新たな空間を生み出す創造力、さらにそれを人々に伝える表現力が養われます。4年生では、自ら敷地やテーマを設定して設計提案を行う「卒業設計」へとつながってゆきます。



ゼミ紹介

●研究室名 **建築再生安全研究室** ●担当授業名 建築コンバージョン論／バリアフリー建築論／建築史Ⅱなど

●教員
中島 史郎 教授

●教員
古賀 誉章 准教授

●教員
大嶽 陽徳 助教

近年、環境問題への懸念から建築の再生に関する関心が、自然災害への脅威や国内人口の高齢化などから建築の安全に関する関心が高まっています。当研究室では、こうした建築の再生や安全に関して、建築材料、建築構造、建築計画、環境工学、建築意匠などのさまざまな観点から研究を進めています。例えば、建築物の分別解体と解体材の再資源化に関する研究、新しい木質材料・構造に関する研究、高齢者やこどもの視点からみた生活環境全般の評価と改善に関する研究、空間や環境の認知に関する研究、および時間経過のなかでの建築意匠に関する研究などを行っています。

●卒業論文の例

- 新しい木質材料・構造に関する研究
- 構造用単板積層材の面内せん断性状
- 製材パネルを床版とする鋼構造建物の水平構面の面内剛性評価
- 木質構造の接合部のクリープ破壊性状の評価

[高齢者やこどもの視点からみた生活環境全般の評価と改善に関する研究]

- 過疎地域における福祉型複合コミュニティのあり方と施設運営

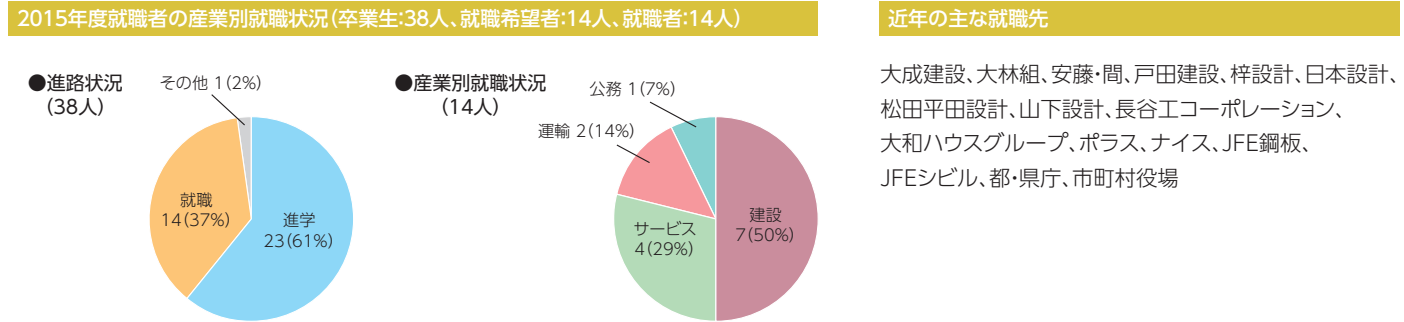
[空間や環境の認知に関する研究]

- 空間の広さと対人距離と行為の違いによる個体間の引込現象
- エレベーターのドア付近の人の動きによる乗降時間への影響



建設学科建築学コース※の就職・進路情報

※工学部建設学科建築学コースは、2016年度入学生より、地域デザイン科学部建築都市デザイン学科に改組しました。



社会基盤デザイン学科

社会基盤デザイン学科では、最先端の科学技術を融合して、安全で持続可能な社会基盤をデザインする人材を育成します。

人々の暮らしを支える社会基盤を多様な視点からデザイン・建設するために、従来の土木工学分野の基礎である構造力学、コンクリート工学、水理学、土質力学、土木計画学等に加えて、コミュニティデザインや防災マネジメント、海外プロジェクトなど、学際的な分野と連携する力を磨くことが特色です。

さらに、地域の課題や建設技術の現場を実際に体験することで、実践的な人間力を高めていきます。これにより、社会状況や地域住民の生活、自然環境を多角的に考慮して、実際の地域に応じた技術開発や施策提案を行い、国内外で活躍できる建設技術者を養成します。

本学科で学ぶことで、1)自然科学をもとに社会基盤デザインの専門知識を理解できる力、2)社会基盤整備のために多様な分野の技術を応用・開発できる力、3)世界の動向をつかみグローバルに技術を展開できる力、4)問題解決のために最適な社会基盤デザインを提案できる力、5)社会基盤の整備や施策を着実にやり遂げることができる力、を身につけることができます。

専門科目

社会基盤デザイン学科では、幅広い知識を持って多様な分野や地域社会と協働でき、グローバル社会においても活躍できる土木技術者の育成のため、以下のようなカリキュラムポリシーを定めています。特に学科の専門科目においては、学習効果を高めるためにアクティブラーニングの手法を導入し、教員や学生同士の双方向型授業を実施します。

1～2年次において、数学、物理などの自然科学の基礎、人文、社会科学など地域デザインの基礎を学び、次いで、社会基盤整備の基礎となる構造、材料、水工、地盤、計画等の土木工学の各分野の基礎知識や理論を学習します。

3年次では、上記の専門基礎を実際の問題にどのように適用し解決すべきかについて、演習や実験などの授業科目を通じて体得します。また各分野において、より発展させた知識・理論を学習します。これらと並行して、総合的なマネジメント、最前線の現場でのインターンシップなど、土木技術者にとって必要な幅広い知識、経験が得られるようにします。

4年次では、修得した知識・経験の集大成として、総合的に実践する場となる卒業研究に着手し、問題発見、分析方法や解決策の提案、計画の立案および実行、これらの結果取りまとめによる報告書や論文の執筆および発表に取り組み、社会基盤整備に携わる専門技術者がなすべき一連の仕事を完結できるようにします。

基礎系：社会基盤解析法I・II、応用力学序論、測量学、社会調査法

構造系：構造力学I・II、構造工学I・II

流域系：水理学I・II、流域環境学I・II

地盤系：土質力学I・II、土質基礎工学

計画系：土木計画学、都市計画、交通計画、国土計画

材料系：コンクリート工学I・II、鉄筋コンクリート工学

マネジメント系：海外プロジェクトI・II、海外プロジェクト演習、防災マネジメントI・II、防災マネジメント演習

総合系：卒業研究、土木工学実験、地域デザイン倫理、土木工学通論、社会基盤設計演習、社会基盤インターンシップ

資格・免許

●測量士補

授業紹介

●授業名 **防災マネジメントI** ●他の担当授業名 防災マネジメントII／防災マネジメント演習



●教員
近藤 伸也 准教授

いま震度7の地震の揺れが発生したとき、あなたはどのような状況になって何をしなければならぬか想像できますか。災害は、その規模、発生した時刻、場所、季節などによって変わりますが、大きな被害をもたらす災害は頻繁に発生するわけではありません。そのため答えは簡単には出ません。「防災マネジメントI」は、このような災害が起こる前、起こった後の状況を確認できる知識、考え方を体系的に学ぶことで、冒頭の問に少しでも確実に答えられるようにすること、そして被害を減らすために今から何をしなければならないのかを認識できるようになることを目指しています。



ゼミ紹介

●研究室名 **流域デザイン研究室** ●担当授業名 水理学I・II／流域環境学I・II／土木工学実験／社会基盤設計演習など

●教員
池田 裕一 教授

●教員
飯村 耕介 助教

水は、わたしたちに恵みと潤いを与えてくれますが、さまざまな災害も引き起こします。そこで、水源地から海にいたるまでの河川流域全体のしくみを科学し、水害対策や環境保全を通して良好な地域をデザインするための研究をしています。自然に配慮した河川整備や津波被害対策、水源地保全、都市機能整備などについて、流体力学はもちろん、生態学、社会学など、さまざまな視点からアプローチしています。レーザーを用いた最先端の測定機器、ドローンによる現地調査、衛星リモートセンシング、並列コンピューティングなども活用しています。写真は、2015年9月の豪雨で鬼怒川の堤防が決壊した箇所を調査している様子です。このように現地を調査することも多いです。



- 卒業論文の例(タイトルなど)
- 平成27年9月関東・東北豪雨での鬼怒川中流部における河道貯留効果について
- 平成27年9月関東・東北豪雨での栃木県小山市における浸水被害の発生状況
- 海岸林と防潮堤の位置関係が津波遡上の減災効果に与える影響に関する実験的研究
- 鬼怒川における礫河原保全事業後の植生遷移メカニズムに関する研究
- MODIS衛星データによる足尾地域の植生モニタリングに関する基礎的研究
- 防潮堤と海岸林の位置関係が流況と樹木抵抗に与える影響に関する実験的研究

建設学科建設工学コース※の就職・進路情報

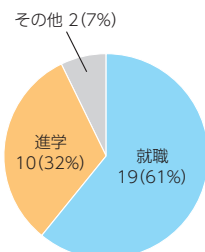
※工学部建設学科建設工学コースは、2016年度入学生より、地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科に改組しました。

2015年度就職者の産業別就職状況(卒業生:31人、就職希望者:19人、就職者:19人)

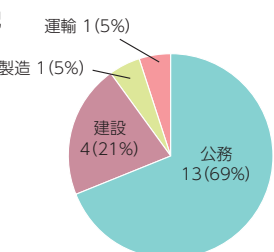
近年の主な就職先

鹿島建設、大成建設、東亜建設工業、西松建設、ドーピー建設工業、総合技術コンサルタント、セントラルコンサルタント、富貴沢建設コンサルタンツ、JR東日本、JR東海、東日本高速道路、首都高速道路、国土交通省、都・県庁、市町村役場

●進路状況(31人)



●産業別就職状況(19人)



学部附属施設 地域デザインセンター



地域デザイン科学部では、地域社会を持続可能で豊かにするために、新しい地域デザインに必要な教育・研究・地域貢献に取り組みます。また、魅力ある地域をつくるため、地域の課題を理解し、各地域の資源と特性を活かしたまちづくりを支える人材を育成します。そのためには、自主的・自律的な学修のほか、地域の中に入り込んだ実践的な学修が大変重要になります。また、地域と情報(課題)を共有し、地域課題解決に向けた教育研究活動を円滑に進めるインターフェイスとしての機能が必要となります。そこで、設立されたのが地域デザイン科学部附属の「地域デザインセンター」です。

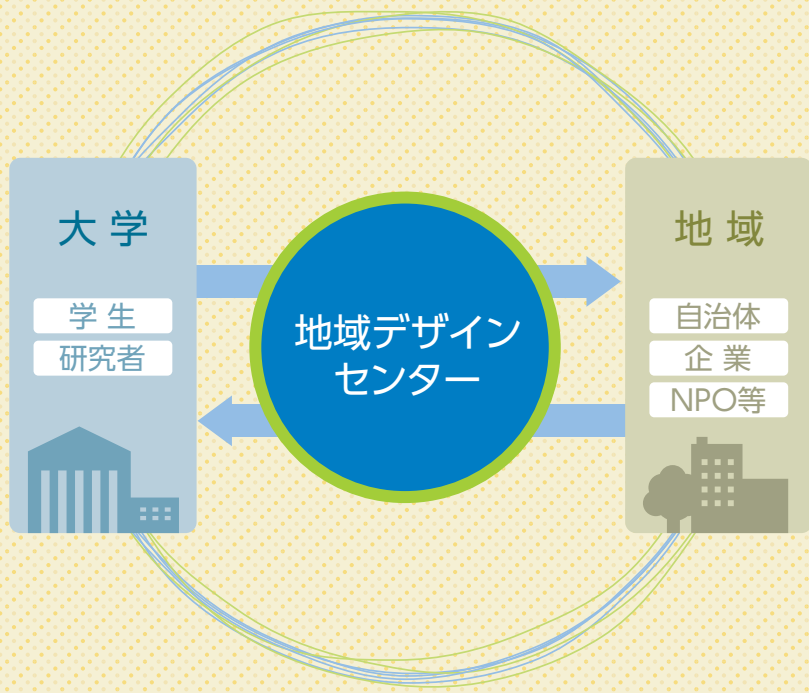
地域デザインセンターは、地域デザイン科学部の「地域連携の窓口」として、地域に関わる教育・研究の実施を支援し、市町村等が取り組む地域の課題解決に貢献します。具体的には、地域デザイン科学部の教育プログラムに対応した地域との連携強化(学生受け入れや講師派遣など)を主導します。学部3年で履修する「地域プロジェクト演習」を中心とした共通専門科目などを学部一体として実施するプラットフォームとなります。また、地域課題解決に貢献するため、シンク

ング機能を強化するとともに、自治体・企業・地域諸団体と連携した研究プロジェクトの実施を支援します。こうした教育・研究・地域貢献を推進し、社会や地域のニーズに即した取り組みとするため、「地域プロジェクト演習」などを実施する際の学生の受け入れ先の担当者を含む県内自治体・企業・NPOが集い、地域課題に関する意見交換や交流を行う「地域デザインセンターシンポジウム」を、地域デザインセンターが事務局となり定期的に開催することを予定しています。

また、学生、受験生、保護者、市民など広く社会に向けて情報を公開するとともに、地域からの声を受け止める窓口として、情報の受信に努め、双方向による情報交換を推進します。

地域デザインセンターのロゴマーク

地域でデザイン科学部を構成する3学科にちなんで人・環境・建築物・交通インフラなどの要素をつなげて、今とこれからをデザインしていくというセンターの目指す形を表現しています。



国際学部



世界をつなぐ力を求めて

「外国語臨地演習(中国語)」台湾にて

多文化環境のもと
国際や比較の視点で
学問を楽しもう。国際学部長
佐々木 一隆

国際学部は平成29年4月より国際学科1学科になり、グローバル化する国内外の地域の現状と課題を多文化共生の視点から読み解く力、コミュニケーション能力や行動力、外国語運用能力も備えた、21世紀型グローバル人材の育成をめざします。専門教育は従来の人文学と社会科学を融合させる形で体系化し、専門外国語と国際キャリア教育の科目も充実させました。よき伝統も受け継がれ、国際と学際や比較の視点、自ら課題を発見・解決していく姿勢が重視されます。学生は実に多様な教員集団も多国籍であり、留学が盛んなため、様々な異文化体験もできます。この学部で皆さんと出会えることを心待ちにしています。



「世界を見るための38講」

学部の創立20周年を迎えた2014年に、国際学部の教員たちが執筆した新書が刊行されました。ぜひ手に取ってみてください。

学部の教育・研究方針

国際学部にはよき伝統があります。一般入試に加えて、帰国生、社会人、外国人児童生徒、編入学試験により全国各地から学生が集まり、外国人留学生も入試や交換留学により世界各国から来ています。海外留学する人も多く、学生が実に多様ということです。1学年の学生90名に対して教員約30名の比率で少人数教育も行っています。教育・研究方針としては、国際と学際や比較の視点を重視し、自ら課題を設定して解決していく人材の育成も続けています。

こうした伝統を受け継ぎつつも、国際学部では新たに多文化共生のための専門教育の体系化を図りました。1～2年次にコア科目、基礎科目、グローバル実践力基礎演習があり、2年次からは専門外国語とグローバル専門科目が始まり、3年次に専門演習・実験実習科目と卒業研究準備演習が開講され、4年次に卒業研究を行うという体系的な教育課程を編成しています。グローバル専門科目には7つの科目群があり、アジア太平洋文化社会、欧米文化社会、日本文化社会、比較文化社会、言語・コミュニケーション、国際協力、国際共生に関する研究を扱います。国際キャリアと専門外国語の教育が充実しており、平成29年度入学者より「外国語能力強化プログラム」を設け、さらなる強化を図っていきます。

特徴的な学部の活動

国際学部では、学部で学んだことを発展させ、生かしていくための取り組みとして国際キャリア教育プログラム、外国語臨地演習、HANDSプロジェクトを実施しています。

国際キャリア教育プログラム

国際キャリア教育プログラムは国際分野の第一線で活躍する方々を講師に招き、国際的な仕事の意義を学ぶことを目的とするプログラムです。仕事の模擬体験や演習を通じて国際社会の問題を学び、国際分野におけるキャリアにいかにつなげていくかについて考えます。



外国語臨地演習

外国語臨地演習は中国語と英語の授業の一環として行われる短期留学プログラムです。国立台湾師範大学(台湾)／サザンクロス大学(オーストラリア)における語学研修やホームステイのほか、文化や社会に触れ、体験できる企画が用意されています。



HANDSプロジェクト

HANDSプロジェクトはグローバル化する地域で問われる外国人児童生徒教育に関して、国際学部附属多文化公共圏センターが取り組む特色あるプロジェクトです。多言語による高校進学ガイダンスの開催など、地域社会における支援体制モデルを提案します。



国際学部のよくある Q & A

Q 他大学の国際学部との違い(特色)を教えてください。

A 宇都宮大学国際学部の特徴は、3つあります。
第1は、従来の2学科を1学科に統合し、多文化共生に関わる社会科学と人文科学を体系的に学ぶことができます。
第2に、英語はEPUUでつちかった土台に専門性をプラスしてさらに伸ばすことを目指していますが、英語以外の外国語についても学べるということです。具体的には、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語が開設されていて、さらにドイツ語、ロシア語、タイ語、ポルト

ガル語も学ぶことができます。
第3は、日本国内の「地域」にも目を向けていることです。グローバル化が進展するということは、日本から海外へという流れが大きくなるとともに、海外から日本へという流れも大きくなることを意味します。日本国内でもグローバル化に伴い、様々な新しい課題に直面することが増えています。こうした課題についても学ぶことができます。

Q 英語で行われる授業はありますか。

A 国際学部では、20科目以上の授業が英語のみ、または日英両語を使って行われています。[English for Current Events]や[Academic English Writing]などのように専門外国語科目として英語を学ぶ授業だけでなく、[Introduction to Latin American Studies]や[Japan's International Relations]などのように専門的な科目を英語で学び、ディスカッションを行う授業も用意され

ています。さらに合宿形式の授業としては「International Communication Seminar」と「International Career Seminar」があり、英語を使いながらコミュニケーション能力やキャリア形成のための力を身につけることを目指しています。これらの授業に参加することで、英語を「使いこなす力」を伸ばしていきます。

Q 留学する学生が多いと思いますが、留学しても4年間で卒業可能でしょうか。

A 可能です。実際に、留学を経験した学生が4年間で卒業した実績があります。留学先で取得した単位の一部は、所定の単位として認可されます。なお、国際学部としては、留学をより効果的なものにするために、つぎのようなスケジュールを推奨しています。3年前期まで

に専門科目を履修し、卒業研究のためのゼミを決定してから、3年後期より半年～1年間留学する。帰国後、ゼミに入り、1年半かけて卒業研究に取り組むというものです。ただし、ゼミの教員ときちゃんと相談すれば、4年間で卒業することはできます。

入試のアドバイス

推薦入試

予め提出される「志望動機」および「推薦書」、「調査書」に加え、受験生数人によるグループ・ディスカッションに基づき入学者を選抜しています。①受験生は面接試験実施前、決められた時間内に「課題文」を読み、その問いへの回答を考えておきます。②その後、グループに分かれ、受験生が「課題文の問い」への回答を踏まえつつ、教員の指示に従いディスカッションを行います。③受験生はグローバル社会への関心と、ディスカッションにおいては自分の考えを整理し(理解力)、論理的に展開し(思考力)、相手を説得できる能力(表現力)が必要です。一方、海外経験の「有無」は推薦入試の選抜とは直接関連しません。

一般入試

センター試験と個別学力試験(外国語と小論文)、調査書等により、入学者を選抜します。①外国語は国際学部の授業に対応可能な能力を判定し、②小論文については受験生各自が「資料とそれに関する設問」に対し、自分の意見を決められた文字数で論じます。資料の内容に関する理解力、資料の内容に対する主張の独自性や表記の正確性が採点基準となります。また、③調査書により受験生の基礎的能力を確認します。



学生メッセージ

国際社会学科4年
宮平 睦月
沖縄県立球陽高等学校卒業

国際学部では、海外の文化・社会について学ぶことで「多様性」を身につけられることが魅力です。しかし、多様性を学ぶ機会は何も海外に触れることだけに限らないと思います。例えば生まれ育った故郷を出て違う地域で暮らしてみること、サークルやアルバイトといった組織に所属することでも、立場の違う様々な人と出会うことができます。その上で幅広い分野の授業や、異なる地域からやってくる学生との交流を通し、日常生活においても広い視野を持って学べることが魅力だと思っています。
この学生生活を通して、台湾での交換留学に限らず、部活動で地域のスポーツ行事に運営面から関わり、他大学との合宿や他県への遠征からも、たくさん刺激を受けてきました。皆さんもぜひ国際学部をフィールドに、少しでも興味のあるものを通して多様性を学んでいってください。



OGメッセージ

電気技術開発株式会社 国際部 勤務
柳沢 美里
2015年3月卒業

私は現在、交通インフラと電気に関わるコンサルタント会社で、国際事務を担当しています。海外出張の経験や、国内外の政府関係者や国際協力機構(JICA)の方々と関わる中で、「世界に誇れる日本の技術」の一端を担うこの仕事に誇りを感じています。
国際分野で働くために大学で学ぶべきことは、グローバルな視野で物事を見る習慣です。そのために、国籍や立場の違う人とコミュニケーションをとって情報を正確に読み取る力を養うことや、各国の幅広い知識、語学力の習得が大切です。
私は学生時代に、学内外の国際関係やボランティアのイベントで企画や司会を経験し、留学生や社会人と話す時間を作りました。授業内容は、現在、海外の契約や税務の専門知識に役立っています。
大学では目標を持ち、夢の実現に向けて時間と熱意を注いで積極的に活動してください。Enjoy!

国際学科

国際学科の教育目標は、国籍や民族などの異なる人々が、互いの社会的・文化的違いを認めあい、地域の構成員として共に生きてゆくことを可能とする多文化共生を実現するために、必要な知識や能力を身につけることです。世界の様々な地域の国際的分野で活躍するために、多文化共生に関する専門的な知識・技術に加えて、チャレンジ精神や行動力等を兼ね備えた「グローバルな実践力」を持った人材を育成します。

カリキュラム

カリキュラムの特色は下記のとおりです。

- ◎多文化共生に関わる社会科学と人文科学が一体化した体系的な教育プログラム
- ◎「コミュニケーション能力や海外での行動力の強化」を目的にして、少人数・融合型演習、国際キャリア教育や「アクティブラーニング」科目を拡充
- ◎英語及び初習外国語の運用能力の強化

専門科目

多文化共生概論、国際関係論、異文化間コミュニケーション、地球市民社会論など

資格・免許

- 中学校教諭一種免許状(英語)
- 高等学校教諭一種免許状(英語)



授業紹介

- 授業名 **地球環境政策論**
- 他の担当授業名 環境と国際協力演習／環境と国際協力



●教員
高橋 若菜 准教授

この授業では、政治学の概念を用いながら、地球環境保護・保全のための各国の政策(国及び地方レベルを含む)について学んでいます。具体的には、気候変動問題と原子力・再生可能エネルギー、循環型社会形成分野における各国の諸政策・取り組みの中から、複数事例をとりあげて比較対照し、基本的な理解を身につけています。

アクティブ・ラーニング(グループディスカッションやロールプレイ)を通じて、表現能力やコミュニケーションの向上をはかるとともに、問題を表面的ではなく多面的構造的に捉えていく思考方法を身につけ、異文化理解・対処能力の向上もはかることを目指しています。



ゼミ紹介

- 研究室名 **比較文化論**



●教員
アンドリュー・ライマン 准教授

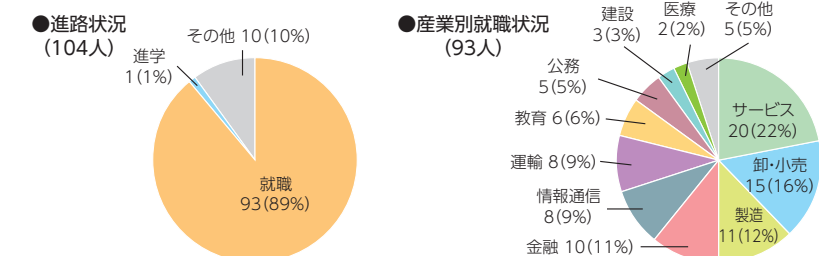
比較文化論セミナーでは、主にエスノグラフィーの方法論を応用したフィールドワーク、参与観察、批判的分析の方法論を学び、ローカルまたはグローバルな場に現れる複雑で曖昧な文化的現象を分析しています。授業では、言語、宗教、美、ジェンダー、家族、経済、教育、メディア、ポップカルチャー、科学技術など幅広い分野に広がるトピックを扱います。受講生には、独自の調査、プレゼンテーション、ディスカッションを主体的に行うことが求められます。このセミナーでは、厳密な調査方法と総合的な分析を通して、各自のアイデアを整理し、情報を適切に評価し、意見を形成し積極的にコミュニケーションを図るスキルを向上させ、トピックを完全に理解することを目標としています。最終的には、受講生が、授業を通して高められた関心並びに調査手法を、卒業論文などのアカデミックな論考の執筆や発表に繋がられるように指導していきます。



- 卒業論文の例
- 非言語的異文化間コミュニケーションの比較分析
- 日本社会における集団主義の実践と衰退の批判的分析
- 日本の大学生の就職活動の手続きと課題
- 美しさの文化の比較分析:「かわいい」文化とはなにか?

就職・進路情報

2015年度就職者の産業別就職状況(卒業生:104人、就職希望者:98人、就職者:93人)



近年の主な就職先

県庁、市町村役場、農協、郵便局、教員(中学・高校)、NHK、下野新聞社、ANA、JALスカイ、JR東日本、JTB東北、日本旅行、近畿日本ツーリスト、農協観光、栃木銀行、足利銀行、常陽銀行、みずほ証券、野村證券、丸紅、東芝、富士重工業、積水ハウス、セコム、ECC

グローバルな実践力を身につける教育システム

多文化共生実現のために国内外で活躍する
21世紀型グローバル人材

多文化共生のための
専門的知識を体系化

多文化共生概論

国際関係論

異文化間コミュニケーション

地球市民社会論

コミュニケーション能力
海外での行動力養成

国際キャリア教育

International Career Seminar

海外フィールドワーク演習

国際キャリア実習
(インターンシップ)

外国語運用能力の
強化

外国語能力強化
プログラム

International Communication Seminar

Foreign Language Learning and Communication

外国語臨地演習
(短期海外留学)

(青字は海外での学習)



学部 附属施設 附属多文化公共圏センター

Center for Multicultural Public Sphere (CMPS)

国際学部附属多文化公共圏センターは地域社会が抱える多文化共生に関する課題について、自治体、市民団体(NGO/NPO等)と協力してその解決に貢献していくことを目的としています。

本センターでは次のような市民講座、シンポジウム、プロジェクト等を実施しています。

また、国際協力・貢献、多文化交流に関する教育による人材育成を行います。

学生国際連携事業

宇都宮大学生国際連携シンポジウム2016
2016年12月12日(月)

第1部 基調講演

- 多嘉山 アントニオ(晏斗仁男)
ペルー日系人協会日本語普及部コーディネーター
「ペルーにおける日本語教育に携わって」
- 小波津ホセ
宇都宮大学国際学研究科博士後期課程1年
「まっすぐでない生き方〜過去の分岐点」

第2部 越境体験

～学生による体験型ワークショップ～



地域連携交流

国際交流都市日光の再発見
～学生が考えるもう一つの地域発展プラン

〔情報発信のためのエリア巡り〕

- 第1回2016年11月5日(土)東照宮エリア
- 第2回2016年11月12日(土)中禅寺湖エリア

〔シンポジウム〕

2016年12月3日(土)日光行政センター



グローバル教育

第8回グローバル教育セミナー
「難民問題とグローバル教育」
2016年11月9日(水)大学会館多目的ホール

□基調講演

- 石川えり
(NPO法人難民支援協会 代表理事)
「世界の難民と日本～自分ごととして考える～」



学生による地域貢献

益子における歴史的文化交流
2016年12月18日(日)

益子の魅力再発見ツアー

- 益子陶芸倶楽部
- 日下田藍染工房
- 濱田庄司記念益子参考館



教育学部



教師力・人間力。探求から創造へ

宇都宮大学附属小学校における教育実習風景

学び合いのなかから
教師力・人間力を

教育学部長

伊東 明彦

知識基盤社会と言われる現在、教育現場でも、自分の頭で考え、探究し、仲間と協働して新しい知を創造していく能動的な学びが重要となっています。教育学部では、こうした能動的な学びを子どもたちに指導できる高い資質を持った教員の育成を目指しています。そのためには、大学の講義自体が能動的でなければなりません。単に授業を聴講するだけでなく、明確な目的意識を持って自ら働きかけ、仲間と共に行動しながら学ぶ新たな知の創造プロセスを通して、教師力・人間力を高めていこうではありませんか。

学部の教育・研究方針

入学時には、「学校教育・特別支援教育系」、「教科文系」、「教科理系」、「教科実技系」の4つの系に分けて学生を募集します。また、学生の専門によらないクラス編成を行い、それぞれのクラスに指導員が付き、1年から4年まで一貫して学生の指導に当たります。こうしたクラスを導入することで、異なる専門性をめざす学生が互いに切磋琢磨しながら人間関係を築く中で、協働力やチーム対応力などの人間力を培います。

2年進級時に卒業研究分野を決定し、小学校教員としての資質・能力を獲得するとともに、中学校各教科、教科の枠を超えた教育学・教育心理学、障害のある児童生徒の発達と教育、のいずれかの分野についてさらに深く学習・研究していきます。

教育学部では、理論的な学習とそれらを実践的に学ぶ教育実践科目を通して、確かな授業力と協働力・人間力のある意欲の高い教員、子どもたちに寄り添いながら次の時代を切り拓く子どもの育成にあたることのできる教員の養成を目指しています。



特徴的な学部の活動

教育学部の特徴的な活動事例として、学校教育教員養成課程の「教員採用試験対策の支援」と教育学部同窓会があげられます。

教員採用試験対策の支援

教育学部には、教員採用試験対策の支援体制が整っています。学部独自に就職支援室を設置し、そこでは、いつでも相談に乗ってくれます。また、教育学部同窓会が中心となって、教員採用試験対策セミナーや二次試験対策セミナーとして集団討論、個人面接、模擬授業の指導を通じ皆さんをバックアップしています。



同窓会

教育学部同窓会は、学生の就職のために、同窓会のOB・OGの先生から直接指導を受けることができるように支援をしています。また、同窓会主催で、新入生歓迎会を実施しています。

ホームカミングデーでは、卒業した会員の方々に喜んでいただけるように、教育学部と連携を図り実施しています。

また、同窓会員の交流のために、会報を年1回発行しています。



教育学部のよくある Q & A

Q 教育実習は附属学校だけで行うのでしょうか。

A 学校教育教員養成課程においては、3年次必修の「小学校・中学校教育実習Ⅰ・Ⅱ」、特別支援教育専攻の「特別支援学校教育実習」、幼稚園免許取得希望者対象の「幼稚園教育実習」の3つを、附属学校園のみで行います。3～4年次選択の「小学校・中学校教育実習Ⅲ」は、

実習の大部分を栃木県下の公立小・中学校で実施しています。教職志望の学生は、附属校・協力校の双方において、小中両校種の教育実習を経験することにより、実践的な力を身につけることができます。

Q 平成28年度から一般入試では大枠入試が始まりましたが、これまでの制度とどこが違うのでしょうか。

A 教育学部は、平成28年度から学校教育教員養成課程に一本化され、学校教員を目指す学生のための学部の特化されました。前期試験では、学校教育・特別支援教育系、教科文系、教科理系、教科実技系の4つの系に分かれて選抜が行われます。それぞれの系には卒業

研究のためのいくつかの分野がありますが、研究分野が確定するのは入学時ではなく1年終了時です。1年間どの分野が自分にふさわしいのかを考える時間が持てる制度です。分野の決定は学生の希望や入学後の成績等により行います。

Q 推薦入試がI(A)とI(B)に分かれていますが、どのように違うのでしょうか。

A 推薦入試I(A)では、12の研究分野ごとに選抜を行います。各分野の定員はすべて2名です。特にある教科の指導力を身につけたいという皆さんはI(A)の受験を考えてみてください。推薦入試I(B)は、平成28年度から始まった新しい制度で、特に栃木県内の小学校教員を目指す学生を募集します。小学校の教員は基

本的にすべての教科を指導しますので、I(B)では研究分野を限定せず20名の学生を募集します。しかし、小学校教員といっても得意とする専門分野を持つことは重要ですので、1年終了時に専門分野を決め、中学校での指導もできる力を持った教員をめざします。

入試のアドバイス

推薦入試

教育学部の推薦入試には、推薦入試I(A)と推薦入試I(B)があり、ともに大学入試センター試験を課しません。推薦入試I(A)では、出願書類と各分野で課す面接・小論文・実技等の結果を総合して選抜を行います。面接・小論文・実技には、各系や分野等の専門に関わる内容を含んでいます。美術分野の志願者は、自己制作の作品を2点持参することになっています。推薦入試I(B)では、将来、栃木県の小学校教員として活躍することに強い希望と意思を持ち、小学校教員としての適性を有する人を選抜します。全ての系・分野を一括して、出願書類と面接・小論文を総合して選抜します。面接では小学校教員になるために必要な基礎的知識、コミュニケーション能力、教育活動への意欲、表現力や論理的思考能力等を評価します。

一般入試

教育学部の一般入試は、大学入試センター試験と個別学力検査等の結果を合わせて判断します。志望する系等(学校教育・特別支援教育系、教科文系、教科理系、教科実技系)ごとに、大学入試センター試験の利用教科・科目や、個別学力検査の教科・科目等が異なっていますので、受験の際は最新の「入学考選要項」(例年7月頃発行)をよく確認してください。



学生メッセージ

教育学部 家政教育専攻4年

永澤 保奈美

2014年3月 栃木県立小山西高等学校卒業

私は教員になりたいという思いから、この教育学部を選びました。教育学部では教育原理や制度、行政学や心理学など教育に関する様々なことを学んだり、専門科目に関する理解を深めたりします。三年生で行われる教育実習では、実際に子どもを目の前にし授業をするという初めての経験にドキドキしました。子どもたちのことを思って授業を考えたり、指導の工夫をしたりする毎日はとても充実していました。そして実習が終わると教員になりたいという思いがよりいっそう強くなりました。だから私は夢を実現することができるよう頑張ります！

どうかみなさんにも有意義な大学生活を送ってください。



OBメッセージ

宇都宮市立築瀬小学校勤務

青砥 匠

2016年3月 社会科教育専攻卒業

現在、私は小学校教員として勤務しています。小学生からの夢を叶え、今の私があるのは、就職支援室の先生方のおかげだと思っています。試験対策にあたって、何を勉強していけば良いのか分からないことを、支援室の先生に相談すると、「皆同じ気持ちですよ。まず、こうしたらどうかな。」と具体的なアドバイスをいただきました。単なる試験対策の助言だけでなく、精神的にも安心と自信を与えてくれる場になり、本当に大きな支えとなりました。

教員となって数か月経ちました。毎日分からないことばかりで、失敗してしまうことも多くあります。それでも、子どもたちの笑顔と、支援室で共に切磋琢磨し助け合ってきた仲間や、現場の先生方に支えられながら、日々奮闘しています。支援室で学んだことを活かし、一日一日を大切にしていきたいと思っています。

学校教育教員養成課程

教育学部は、学校教育教員養成課程1課程で構成されており、学校教育現場において教員として活躍する人の養成を目的とする学部です。主に小学校、中学校及び特別支援学校をターゲットとして、確かな授業力と協働力・人間力のある教員を養成します。

入学時には、学校教育・特別支援教育系、教科文系、教科理系、教科実技系の4つの系に分けて学生を募集します。

○学校教育・特別支援教育系

小学校の教員としての資質・能力を獲得するとともに、教科の枠を超えて学校における教育活動の基盤となる教育学・教育心理学、および障害のある児童生徒の発達と教育について専門的に学修し研究します。

○教科文系

小学校の教員としての資質・能力を獲得するとともに、特に、中学校の国語、社会、英語の各教科の指導力を修得するため、教科指導の基盤となる学問・技能をさらに深く学修し研究します。

○教科理系

小学校の教員としての資質・能力を獲得するとともに、特に、中学校の数学、理科、技術の各教科の指導力を修得するため、教科指導の基盤となる学問・技能をさらに深く学修し研究します。

○教科実技系

小学校の教員としての資質・能力を獲得するとともに、特に、中学校の音楽、美術、保健体育、家庭の各教科の指導力を修得するため、教科指導の基盤となる学問・技能をさらに深く学修し研究します。

●教員
澤田 匡人 准教授

●授業名 生徒指導・進路指導 ●他の担当授業名 社会心理学／感情心理学特講／教育心理学実験など

この授業では、生徒指導上の諸問題とその対応について学びます。いじめ、不登校、非行など、生徒が抱える種々の問題に対応していくためには、彼らの心理面や取り巻く環境から目を背けず、理解しようとする姿勢が重要です。

例えば、平成27年度の世論調査によると、調査対象者の約8割は少年による重大事件が増加していると考えているそうです。しかし、実際はどうなっているのか、みなさんをご存知でしょうか？公表されている統計を見ると、少年による犯罪は減少の一途を辿っており、35年前と比べると、およそ5分の1にまで落ち込んでいるのです。

思い込みにとらわれず、教師として働いていく「覚悟」を持つ。授業を通じて、その手助けができればと考えています

●卒業論文の例

●書くこと領域での随筆指導 ●物語教材を活用した書く力の育成 ●説得力を持たせる意見文の指導

●文学的文章で考える力を育成する ●中学校国語教育における要約指導

ゼミ紹介

●研究室名 国語教育ゼミ ●担当授業名 国語科教育法／国語科教育特講／国語研究セミナーなど

●教員
飯田 和明 准教授

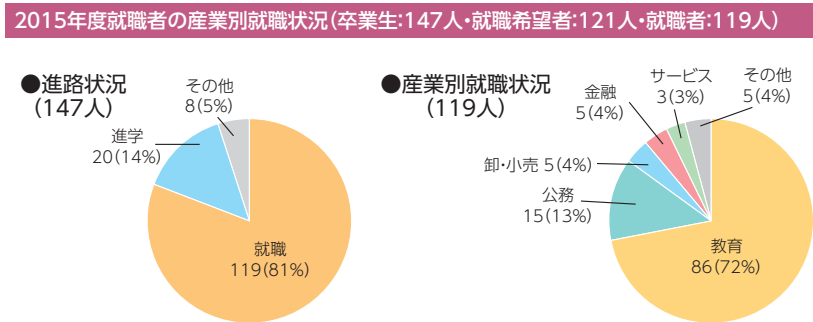
ゼミ生各自のもつ国語教育に関する課題意識をもとにして、まずはそれを紹介しあい、徐々に形式を伴ったゼミ内発表、討議を経て、国語分野での全体発表会、卒業論文の作成へと進んでいきます。国語教育に関わる事象として、誰もが営んでいる言葉に係る日常生活(言語生活)全般を基盤に据え、それぞれが関心をもった角度から資料を収集し、その読み方を含めて互いに検討を行います。卒業後にも生きる教育研究の基礎的能力を培うとともに、一人一人が国語教育を起点として広く教育について考えていくための自分の軸を作っていくよう指導をしています。言葉というものを介し、教えることと学ぶことを巡って考究する時間を積み上げていきます。

●卒業論文の例

●書くこと領域での随筆指導 ●物語教材を活用した書く力の育成 ●説得力を持たせる意見文の指導

●文学的文章で考える力を育成する ●中学校国語教育における要約指導

学校教育教員養成課程の就職・進路情報



教育実践科目の流れ

宇都宮大学教育学部では、4年間を通じて教員としての資質を身に付けるために、各学年に教育実践科目を配置しています。

(1年次)

教職入門では、公立小学校における子どもとの触れあいや附属小・中学校での授業観察などを通じて、教育現場を教員の視点で捉え直し、「使命感や教育的愛情」の自覚を促します。

(2年次)

教職ボランティア入門では、主に公立小学校において、児童との関わりを中心とした学校ボランティアを通じて、子どもや学校に慣れると共に、教師として働く喜びを感じ、教職志向を高めることをねらいとします。

(3～4年次)

3年次の教育実習Ⅰ・Ⅱは、附属小・中学校における4週間分の教育実習を通じて、授業実践や学級経営など、教員として働くことに対する見通しを持つことを目的とします。そして、教育実習Ⅲ(2週間)でその見通しに肉付けを行います。

4年次の教職実践演習は教育実習の集大成として、これまでに習得した理論的知識、実践的指導力を基に、ワークショップや研究授業参加、模擬授業等を通して、子ども理解、教職への使命感・責任感、教育的愛情、対人的関係能力、教科指導にかかわる資質を向上することを目的としています。

このほかに、専攻や希望により特別支援学校教育実習、幼稚園実習があります。

教育実習は教育学部の学生にとって必修科目であり、これなしには卒業が認定されない重要な位置を占めるものです。さらにまた、一般の講義や演習等と異なり、本学部附属学校園、栃木県下の公立小・中学校などの協力校の児童生徒に直面して指導を行うという社会的責任をともなった学修です。宇都宮大学単独では実施することが不可能で、各教育委員会や各学校の先生方のご援助・ご協力をいただくことによって実現する重要な活動です。

このような実情を踏まえて本学部としては、教育実習を行う学生に対して特別に真剣な態度で取り組むことを求めます。

教育実習の意義

教育実習は、大学において修得した知識や諸理論を学校教育の現場において適用し、学習指導面や生徒指導面から分析反省し、今後の自己の学修を深め、社会の期待に応える教員となることを目指す活動です。教育実習の意義は以下のとおりです。

- ①大学において講義や演習等で学んだ知識や諸理論を学校教育の現場において適用し、自ら実践的な能力の基礎を形成すること。
- ②教育実践に関する問題解決・創意工夫に必要な研究的態度や研究能力の基礎を形成すること。
- ③教育者としての使命感を深め、教員としての能力や適性について検証すること。
- ④自らの新たな学修課題を発見し、改めて学修への意欲を刺激すること。

学 部 附 属 施 設 附属学校園

教育の実践的研究・教育実習などのために、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校が設けられています。教育学部の学生は、卒業のための必修科目の中に教育実習が含まれていますので、これら附属学校園のいずれかで教育実習を行います。



学校ボランティア

授業中や放課後学習などの手伝いや子どもたちを支援するなどの学校等支援活動(ボランティア)や教育実践インターンシップによって、教員としての資質の向上を図っています。





夢・未来を創る

本学部機械系研究室の「TSUKUBA CHALLENGE 2013」での様子(課題達成:つくば市長賞受賞)

未来の工学部生のみなさまへ



工学部長
阿山 みよし

いま工学分野では、いかに省エネルギー・且つ有害物質を出さずに安心・安全・快適な社会を整備していくかが最重要課題です。それを可能とする日本の技術は新幹線から手術針まで様々な分野で世界に貢献しています。そのようなグローバル社会では、様々な文化を学び尊重しあうことがとても重要です。理工系といえども使い手である人間の感性と人間が織り成す文化への理解が要求されています。様々な人間に使い易く、その社会に適合した技術やシステムでなければ、先端技術も経済投資も活かせません。

工学部では、電気・機械といった基幹工学だけでなく、超微細加工・超高速通信を支える先端光工学、「いいね!」を定量化する感性情報工学、そして環境化学や生命科学での農工連携を特色としています。また工学部生も英語や人文・社会科学系科目が必修で、世界で活躍する技術者・研究者への基礎が学べます。人にも環境にもフィットするものづくりを志す皆さん、ユニークな勉強ができる工学部で、ぜひ一緒に学びましょう。



学部の教育・研究方針

工学部は1964年に設置された宇都宮大学3番目の学部で、国立宇都宮工業短期大学(1961年設立)が前身です。現在は、機械システム工学科、電気電子工学科、応用化学科、情報工学科の4学科、および附属ものづくり創成工学センターから構成されています。また、大学院工学研究科の博士前期課程、博士後期課程も備え、高度な工学系の教育と研究に対応しています。本学部の教育の基本方針は、まず基礎学力を重視したカリキュラムを実施し、日々変わり得る科学技術に柔軟に対応できる技術者を養成することです。その上で、創成工学実践、創成工学プロジェクト等、特色ある教育プログラムを通じて、企画や実践力の養成を目指しています。また、学際的な分野を重視し、工学やIT技術等の工学の最先端分野から基礎科学分野まで幅広い分野において研究に積極的に取り組み、学生の指導にあたっています。

このように、工学部は、設立以来、基礎的分野からただちに企業化に直結する応用的分野まで、工学に関する幅広い分野の教育と研究を推進し、地域、国内はもとより、国際的にも活躍できる、ものづくりマインドを有する人材を世に送り出しています。

特徴的な学部の活動

本学部の特徴的な活動の一つに、「ものづくり教育の重視」があります。

工学部附属ものづくり創成工学センターは、21世紀のものづくり・人づくりをテーマとして平成14年に設置されました。学生自身が考え学ぶ教育プログラムの開発や、ものづくり技能セミナーの開催、小中学校対象の体験教室の開催などを行っています。本センターは、全国の類似的機関の中でも最も早い時期の創設で、この分野のパイオニアであると自負しています。

また、工学部はオプティクス教育研究センターと連携して、オプティクスコースを実施し、光学技術分野の人材育成を行っています。ここでは、学内外の企業や学術機関との協同により、関連分野の人材を集約した研究拠点となっています。さらに、日本経済団体連合会、文部科学省の教育改革支援により、茨城大学と連携してIT分野の育成を目指した教育プログラムであるITスペシャリストコースも置かれており、社会のニーズに対応できる技術者の養成を目指しているほか、他学部などと連携した複合領域における教育と研究にも取り組んでいます。

工学部のよくあるQ&A

Q 他大学の工学部との違い(特色)を教えてください。

A 本学部は、4つの学科からなる大学科制を取っており、分野の垣根を越えた緩やかな学科分けにより、自由な雰囲気体制になっています。また、工学部としては比較的小規模な部類に入りますが、そのような組織的特徴にもマッチしています。この結果、教育、研究においては、基礎科学的分野から先端的、学際的な分野まで多彩

な分野を専門とする教員が在籍し、規模に比べてカバーする分野が広いものとなっています。また、国内最大規模の内陸工業地帯の近隣に位置するという地の利を活かして、企業との共同研究も盛んです。その結果、オプティクスコースやITスペシャリストコースなどの特徴ある教育課程も設置されています。

Q 大学院進学者が多いようですが、学部卒では就職が難しいのでしょうか。また、大学院進学のメリットは何でしょうか。

A 本学部の大学院進学率はおよそ50～60%ですが、学部卒で就職される方もおり、就職が難しいことはありません。進学者が多い理由として、工学の各分野の学問体系は理科系の広範な知識の上に築かれており、大学院に進学してより深い専門的な知識を身に付けるためということが考えられます。大学院進学によって、座学はも

ろんのこと、学内外で論文執筆や研究発表などの場を通じて実際の研究に触れることができます。また、研究職の場合は、企業に就職する場合でも修士号以上が必要とされる場合があります。将来そのような方面を目指している人にとっては、大学院への進学はメリットと言うよりも必要不可欠なことです。

Q 専門教育の基礎となる科目について、リメディアル(補習)教育は行われているのでしょうか。

A 補習教育が単位付きの科目として実施されているわけではありませんが、各学科において初期導入教育として開講されている必修科目として行われている科目が、ある程度、補習教育的な役割を果たしています。また、学科により、導入的な科目が用意されていたり、基礎系の必修科目では、学科ごとの入試科目などを考慮してクラ

ス分けや内容の選定が行われたりしており、補習教育に準ずる措置が取られています。推薦入試の合格者等を対象に入学前教育を実施している学科もあり、高校と大学の接続を意識した体制を整えています。このように、高校までの学習から大学での学修へとスムーズにつながるよう準備しています。

入試のアドバイス

推薦入試

推薦入試の実施方法は学科ごとに異なるため一概には言えませんが、口述試験が大きい比重を占めます。試験では面接員との受け答えによって学習意欲や学力等の適性が判断されます。通常の面接と同様、問われたことを理解し、的確に回答して、筋道を立てて自分の考えを述べるのが重要です。日常の学習の際に、ただ問題を解いて終わりというのではなく、学習内容が科目全体や他の科目との関係の中でどのような意味を持っているのかを考えつつ勉強を進めるのがよいでしょう。学科によっては特別な評価ポイントがある場合も考えられますので、可能ならばオープンキャンパス等での入試相談コーナーを活用して下さい。

一般入試

一般入試については、センター試験、個別学力試験とも重要です。個別学力試験では、試験科目中の対象範囲全体を万遍なく勉強して下さい。推薦入試と同様、学習内容の位置付けを意識して学習することが重要です。個別学力試験は通常論述式ですので、解答だけではなく、解答に到る過程が過不足なく書いてあるかどうかでかなり差がつきます。記述内容の必然性や、論旨のつながり、明確さを出せるように日頃から訓練しておくといいでしょう。



学生メッセージ

工学部応用化学科2年
増淵 美祐
栃木県立宇都宮北高等学校卒業

私は小さい頃から化学に魅力を感じ、高校の化学の授業で反応の進行の仕方や様々な物質の姿を学んで以来、どうしてこうなるのだろうという疑問が湧き、もっと深く知るために応用化学科に入学しました。大学では、高校で学習した反応が起こる理由や物質の特徴などについて、これまでの謎が解けるように感じながら楽しく学んでいます。また、教職員スタッフに気軽に質問ができる環境下で勉強し、充実した学生生活を送っています。授業だけでなく、化学物質を合成することも楽しみなので、これから始まる学生実験にとっても期待しています。



OGメッセージ

株式会社JSOL 基盤ソリューション事業部 勤務
宮下 侑子
2012年3月 工学部 情報工学科卒業
2014年3月 工学研究科 博士前期課程 情報システム科学専攻修了

私は「システムエンジニア」として、皆さんが名前を聞いたことがあるような企業や公共機関を対象に、お客様の業務課題をIT技術で解決するシステムを作っています。この仕事を選んだ理由は、大学で得た専門知識やノウハウを活かして社会に貢献する「ものづくり」がしたいと思ったからです。

講義ではプログラミングやIT技術などの専門知識や一般教養を学び、研究では主体的に物事を進める姿勢や問題解決への思考プロセスを養いました。大学では仲間作りや発表経験など様々な経験をし、多くのことに興味が持てました。この知識や経験は、今の仕事の土台になっています。皆さんも様々な経験をして、将来へつなげる楽しい学生生活を送りましょう!

機械システム工学科

機械システム工学は、現代のあらゆる産業分野で必要となる「基幹工学」です。我々の身の回りの工業製品はもとより、農林水産業、建設業、医療など我々の生活は様々な機械が支えています。本学科は、独創的な学問や技術を創造し、21世紀の技術革新を担う技術者・研究者を養成する学科です。

専門科目 機械力学、材料力学、熱力学、流体力学、設計・生産・加工、メディカルエンジニアリング、計測自動制御、材料工学、理論的・実践的デザインに関する科目

資格・免許 ●高等学校教諭一種免許状(工業)



授業紹介



●教員
嶋脇 聡 准教授

●授業名 **生体計測** ●他の担当授業名 バイオエンジニアリング／機械設計製図／機械システム工学実験

人体の内部を精密に計測することは、健康状態の把握、罹患状態の把握、適切な医療処置の診断においてとても重要なことです。生体計測の発展は工学と医学の両面の発展を導きます。この授業では、家庭内でもしばしば見かける血圧計から、大きな病院で見られないようなCTやMRIなどまでの測定原理をわかりやすく説明していきます。さらに、日本人の高い死亡原因となっている動脈硬化症を非侵襲で計測できる脈波伝播速度(PWV)や血流由来血管拡張反応(FMD)などの測定原理も説明します。直接見ることができない体の内部をいろいろと工夫することで可視化できるようにする技術を学んでほしい。より多くの計測法を理解することは、自分の窓口を広げることに繋がると思います。



ゼミ紹介

●研究室名 **材料組織制御学研究室** ●担当授業名 材料力学、マテリアル評価学／機械システム工学実習／機械システム工学実験など

●教員
山本篤史郎 准教授

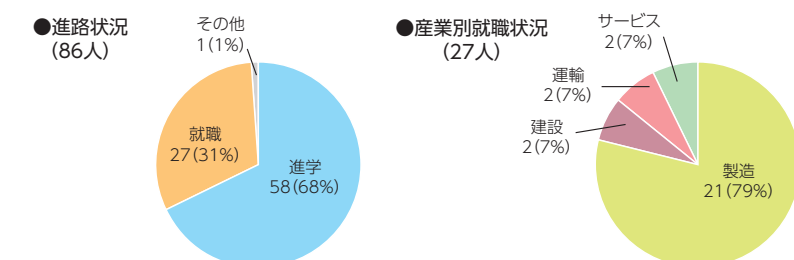
鉄道・航空機・自動車などの輸送機、各種エンジン・発電機、化学プラント、そして、それらの部品を製作するために必要な工作機械など、あらゆる機械には金属材料が不可欠です。金属材料の強度などの諸性質は原子の並び方が決定します。したがって、材料の性質と原子配列の関係を明らかにすることは、より優れた材料を開発する上で極めて重要です。材料研究では実験手法が近年急速に高度化しているため、従来の常識を覆す新たな発見が続々と報告されています。我々も、既存の電子顕微鏡による観察と、世界最先端のX線実験施設で得られる実験結果を組み合わせ、材料がその性質を発現する起源に迫り、新素材開発の礎となる研究を行っています。

- 卒業論文の例(タイトルなど)
- X線反射率その場測定によるアモルファス合金薄膜の加熱中表面構造変化観察
- 蛍光X線ホログラフィー法によるTi合金中局所原子構造解析
- 異種金属接合界面に生じる非平衡組織



機械システム工学科の就職・進路情報

2015年度就職者の産業別就職状況(卒業生:86人・就職希望者:27人・就職者:27人)



近年の主な就職先

トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、富士重工業、スズキ、日野自動車、いすゞ、IHI、コマツ、ファナック、日立製作所、三菱電機、パナソニック、オリンパス、京セラ、花王、テルモ、マニー、レオン自動機、JR東日本、JR東海、公務員

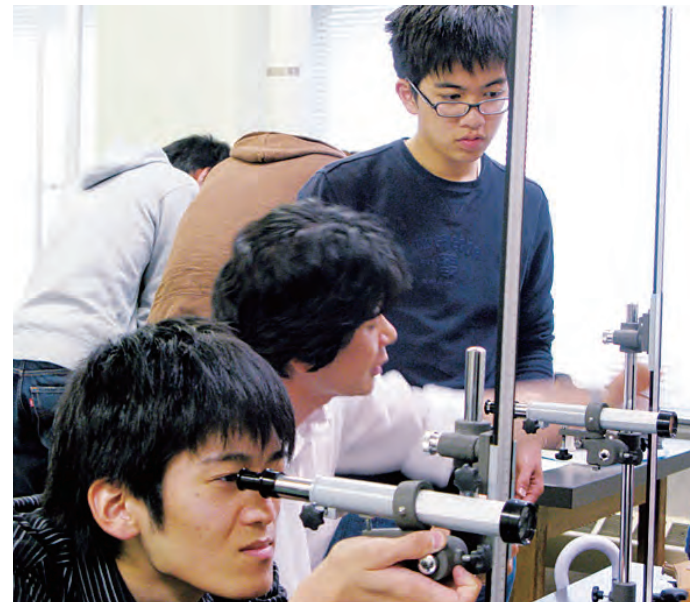
電気電子工学科

電気や電子を利用する技術で現代の社会は支えられています。本学科は、その技術をさらに発展させる技術者・研究者を育成する学科です。専門分野への基礎となる科目(電気電子数学、電気回路、電気磁気学)では講義とともに演習により基礎力を高め、さらに進んだ応用分野の科目が確実に理解できるようにしています。

専門科目 電気電子数学、電気回路、電気磁気学などの専門科目、プラズマ工学、パワーエレクトロニクス、半導体工学、集積回路工学、制御工学、通信工学など

資格・免許

- 電気主任技術者の免状交付申請の資格(卒業後一定の実務経験が必要)
- 電気通信主任技術者(試験の一部免除)
- 第1級陸上特殊無線技士
- 第3級海上特殊無線技士
- 第2種電気工事士(筆記試験免除)
- 高等学校教諭一種免許状(工業)



授業紹介



●教員
森 大毅 准教授

●授業名 **デジタル信号処理** ●他の担当授業名 情報処理基礎

デジタル技術は、現代の生活にとってなくてはならないものになりました。その中でも、携帯電話やテレビなどの情報通信を支える主要な技術がデジタル信号処理です。たとえば音声の信号は空気の振動をあらわす波形ですが、デジタル機器では波形を0と1だけからなる列で表さなければなりません。これは一見めんどろなようですが、実はこうすることで信号の蓄積・加工・圧縮・伝送などが非常に柔軟に行えるようになります。デジタル信号の数学的な基礎を身に付け、私たちの身の回りでも使われている信号処理を理論的に理解するだけでなく、PCを使った演習によってデジタル信号処理を体験し、楽しさを実感することができる授業です。



ゼミ紹介

●研究室名 **古神・清水研究室** ●担当授業名 電子回路／超高周波計測／電磁波工学／工学倫理／電波法規／電気回路及演習／電気電子工学実験など

●教員
古神 義則 教授

●教員
清水 隆志 准教授

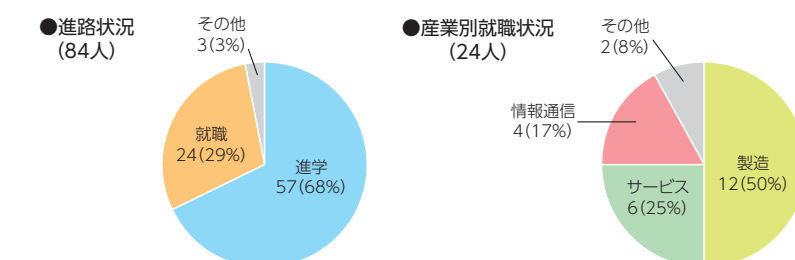
マイクロ波、ミリ波と呼ばれている1GHz~110GHzの範囲の「電磁波」に関する研究及び教育を行っています。これらの電波はその波長が短いため、様々な興味深い性質を持っています。現在は、ミリ波帯における材料特性評価法の開発、ミリ波低損失フィルタ設計に関する研究、ミリ波・光波融合技術に関する研究、ミリ波集積回路技術に関する研究に力を入れています。毎週研究室ゼミを実施し(写真1)、コツコツと積み上げた研究成果を学術発表会や技術展示会(写真2)などに発表するなど、マイクロ波産業の活性化に貢献すべく研究活動を展開しています。

- 卒業論文の例(タイトルなど)
- エンジニアリングプラスチックのミリ波複素誘電率測定
- 減衰極を有する小型BPFに関する基礎的研究
- 誘導体薄膜のミリ波複素誘電率測定に関する研究
- 2モード利用空洞両端短絡型誘電体円筒共振器に関する研究



電気電子工学科の就職・進路情報

2015年度就職者の産業別就職状況(卒業生:84人・就職希望者:24人・就職者:24人)



近年の主な就職先

本田技研工業、日産自動車、富士重工業、トヨタ自動車、日立製作所、グラクソ・スミスクライン、ピジョン、栃木ニコン、富士ゼロックス、三菱重工業、川崎重工業、三菱電機、公務員

応用化学学科

物質が関係するあらゆる問題に化学の「知恵」をもって取り組むことができる人を育てる学科です。低学年のカリキュラムでは基礎学力を重視し、演習を多く取り入れています。学年が進むにつれて、実験の中で物質を扱う経験を積み、応用に結びつく知識を学ぶことで、幅広い分野にわたって活躍できる人を育てています。

応用化学科の教育と研究は、化学を中心とした次の幅広い学問領域をカバーしています。

- 未来物質の創出
- 環境問題及びエネルギー問題の解決ツール
- 原子分子を操るナノテクノロジー
- バイオテクノロジー、農学や医薬との連携分野

専門科目 物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、化学工学、環境化学、生物工学など

資格・免許 ●毒物劇物取扱責任者
●甲種危険物取扱責任者の受験資格
●高等学校教諭一種免許状(工業)



授業紹介

●授業名 **物理化学基礎・演習** ●他の担当授業名 生物工学



●教員
飯村 兼一 准教授

●教員
岩井 秀和 助教

●教員
奈須野恵理 助教

化学反応が進む原理を熱力学の第一法則から第三法則を用いて解説し、化学反応と化学平衡について理解を深めます。物質の物性値から反応熱や平衡定数を計算する方法を学び、与えられた反応条件で化学反応がどのように進行するのか予測する能力を養います。エンタルピー、エントロピー、自由エネルギーといった物理量について学ぶことで、例えば氷を温めると水になり、更に水蒸気として気体に状態変化する理由を理解できるようになります。

講義「物理化学基礎」と練習問題を解く「物理化学演習」の2つの授業を連続して開講しています。演習の授業では、添削を希望する受講生が自ら黒板に書いた解答に説明を加え、講義内容をより深く理解します。



ゼミ紹介

●研究室名 **無機材質化学研究室** ●担当授業名 無機化学基礎・演習／応用化学実験I／無機材料化学など

●教員
単躍進 教授

●教員
手塚 慶太郎 助教

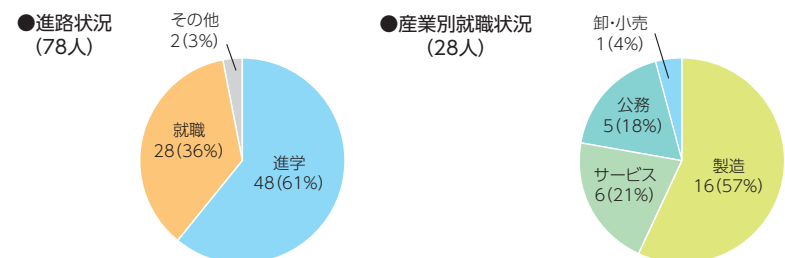
無機固体化合物を対象に主に二種類の研究を行っています。一つは、新しい化学組成や結晶構造をもつ化合物を合成する研究で、結晶構造を決定し、物理的性質を明らかにします。もう一つは、既存の化合物の化学組成や合成法を工夫し、より高性能な材料を開発する研究です。特に、電気・磁気的性質、誘電特性、イオン伝導性、蛍光特性、光触媒活性を明らかにして、企業・大学等との共同研究も行っています。学生はゼミで研究内容に関連した論文の紹介と研究報告を行い、教員や他の学生の意見も参考に研究を進めています。半数以上の学生は大学院に進学します。また、研究室配属歓迎会、ハイキング等のレクリエーションも行っています。

- 卒業論文の例(タイトルなど)
●水熱合成法による新規Rb、Cs-Te酸塩単結晶の合成と構造解析 ●新規層状酸化物LiTiTaO₅の合成およびその正極活性物質としての検討
●Y₃Fe₅-xGa_xO₁₂固溶体のメタノールおよび酢酸分解光触媒活性に関する研究 ●新規(Mnドープ)赤色蛍光体Ba₂Ta₄O₁₅/Mnの合成と評価



応用化学学科の就職・進路情報

2015年度就職者の産業別就職状況(卒業生:78人・就職希望者:28人・就職者:28人)



近年の主な就職先

日清製粉、セリア新薬工業、マニー、小松製作所、東京応化工業、日本サーファクタント工業、足利銀行、JR東日本、市役所

情報工学科

情報科学・計算機工学等を含む広い分野で活躍できる技術者・研究者を養成する学科です。論理的思考力を養う情報数学分野の科目や計算機システムのハードウェア、ソフトウェアに関する科目、人工知能や信号処理などの情報工学応用関連科目など

専門科目 情報工学の数理的基礎となる情報数学関連科目、計算機のハードウェア、ソフトウェアに関する科目、人工知能や信号処理などの情報工学応用関連科目など

資格・免許 ●高等学校教諭一種免許状(工業)



授業紹介

●授業名 **認知科学** ●他の担当授業名 新入生セミナー(学部)／色彩工学特論(大学院)



●教員
阿山 みよし 教授

認知科学とは知のしくみについて学ぶ学問分野です。様々なアプローチがありますが、この授業では視覚を主体にしているので、まず眼の構造や可視光に対する分光感度など基本的な視覚特性を紹介します。次に色知覚、立体視、眼球運動、有効視野、視覚探索、心理学変数の測定などいくつかの項目を選んで、基盤メカニズムと機能的特徴を解説していきます。これらから、人間が外界からどのように視覚情報を収集し、得られた情報をどのように解釈しているのかについて学びます。

情報工学科の学生がほとんどなので、この授業で人間の認知メカニズムの一端を学ぶことにより、わかりやすい情報提示・情報表示に活かしてくれたら良いと考えています。

毎回、授業の最初には錯視を紹介して、画像情報(物理的世界)としての真実と見えているもの(知覚的世界)は違うことを体験してもらっています。また様々なデモ実験を取り入れて我々の視覚認知特性を実感としてわかってもらえるように工夫しています。



授業の様子。
一定サイズの正方形とサイズの異なるひし形を提示して、どちらが大きく見えるかを挙手で回答してもらい、知覚確率曲線から知覚的等価サイズを求める実験をしているところ。

ゼミ紹介

●研究室名 **音響情報研究室** ●担当授業名 電気回路／信号処理／音響情報工学特論など

●教員
長谷川光司 教授

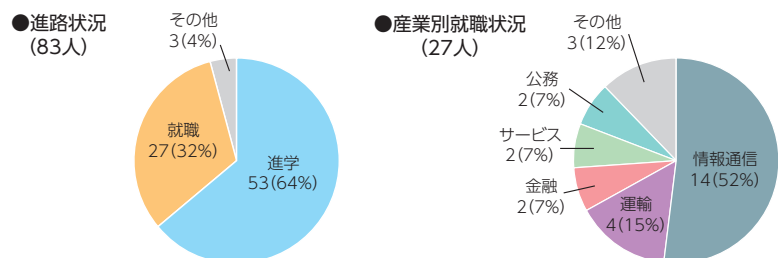
皆さんは、ロックコンサートなど大音量の場所に行った後に、音が聞こえづらくなった経験はありませんか?音の知覚は、状況に応じて様々に変化します。一般には、直前に聞いた音の影響を受けて、次に聞く音に対する感度が低下しますが、場合によっては感度が上昇することもあります。また、視覚的な対象があると、音の聞こえ方や定位する方向が変化します。長谷川光司研究室では、これらの現象を含めた、音の知覚機構に関する研究を行っています。他にも、自動車車室内音響システムの快適性に関する研究や、おしぼりの感性価値向上に関する研究なども行っています。平成25年度には、日光社寺文化財保存会のご協力の下、作新学院高等学校と共同で日光の鳴電の録音も実施しました。

- 卒業論文の例(タイトルなど)
●映像の奥行き変化が主観的等価音圧レベルに与える影響
●絶対音感保持者の音高同定能力について



情報工学科の就職・進路情報

2015年度就職者の産業別就職状況(卒業生:83人・就職希望者:28人・就職者:27人)



近年の主な就職先

日本信号、TKC、JR東日本、NTTデータ、アクリーヴ、日立ソリューションズ、足利銀行、栃木銀行、衆議院事務局、市役所、県庁

学部附属施設 附属ものづくり創成工学センター

工学部附属ものづくり創成工学センターは、「21世紀のものづくり、人づくり」をテーマに活動しています。

まず入学して皆さんにお会いするのは、「創成工学実践I」という授業だと思えます。

考えてみてください。皆さんは大学を卒業した後、就職すると思います。どんな仕事、企業に就職したいと考えていますか？工学部を卒業するのだから、メーカーに就職し、技術者として研究・開発・設計などの仕事を行ってみたいと思っている人が多いのではないのでしょうか。

実際に企業では、どのように製品を開発しているのでしょうか。キーワードは

- チームで作業を行う
- 異なった分野の専門の人が集まって作業を行います。

開発は1人ではできません。仲間・上司・部下と共同でチームで知恵を出し合って開発作業を進めます。例えば、あなたは「新しいロボット」を開発する仕事を任せられました。ロボットを開発するためには、「メカ」に詳しい機械専門の人、「モーターの制御」に詳しい電気専門の人、「コンピュータのプログラム」に詳しい情報専門の人など、異なった分野の人たちが集まって、新しい製品の開発を行います。そこではそれぞれの意見を上手にまとめて1つの製品を開発しなければなりません。

このように、異なった分野の人たちが集まってチームで作業を行い、お互いに上手にコミュニケーションをとりながら作業を進めること

を体験できる授業が「創成工学実践I」です。

この授業は

1. 教員から課題を与えられ
2. それを解決するためにチームで解決方法を話し合い
3. 実際にものを製作し
4. 不十分・不都合があれば修正、改善を行い
5. 成果を発表する

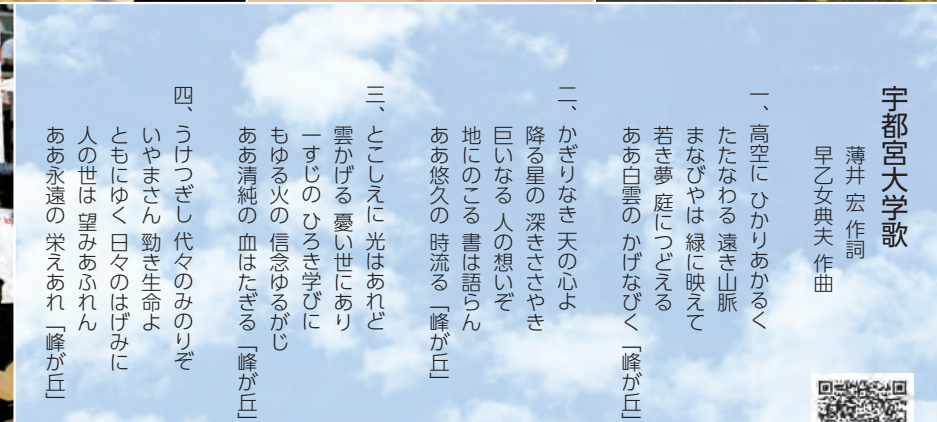
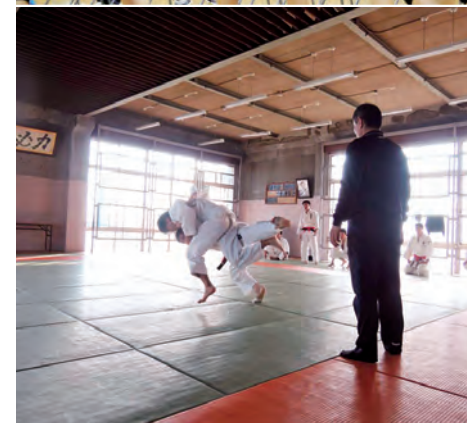
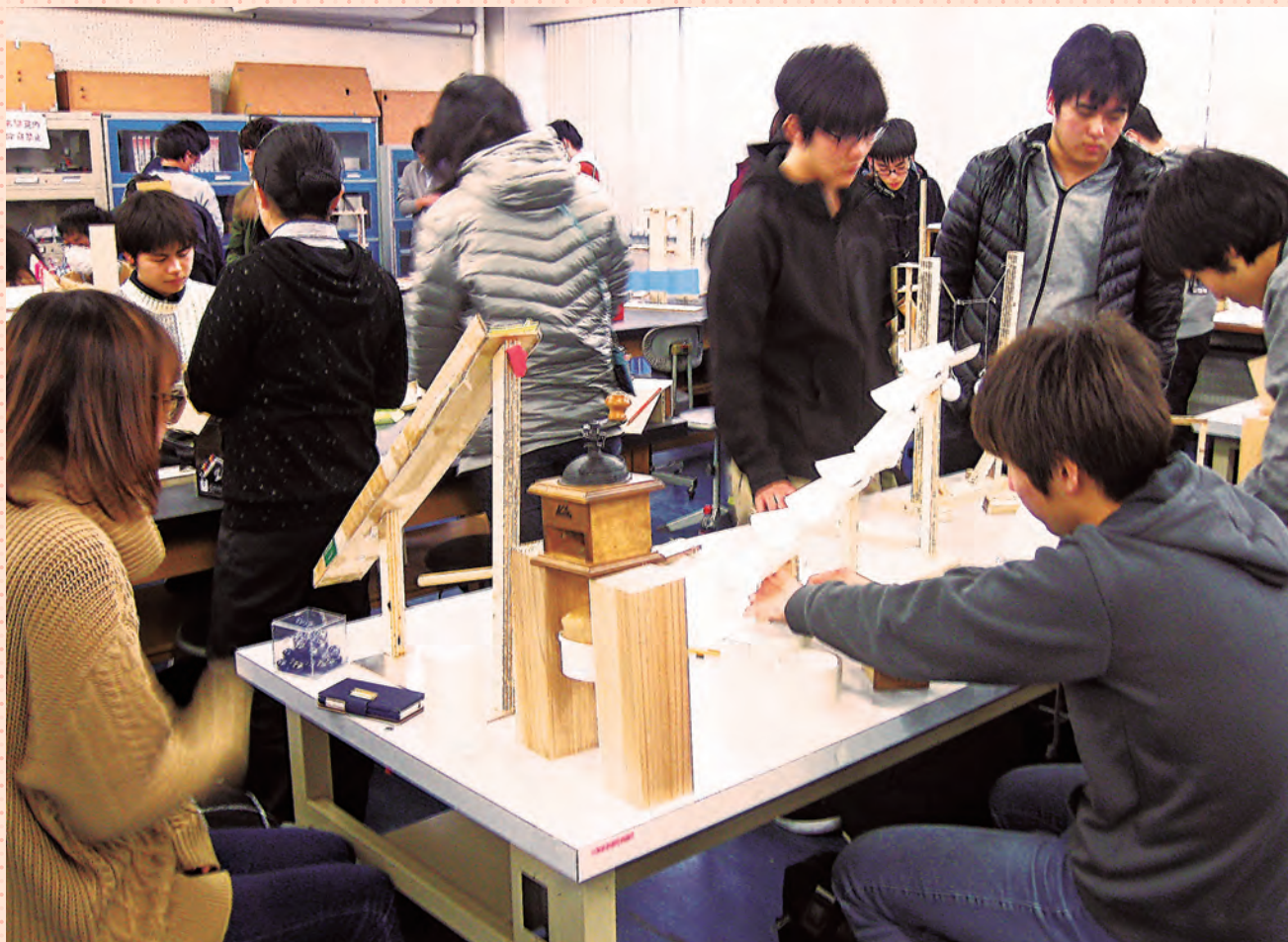
という流れで実施され、チームの判断で自主的に自由な発想で活動できる授業です。

ココがPoint.

また、この授業は「必修授業」、「4学科の学科混成チーム」という、他の大学にはない特徴があります。このような大学卒業後に必要となることを1年生から授業の中に取り入れているのは宇都宮大学工学部だけです。

その他にも、宇都宮大学工学部OBで現役の技術者の方に、仕事や学生時代の体験談やアドバイスなどのお話を聞く授業や、夏休みなどを利用して実際に企業で就業体験を行う「インターンシップ」などの授業科目を用意しています。各学科では専門的知識を学び、それに加えものづくり創成工学センターでは、より実践的な経験ができるような教育を行っています。

まずは見学に来てください。



宇都宮大学歌
薄井宏作詞
早乙女典夫作曲

一、 高空にひかりあかるく
たたなる遠き山脈
まなびや緑に映えて
若き夢庭につどえる
ああ白雲のかげなびく「峰が丘」

二、 かぎりなき天の心よ
降る星の深きささやき
巨なる人の想いぞ
地にのこる書は語らん
ああ悠久の時流る「峰が丘」

三、 とこしえに光はあれど
雲かける憂い世にあり
一すじのひろき学びに
もゆる火の信念ゆるがじ
ああ清純の血はたぎる「峰が丘」

四、 うけつぎし代々のみのりぞ
いやまん 動き生命よ
ともにゆく日々のはげみに
人の世は望みあふれん
ああ永遠の栄えあれ「峰が丘」



農学部



「農」が切り拓く新時代

ブナ天然林での長期生態観測の様子

感動と素直さは学びと科学の源。
あらたな自分に出会おう。
そこから未来の一步！



農学部長

夏 秋 知 英

農林業と関連する産業は、百年前どころか三千年前の過去でも百年後の未来でも、人間の生存にとって必須の分野です。そして、常に時代に合わせて変化します。たとえば、日本人がトマトやキャベツ、玉ねぎ、牛肉を食べるようになったのは明治以降ただか百年ほどですが、今では最重要な農産物です。このような変化する農林業の基本は生物ですので、現在ではその遺伝子レベル、分子レベルからの理解と応用が進んでいます。また栽培の機械化が進み、コンピューターで生育を管理する時代に突入です。一方で、環境を保全し、持続的で循環型の社会の構築も農学部の極めて大切な課題です。

農学分野で総合的な知識と、未来への展開力を身に付けませんか。

農林業と関連する産業は、百年前どころか三千年前の過去でも百年後の未来でも、人間の生存にとって必須の分野です。そして、常に時代に合わせて変化します。たとえば、日本人がトマトやキャベツ、玉ねぎ、牛肉を食べるようになったのは明治以降ただか百年ほどですが、今では最重要な農産物です。このような変化する農林業の基本は生物ですので、現在ではその遺伝子レベル、分子レベルからの理解と応用が進んでいます。また栽培の機械化が進み、コンピューターで生育を管理する時代に突入です。一方で、環境を保全し、持続的で循環型の社会の構築も農学部の極めて大切な課題です。

学部の教育・研究方針

農学部では、持続的で循環する社会を構築するために必要な幅広い教養や倫理観を養い、食料、生物資源、環境保全、農林業に関する基礎から応用までを学ぶとともに、附属施設や学外フィールドで実学を学修した人材を輩出することを目標としています。そのために教育領域は、生産から加工・流通、環境保全など広くカバーします。

本学部は生物資源科学科、応用生命化学科、農業環境工学科、農業経済学科、森林科学科の5学科を有します。いずれの学科とも実学を念頭とした農学教育を目指しているため、1年生ではどの学科にも共通した「コア実習」や、農学全般に関わる必要な知識を提供する「コア科目」を履修します。

また、学部教育を基盤にさらに高度な専門的知識と技術を身に付け、地域社会ならびに国際社会で活躍できる人材育成のために、大学院修士課程があります。研究面では、幅広く現場で役に立つ研究、地域社会に還元できる研究、さらには世界最先端の研究まで広範囲な課題に取り組んでいます。したがって、基礎研究から応用開発研究、産業界や公的試験研究機関との共同研究も積極的に取り組んでいます。さらには、他学部や各センターと共同で分野横断型の研究も盛んです。



特徴的な学部の活動

地域社会と国際社会の発展に貢献するという使命から、基礎から応用まで、地域はもちろん国際的に通用する教育研究活動を行っています。

教 育

- ①1年生はコア科目(農業と環境の科学、生物資源の科学)とコア実習を受講し、基礎的な素養と農学の概念を学びます。
- ②森林科学科と農業環境工学科は、国際的に通用する教育認証プログラム(JABEE)を取り入れ、教育の客観的質保証制度を構築しています。
- ③附属農場は教育関係共同利用拠点に認定され、女子栄養大学など9大学が実習や講義に利用しています。これにより、大学間で連携した教育プログラムの構築・推進が図られ、他学部・他大学と協力して首都圏におけるフィールド型食農教育の展開につながります。
- ④附属演習林は「緑の循環」認証会議(SGEC)の認証を受けました。演習林の自然環境が優れていることを示すもので、大学単独としては日本初です。

研 究

- ①附属農場が育成した「ゆうだい21」が品種登録され、宇大のブランド米として売り出し中です。
- ②植物ウイルスに対するワクチンを世界に先駆け開発中です。
- ③イチゴつみとりロボット、炭酸ガス防虫、カラス対策では先駆的な研究成果をあげています。

農学部 のよくある

Q & A

Q

生物資源科学科と応用生命化学科で学べる内容は、具体的にどのように異なるのでしょうか。

A

生物資源科学科では「より良い生産物を作るための技術」を、応用生命化学科では「生産物をより良く利用するための技術」を学ぶことができます。わかりやすくするために“高品質なプリン”で説明してみましょう。あくまでイメージをつかむためのたとえですよ(笑)。このとき、よりおいしい牛乳や卵を作るために、ウシやニワトリの新

品種を開発しよう!とか、飼育方法を改良しよう!というのが生物資源科学科のアプローチです。一方で、おいしい色や香りの成分がどうやってできてるのかを調べて、作り方を改良しよう!とか、牛乳や卵のアレルギーを軽くするため、アレルギーの仕組みを詳しく調べよう!というのが応用生命化学科のアプローチです。

Q

農場や演習林での実習はどのくらいの頻度で行うのでしょうか。実習先までの送迎はあるのでしょうか。

A

(附属農場)農学部1年生全員がコア実習を受講し、学科等によって曜日や回数が異なりますが、基本的に農場実習は週1回です。2年生以降はより専門的な実習が設定され、学科によって週1回または不定期です。各実習の初回に説明時間を取り、実習予定表を配布します。実習先である農場までは大学のバスでの送迎があります。(附属演習林)農学部1年生のコア実習は、生物資源科学科、応用生

命化学科、農業環境工学科で1回、農業経済学科で3回、そして、森林科学科では、8回あります。林業体験型のコア実習は主に栃木県北部の塩谷町にある船生演習林で実施されます。送迎は大学のバスで行い、峰キャンパスから約1時間です。さらに、森林科学科の2・3年生では、船生演習林に加えて、日光演習林における宿泊実習も多数、実施しています。

Q

農学部は理系の学部ですか？

A

農学部は理系学科がメインですが、農業経済学科のように社会科学(経済学や経営学、社会学など)を学べる学科もあります。また森林科学科でも、森林を対象とした経済学や政策学、法律学などの講

義を開講しています。私たちは理系と文系が融合した「総合農学」という考え方に基づいて、農業を多面的な視点からとらえ、教育研究しています。

入試のアドバイス

推 薦 入 試

推薦入試の小論文では、課題についてよく理解し、自分なりの考えをまとめて、論理的に文章を記述する力が必要です。日頃から希望する学問分野や社会情勢について問題意識を持つことが大切です。国語の試験ではありませんが、基本的な漢字は正しく書けるようにしておきましょう。面接では、志望動機や将来展望などが聞かれることが多いのですが、丸暗記の棒読みのようなでは面接者にメッセージが伝わりません。事前に自己分析して心を整えておき、当日は自分の言葉で思いを伝え、しっかりと自己アピールしましょう。推薦入試合格者には、入学前教育の課題がそれぞれの学科で課されますので、しっかりと学習してください。

一 般 入 試

一般入試では、センター試験を中心に学習してください。前期の個別学力検査では、過去の入試問題を参考に、基礎的な内容を中心に学習してください。文字数の多い解答が求められる場合もありますので、小論文と同様に論理的に書くトレーニングを積んでおくとよいでしょう。

受験勉強に取り組むことは入試のためだけではなく、今後の人生で必ず役立ちます。体調管理に気を付けて、向上心を持って、日々がんばってください。



学 生 メッセージ

生物資源科学科3年
塩 野 莉 沙
茨城県立古河第三高等学校卒業

高校では生物が好きだったので農学部に行こうと考えました。農学と言っても様々な分野があり、生物資源科学科では、植物・動物・昆虫・微生物と幅広い分野について学ぶことができます。1年生のうちから多種多様な講義を受けることができるので、早い段階でその分野に触れられ、選択の幅が広いことが魅力の1つだと思います。

また、講義だけでなく、実習や実験があります。バイオサイエンス教育研究センターなど設備の充実した施設がたくさんあり、附属農場の実習は楽しく、貴重な経験になりました。

様々な土地から集まり、色々な考え方や夢をもつ友達、すばらしい先生達がいて、お互いに刺激し合いながら「農」や「食」の大切さを日々感じています。



学 生 メッセージ

パナソニック(株)エコソリューションズ社
品質・環境部 環境推進課 勤務
大 和 田 麻 木
2016年3月 農業環境工学専攻修了

学生時代はカンボジアで有機農業支援に参加したり、バイオマス燃料電池の研究に夢中になったりと幅広い経験を積むことができました。今は社会人となり、世界の暮らしに役立つものづくりに取り組んでいます。その中で私は、ものづくりの過程で環境汚染が生じないよう工場をサポートしたり、省エネや3Rといった環境貢献活動の推進をしたりしています。時には海外に渡り、現地スタッフのために勉強会を開いたりもします。製造業の立場で地球環境への貢献をとことん考える。難しいながらも、日々面白さがあります。農業環境工学科で学んだ「人と自然の調和した暮らし」の実現に向け、今後も様々な経験と多くの学びを大切にしていこうと思います。

生物資源科学科

食料等の人の生活資材を生産する生物資源の機能解明と開発を通じて、生物資源の持続的生産と、地域から地球に至る環境の保全を図るための基本的・応用的な教育研究をおこないます。生物資源の合理的な生産と利用に関する理論と実践力を身に付けグローバルな視点を持ち、農業や関連産業に貢献できるスペシャリストでありながらジェネラルな素養を持つ人材を養成します。

専門科目

作物学、園芸学、遺伝・育種学、植物病理学、植物栄養学、基礎土壌学、分子昆虫学、動物育種学、動物及び植物生産学概論、遺伝子工学、フィールド実習など

資格・免許

●高等学校教諭一種免許状(農業)



授業紹介

●授業名 生物科学実験

●教員 全教員

この実験では農業やバイオサイエンスで取り扱う動物・植物・昆虫・微生物の形態観察を中心とした実験法について学び、さらに応用技術を学ぶための基礎作りを目的としています。光学顕微鏡から電子顕微鏡まで色々な器具を使用し、菌類から哺乳動物まで様々な生物資源に触れるとともに、それらをとりまく環境について体験しながら学びます。最後に、各実験結果と学びについてのプレゼンテーションを行い、発表と質疑応答の能力を養います。

ゼミ紹介

●研究室名 土壌学研究室 ●担当授業名 基礎土壌学／分析化学実験／分析化学(演習)／農業生産環境学／フィールド研究論／フィールド実習Ⅰ(植物分野・動物分野)／フィールド実習Ⅲ／アグリバイオサイエンス実験／特別演習／特別研究／卒業論文

●教員 平井 英明 教授

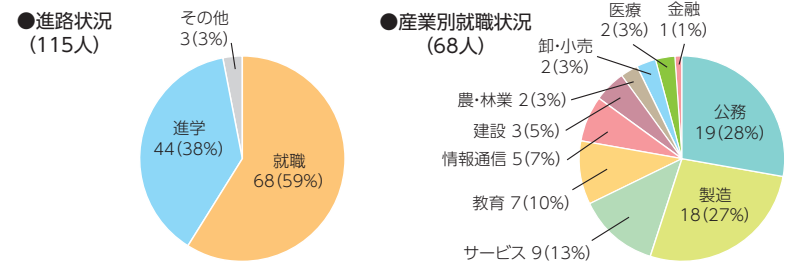
2015年は国連が定めた国際土壌年でした。人類の生存の基盤である土壌の劣化が報告されるようになり、警鐘を鳴らすため定められました。土壌の誕生は、動植物の進化とともに約4億年前のことでした。それ以降、成長し続けた豊かな土壌を活用して人類は農耕により人口を増加させて行きました。世界各地で、数多くの農法がその土壌の特性に応じて行われていますが、土壌劣化を最小限にとどめる持続的な農法の開発が不可欠です。私どもの研究室では、この土壌の大切さを子供たちに伝える土壌教育活動や地域の有機物資源を資源化し、それを土壌に加えて土壌を育てながら水稻を生産する方法に関する研究を里山の人々と協力しながら行っています。

●卒業論文の例(タイトルなど)
●地域の未利用有機物資源を用いた水稻の有機育苗に関する研究
●森林下層土と有機質肥料を用いた水稻有機育苗に関する研究
●アロフェン質黒ボク土における施肥法がイネの養分吸収と玄米の成分組成・品質・食味に及ぼす影響

生物生産科学科※の就職・進路情報

※生物生産科学科は、2013年度入学生より生物資源科学科と応用生命化学科に改組しました。

2015年度就職者の産業別就職状況(卒業生:115人・就職希望者:70人・就職者:68人)



近年の主な就職先

キッコーマン、山崎製パン、滝沢ハム、カネコ種苗、キューピー、JR東日本、足利銀行、ゆうちょ銀行、国立印刷局、農林水産省、県庁、市役所、全国農業協同組合、栃木県農業振興公社、教員(農業)

応用生命化学科

生命の営みに関するさまざまな事象を“物質の流れ”という観点から解明していきます。授業では、基本的なツールとしての化学に加え、生物やその他の領域も総合的に学ぶことで「生命」を理解することを重視しています。そして、真に豊かな暮らしを支える科学技術の発展を図るための基本的・応用的な教育研究を行い、生命・食品・環境の分野で問題解決に積極的に取り組むことのできる人材を養成します。

専門科目

有機化学、生物化学、応用微生物学、食品化学、食品免疫学、分子生命科学、高分子材料化学、化学と生命など

資格・免許

●高等学校教諭一種免許状(理科)
●食品衛生管理者および食品衛生監視員資格



授業紹介

●授業名 食品加工論 ●他の担当授業名 食品化学／基礎無機化学など

●教員 橋本 啓 教授

私たちが生きていく上で欠かすことのできないもの、それが食品です。おいしい食べ物は私たちをととても幸せにしてくれます。現代社会では、いつでも、どこでも、いろいろな食品が手に入るようになっていきます。しかし、この状況は決して当たり前のことではありません。この便利な生活は、多くの科学技術に支えられているのです。私たちは、なぜ、果物をジャムに、野菜を漬け物に、魚を干物にして食べるようになったのでしょうか。冷凍食品や缶詰はなぜ長持ちするのでしょうか。そんな「食品加工の？」の科学を学ぶことで、食品のおいしさや安全性に関する理解を深めましょう。

ゼミ紹介

●研究室名 食品生化学研究室 ●担当授業名 食品生化学(総論)／食品生化学(各論)／食品免疫学／基礎化学演習Ⅱ

●教員 東 徳洋 教授
●教員 山田 潔 講師

高齢化社会に向けて、これからますます食の重要性が問われることになります。それを裏付けるように、毎日のように、食と健康についての話題がテレビや新聞紙上を賑わしています。食べ物は、栄養源として機能するのみならず、生体の恒常性を維持すべく、神経系、ホルモン系、免疫系など、様々な調節機構に関わっています。また、食品には消化過程を経て機能を発揮するように変化する成分もあります。乳は本来、新生動物にとって唯一の食餌であり、多様な機能をもつ成分、タンパク質の宝庫です。当研究室では、乳を中心に様々な食品を研究対象にして、1)多種多様な成分の特性と機能の解析、2)乳成分の高度利用法の開発、3)生活習慣病予防や生体防御に関与する成分の探索・解析などをテーマに、生化学・免疫学・細胞工学・遺伝子工学など多様なアプローチ法を適用して研究を進めています。一つの研究テーマから、実験の計画・実験・結果の解析を通して、自分で考え、解決していく道程を味わってください。

●卒業論文の例(タイトルなど)
●乳脂肪球皮膜による食事由来コレステロールの吸収抑制
●乳脂肪球皮膜由来のPAS-4による泡沫化細胞のアポトーシス阻害抑制効果
●乳脂肪球皮膜の破骨細胞への分化抑制効果
●経口免疫寛容に及ぼす乳脂肪球皮膜摂取の影響
●高圧下酵素処理したβ-ラクトグロブリンの低アレルギー性評価

森林科学科

森林科学は、森林管理や生産に従事している森林所有者、林業労働者、木材加工業者、林業技術者など生身の人間、すなわち本当の担い手を意識した、「実学」としての森林に関する学問です。本学科での学びを通して、50年、100年後の未来を見据えた森林の利活用のあり方を国民に自信をもって提示できる知識・能力を身に付けていきます。卒業すると、国家公務員としては農林水産省・林野庁、国土交通省、環境省、地方公務員（上級職）として都道府県林務部関連（技術職）や市町村役場（行政職）、そして民間林業関連団体の専門的技術・行政担当者として、まさに森林科学関連の高等専門教育を受けたフォレスター（森林に関わる実践的専門家）としての活躍が期待されています。

- 専門科目
- 育林学、森林計画学、森林生産経済史、森林工学、砂防工学、森林資源利用学、木材組織学、森林保護学、森林科学総合実習
- 資格・免許
- JABEE認定による修得技術者（技術士補）
●測量士補
●林業架線作業主任者免許
●高等学校教諭一種（農業）
●樹木医補



授業紹介 ●授業名 育林学 ●他の担当授業名 森林生態学／森林立地環境学／森林保護学／国際森林科学論／樹木学実習／育林学実習／森林立地環境学実習／森林保護学実習



●教員 大久保 達弘 教授

森林は大切に扱うと末永く利用できる自然資源です。森林を育てるときは農地と違ってふつう水や肥料を与えず自然力に頼ります。しかし時に自然で不足する森林の再生力を人が補うことで、森の恵みを後世まで利活用することができます。育林学の基本的な考え方は、本来森林が持っている再生力に関する生態や立地環境の知識とその条件を達成するために必要な経済性を加味した総合技術学で、広い見識から“森づくり”のあり方を学びます。具体的には森林の育成・修復に関わる一連の森林管理技術、すなわち森林の代わり（更新）、森林の仕立て（造林）、森林の手入れ（保育：下刈り、除伐、つるきり、間伐、枝打ち）の意義と方法について修得します。



木を植えることから始める森づくり（船生演習林での育林学実習）

ゼミ紹介 ●研究室名 森林政策学研究室 ●担当授業名 森林政策学／森林生産経済史／森林法律学／森林産業立地論／森林政策学演習など

●教員 山本 美穂 教授

●教員 林 宇一 助教

森林政策学研究室では、総合科学の体系を持つ森林科学の中で、社会科学分野、すなわち経済学、政策学、法律学、歴史、地理等の分野をカバーしています。森林と人との関わる社会的現象すべてがその対象領域となります。学生達は、学部3年間で森林科学の基礎を学んだ後、研究室で社会調査の方法について学び、研究テーマを模索しながら実際に研究室を飛び出し、現地に直接足を運んで様々な調査に取り組みます。学部でしっかり実証研究に取り組んでもらい、修士課程へ進む場合には、さらに多くの文献・資料に触れ、理論的な背景について強化して、より一段レベルの高い修士論文を完成させます。

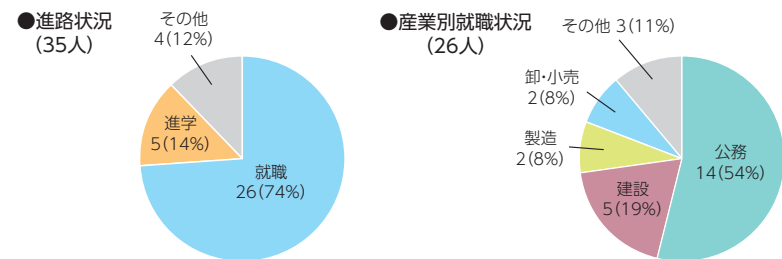


古農機具の使いかた聞き取り中

- 卒業論文の例（タイトルなど）
- 昭和40年代における農家林家の林野利用―栃木県那須烏山市C家の事例―
●間伐材等有効利用による自伐林家育成の可能性―木の駅プロジェクトなかがわの事例より―
●都道府県による「木育推進事業」の現状と課題 ●森林計画制度改正への市町村の対応―栃木県下15市町を事例として―

森林科学科の就職・進路情報

2015年度就職者の産業別就職状況（卒業生：35人・就職希望者：28人・就職者：26人）



近年の主な就職先

林野庁、道府県庁、市役所、町役場、住友林業、日比谷アメニス、中国木材、グランディハウス、アジア航測、森林組合連合会

学 部 附 属 施 設 附属農場

教育関係共同利用拠点

附属農場は、総面積101haの広大な敷地に、水田、普通畑（ムギ、ダイズ、ソバなど）、野菜畑（ハクサイ、ダイコン、ネギなど）、果樹園（ブドウ、ナシ、リンゴなど）、施設園芸用（シシトウ、観葉植物など）や養液栽培のトマト、キュウリ）の温室やハウス、飼料畑（牧草、飼料トウモロコシなど）、さらに広大な放牧地等があり、約60haを耕作地として利用しています。

そして、これらの教育研究環境を効果的かつ効率的に活用するため作物、園芸、畜産、機械・土地利用の4分野が協力し、生産性の向上、省力化、効率化を基盤とし、環境保全型・循環型生物生産システムの構築を目指した農場運営を実践しています。研究成果の一例として、国立大学法人としては初の本格的主食用米品種「ゆうだい21」を開発

し、おいしいお米として話題になっています。

そして、この理想的な教育研究環境を生かしたフィールド実習や農場産農産物を用いた加工実習を、農学部をはじめ全学に提供しています。また、フィールド教育分野の全国共同利用拠点として文部科学省の認定を受け、首都圏近郊の9大学と連携した教育カリキュラムを実施しています。さらに、「ゆうだい21」に加え、農場産牛乳を原料としたフレッシュチーズなど積極的にオリジナル商品の開発を行っています。



大型機械を使った水稲収穫実習



誕生間もない子ウシへの哺乳実習

学 部 附 属 施 設 附属演習林

●船生演習林 ●日光演習林

農学部附属演習林は、標高260～600mのヒノキ・スギの林業地域に設定されている船生演習林(538ha)及び日光国立公園内の標高1,390～1,970mに位置し、天然林としては主にミズナラ、シラカンバ、コメツガなど、人工林ではカラマツなどが生育している太郎山地区と戦場ヶ原地区の2地区から構成される日光演習林(208ha)からなる教育研究施設です。

2つの演習林は、気候・地形・地質などの立地環境条件や森林の成長過程が異なり、多様な森林生態系を有しています。この特徴を生かし、森林に関する基礎的・応用的な調査・研究が行われ、学生が実習・実験を通じて森林を対象としたサイエンスの総合的な体系の理解を深める実践フィールドとして活用されています。特に船生演習林では、保

有している高性能林業機械の操作を行う森林工学実習など様々な学生実習を実施しています。

農学部附属演習林は、「緑の循環認証会議(SGEC)」森林管理認証を取得し、森林管理認証の取得により持続的保全管理に基づく体験的教育を通じて、森林・林業に関する専門家の育成、新たな森林管理論と高度な実践的技術の普及、最新情報の発信によって社会に貢献します。



ヒノキの苗の植え付け実習



ヒノキの枝打ち実習

大学院

国際学研究科 大学院博士課程

前期 後期

博士前期課程 ●国際社会研究専攻 ●国際文化研究専攻 ●国際交流研究専攻 博士後期課程 ●国際学研究専攻

国際学研究科は、博士前期課程2年、及び博士後期課程3年から構成され、APSIA(国際関係大学院連合)に準加盟し、教育研究面での国際的認証を受けた研究科です。

博士前期課程は、国際的な社会・経済問題や国家間・民族間の対立、国際環境汚染などの問題を研究する国際社会研究専攻、思想・言語・文学などの文化諸相の比較研究、異文化間の摩擦や相互理解などの問題を研究する国際文化研究専攻、市民レベルから国家レベルにわたるさまざまな形の国際交流・国際貢献のあり方を研究する国際交流研究専攻の3つの柱で構成されています。これら3つの専攻は教育研究の面で相互に深い関わりを持ち、学際的・総合的な視点から多文化公共圏の形成を追求しています。

平成19年度に新設された博士後期課程には、前期課程の3専攻を統合した国際学研究専攻がおかれています。



教育学研究科 大学院修士課程

学校教育専攻 ●教育科学コース ●特別支援教育コース ●教科教育コース

教育関係諸課題を多面的・学際的な視点から捉え、児童生徒の指導上の諸課題に対応するための心理・発達に関する学問的・実践的知識を礎に、教科や教職についての幅広い知識・理解や高度な専門性を実際の授業に活かし、適切な授業を構成できる「研究力・創造力」、および新たな学びを継続的に推進できる「展開力」など、教科や教育理論に強い高度な実践的指導力と専門的力量を有する教員の育成に努めています。

また、他大学から入学し、中学校などの教員免許状を希望する方には、大学院で学ぶことと同時に教員免許状も取得できる「教育職員免許取得プログラム」を用意しています(ただし、取得にあたっては一定の条件等があります)。



教育学研究科 専門職学位課程

教育実践高度化専攻(教職大学院)

学校現場が直面している諸課題に対して、理論と実践の架橋・往還・融合を通して、多様な人々と協働しながら課題解決できる力量を備えた、高度な教育専門職としての初等中等教育教員を養成します。主に、「学校改革力」、「授業力」、「個への対応力」の資質育成を中心に、研究主任や教務主任などの学校現場の中核教員や地域教育界のリーダーや管理職として働く教員など、学校改革や授業改善のリーダーとして地域貢献する人材を輩出していきます。

工学研究科 大学院博士課程

前期 後期

博士前期課程 ●機械知能工学専攻 ●電気電子システム工学専攻 ●物質環境化学専攻
●地球環境デザイン学専攻 ●情報システム科学専攻 ●先端光学専攻

※各専攻では学際領域副プログラムとして以下を受講することができます。

○オブティクス・プログラム ○ITスペシャリスト・プログラム ○経営工学プログラム

○融合領域プログラム(ロボティクス分野、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野、グリーン・イノベーション分野、実践ものづくり分野)

博士後期課程 ●システム創成工学専攻
循環生産工学コース、機能創成工学コース、知能情報学コース、学際先端システム学コース

工学研究科は、高度な工学的専門能力を身に付け、自主的に課題を解決できる指導的な人材養成を行い、産業界を中心に広い視野で活躍する人材を輩出するために自然環境および人工環境と人類との共生を目指し、持続可能な社会の形成に寄与する高水準の研究を推進することを理念としています。

近年の学術研究の高度化や産業界の要望に応え、2015年4月から新たに先端光学専攻を加え、充実化を図っています。修士課程に相当する博士前期課程2年には、工学部の学科を基礎とした5専攻と最先端光科学を研究する先端光学専攻があり、多くの優秀な人材を輩出しています。また博士後期課程3年にはシステム創成工学専攻があり、4コースから成り立っています。

博士前期および後期課程は「開かれた大学院」として、企業などに在籍したままでも教育研究が受けられる制度を持っています。また、「国際化」への対応として、留学生を積極的に受け入れています。



農学研究科 大学院修士課程・大学院博士課程

東京農工大学大学院
連合農学研究科

修士課程 ●生物生産科学専攻 ●農業環境工学専攻 ●農業経済学専攻 ●森林科学専攻 博士課程(連合農学研究科)

4年生で取り組む卒業論文研究から大学院にかけては、より専門的で最先端の教育を受け、実際に世の中の役に立つ研究に携わります。大学院まで進学すると、その分野での世界の最先端が理解でき、世界と研究面で競い合うことを体験でき、高校や大学2年生くらいまでの教育では見ることのできなかった新しい世界を知ることができます。すると20年後、30年後に世界がどういう方向に進むか、的確に判断できるようになります。このために、学部ではしっかりと英語を身に付けましょう。

さて修士課程には、生物生産科学、農業環境工学、農業経済学、森林科学の4専攻があります。また国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と宇都宮大学大学院農学研究科は協定を結び、同機構の畜産研究部門が生物生産科学専攻「資源循環・土地利用型畜産学分野」を担当しています。

この中で、バイオサイエンスおよび環境科学、特に生物資源や環境保全に関する専門的学識と研究能力を備えた研究者・開発技術者となり、生物・環境関連産業諸分野の発展に寄与することを目指します。実際に従事する研究の成果は学会発表や時には論文執筆として世に問い、海外研修、あるいは企業や公的機関との共同研究につながります。

さらに、宇都宮大学農学部は東京農工大学と茨城大学の農学部と協力して連合農学研究科(博士課程)を構成しており、修士課程の修了後は博士課程に進学することができます。

連合農学研究科には、生物生産科学、応用生命科学、環境資源共生科学、農業環境工学、農林共生社会科学の5専攻があります。ここでは、創造性豊かな応用力に富む研究者の養成を行っています。

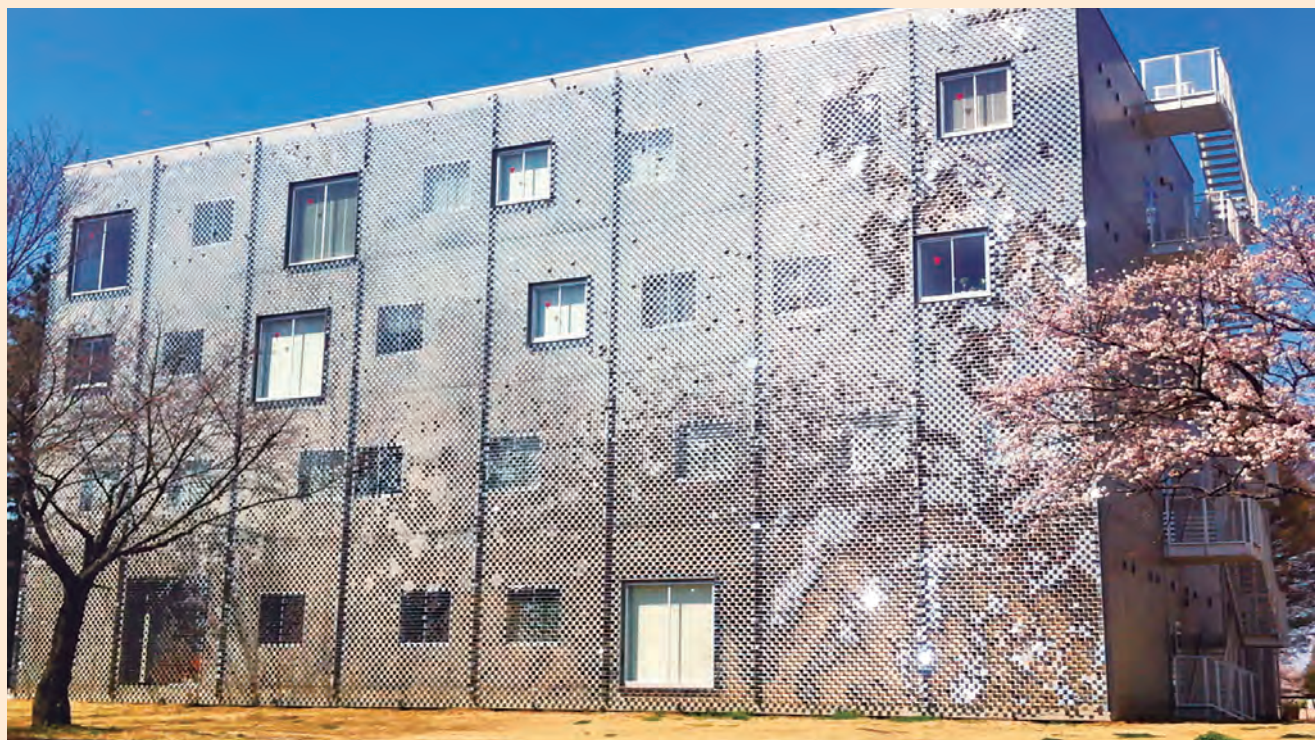


宇都宮大学には、学部附属施設のほかに学内共同教育研究施設があります。各施設では、教育・研究支援をはじめ、学生生活支援や就職支援、地域連携や研究の知的財産管理に至るまで、幅広い活動をしています。ここでは、世界と競う先進的研究に取り組んでいる施設を中心に紹介します。

オプティクス教育研究センター

陽東キャンパス

Center for Optical Research & Education (CORE)



光工学研究の国内唯一の施設

オプティクスは、光に関する学問です。カメラ、ディスプレイ、光通信、医療機器、顕微鏡、照明などの生活を豊かにする様々な技術に応用されています。オプティクス教育研究センターでは、オプティクスに関する教育と研究のために2007年に設立され、夢あふれる様々な研究を行っています。

また、当センターや工学研究科先端光工学専攻の教員が、光学の基礎や応用に関する講義「光科学入門」「光工学1」「光工学2」を開講していると共に、各学科の講義や実習を担当しています。

1. エコロジー光メモリー (超高密度でエコな光による情報の記録、大規模データセンターの省電力化に貢献)
2. バイオメディカルイメージング (動物の行動から組織の構造、細胞内の分子までも光で観察。医用や創薬に貢献)
3. 超高速・超精密ホログラフィックレーザー加工 (次世代のナノ・マイクロものづくりに貢献)

4. 空中映像・体積映像・立体映像 (新たな映像表現、映画の中の世界が一步・一步現実のものに)
5. 工業計測 (見えない傷の発見、大型機器の高精度計測、工場ラインでの全数計測、流れ計測、熱計測)
6. 光と感性情報 (色の見え方・色の見せ方、照明の設計、工芸品の美しさ、構造的な光装飾)

インド、マレーシア、メキシコ、ベトナム、中国、台湾、オランダ、アメリカ、パングラデシュ、スリランカなど世界各国からやってきた教員や学生が、日本人の教員や学生と協力しながら、最先端光工学の研究を進めています。



雑草と里山の科学教育研究センター

峰キャンパス

Center for Weed & Wildlife Management

私たちの暮らしは時代とともに便利かつ快適になっています。しかし身の回りを見渡すと、快適さの代償として、急速かつ大規模な土地の改変、本来の分布域を越えた生物の移動が頻繁に行われ、地域の生態系のバランスは大きく変化しました。その結果、希少な生物が減少したり絶滅したりするだけでなく、これまで出会ったことのない生物や身近な生物が急増し、私たちの生活に様々な影響を及ぼしています。雑草と里山の科学教育研究センターは、自然に暮らす生き物と、われわれ人間との間に生じた人間活動に起因する軋轢、特に雑草と野生鳥獣が引き起こす問題の解決に様々な視点から取り組み、その成果を社会に還元していきます。



植生マネジメント部門

Vegetation Section

身の回りの自然を支える植生(ある場所に生育する植物の集団)のマネジメントは、私たちの豊かな暮らしの実現に不可欠で、雑草の防除はその重要な課題の一つです。この部門では、地域植生の多面的解析を通じて、植生を巡る問題を抽出し、安全かつ持続的であり、私たちの暮らし、文化に調和したマネジメントの方針と技術を探索しています。また、制御が困難な「難防除雑草」を取り上げ、侵略性発現機構の解明と制御法の開発に関する研究を、主にフィールドサイエンスの視点から実施しています。



野生鳥獣管理部門

Wildlife Section

高度経済成長期以降、薪炭林の利用低下や耕作放棄地の増加によって、野生鳥獣の好適生息地が国内に広がりました。その結果、ニホンジカやイノシシなどの分布域が急速に回復し、各地で農林業被害が発生しています。また、地球規模での経済活動の進展によって外来種の侵入が促され、自然生態系の保全を進める上で大きな課題となっています。こうした野生鳥獣と人との軋轢を解消するため、野生鳥獣管理部門では個体群生態学などの基礎分野だけではなく、野生動物管理や生態系保全といった応用研究も行っています。



地域資源開発部門

Satoyama Development Section

日本の里地里山では、人は自然に働きかけ、自然と共生しながら暮らしを営んできました。そこには、厳しい自然環境の中で生き抜くための数多くの知恵と技術によって育まれた文化や風土があり、二次的自然環境が創られてきました。しかし、都市への人口流出と高齢化の進行、産業構造の変化により、里山における資源利用は停滞し、生物群集も変化しました。地域資源開発部門では、かつてとは大きく異なる里山と積極的に関わりながら、そこに住む人を含めた地域資源を活用する方策の開発やその持続的発展を促す社会システムについて研究し、その成果に基づいた教育や地域貢献活動を行います。



バイオサイエンス教育研究センター

峰キャンパス

Center for Bioscience Research and Education (C-Bio)

バイオサイエンス教育研究センターは、ゲノミクス研究棟、環境調節実験棟および化学分析用実験室で構成されています。ゲノミクス研究棟には、遺伝子組換え植物を栽培するために、空調や排水など完全に閉鎖された環境となっている閉鎖系温室、日照時間や温度などの様々な条件を人工的に制御できる人工気象室が備えられています。また、遺伝子組換えマウスやラットを飼育するための施設も備えています。遺伝子(DNA)や遺伝子産物(タンパク質)などに関する様々な分析が行える機器分析室もあります。環境調節実験棟には、太陽光を利用しながら温度や二酸化炭素濃度などを調整できる環境調節ガラス室、地中熱を利用した地中熱交換ハウスなどがあります。化学分析用実験室には、生体分子(化学物質)の構造を解析するための質量分析装置が備えられています。

上記の施設と設備を基盤として、地域の中核的教育研究機関としての宇都宮大学の機能強化および人材育成に貢献するため、(1)

研究支援(2)地域貢献(3)研究推進、の3つを使命としています。

(1) 研究支援

動植物の飼育栽培や遺伝子組換え実験、遺伝子からタンパク質、そして代謝物までを網羅した先端バイオサイエンス研究をサポートできる体制を整えています。「ゲノミクス解析」・「生体分子機能解析」・「動物」・「資源植物」・「バイオリソース」・「アイソトープ」の6部門を設置し、各部門には最先端の設備・機器を導入しています。また実験技術に関するセミナーおよび個別相談なども実施しており、利用者の研究をハード・ソフトの両面から支援しています。

(2) 地域貢献

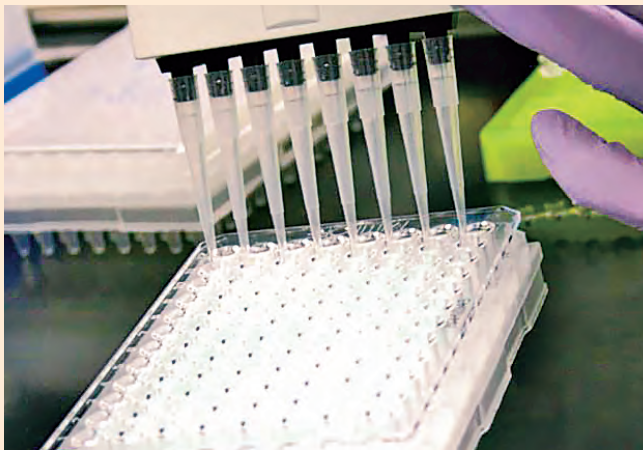
「ひらめき☆ときめきサイエンス」や「グローバルサイエンスキャンパス」などの事業を受託し、地域におけるバイオテクノロジー分野の理解推進や人材育成に貢献していま

す。たとえば、小・中学生対象の「科学実験講座」、高校生・高校教員対象の「バイオテクノロジー体験講座」の開催や高校が実施する「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に協力しています。また、「地域イノベーション戦略支援プログラム」などの支援を受けて、県試験場や県内企業との共同研究を推進し、地域社会にも貢献しています。

(3) 研究推進

農工連携やオプトバイオ連携などの異分野融合研究を推進する中枢組織として機能しています。兼任教員も含めた学科・学部を超えたネットワーク強化により、異分野融合型の共同研究や高水準で特色のある研究を推進しています。

また、センター専任教員は、分子生命化学、植物分子生物学、基礎有機化学などの講義や、分子生物学実験、生物科学実験、基礎化学実験などの実験・実習を担当しています。



総合メディア基盤センター

峰キャンパス

陽東キャンパス

Media Network Center



宇都宮大学総合メディア基盤センターは、大学の情報通信基盤及び情報システムに関する企画立案や設計、運用を担い、教育研究及び大学業務を支援するとともに、ICT(情報通信技術)関連分野における教育研究や設計、運用を通じて、全学へ、そして社会へ貢献していくことを目的とする組織です。

その目的を実現に導くため、センターでは、早期に、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)及びIRBC(事業継続のためのICT準備態勢)に関する国際標準を柱とした活動を展開し、教育研究情報を安心して活用できる情報通信基盤の維持・発展に努めています。

教育研究情報の流通の幹線である学術情報ネットワークSINET5との接続を担い、さらに、ふたつのキャンパスに設置されたコンピュータ教室群を超広域ネットワークで結び、そこでは、全学生が豊富なソフトウェアを利用できるように整備しています。教育学部附属学校園や農学部附属農場、演習林とキャンパスを結ぶ広域広帯域ネットワークの設計・運用も担っています。

また、栃木県の企業の皆様との協力による実践的なICTを学ぶ機会の提供や、通信事業者との協力によるキャンパスWi-Fiアクセス展開、自然環境に配慮したICT基盤の開発整備などの特色ある取組みを推進し、様々な角度から教育研究を支援し、推進しています。

世界を結ぶ情報通信ネットワークは、日々進化しています。そして、ネットワークは昼夜無く稼働を続けなければなりません。総合メディア基盤センターは、大学や地域の発展のために、常に安定し、かつ安心して利用できる最新の情報通信環境を提供し続けることに注力するとともに、ICTに関係する様々な活動や機会を通じて皆様のお役に立てるよう鋭意努めております。



地域連携教育研究センター

峰キャンパス

Center for Education and Research of Community Collaboration(CERCC)

宇都宮大学は、平成3年に国立大学初の「生涯学習教育研究センター」を設置してから22年間、地域の生涯学習に関する調査研究、生涯学習機会の提供や指導者養成等により高等教育の開放に努めてきました。その生涯学習教育研究センターを母体として、本学の地域貢献をさらに進めるため、地域と大学の架け橋としての役割を担う組織として、平成25年4月に地域連携教育研究センターを設置しました。

大学の知的資源や教育、施設設備などを活かして、地域社会との協働による人材育成、学習機会の提供、調査研究などを通じて、地域社会の課題解決に貢献しています。

地域連携教育研究センターの事業

●地域連携及び生涯学習に関する方法、内容に関する調査研究

これまで蓄積してきた生涯学習教育研究センターの調査研究の上に新たな地域連携に関する調査研究機能も兼ね備え、地域と連携した共同研究、地域の依頼に応じた受託研究などを進めています。

●生涯学習、指導者養成に関する事業の企画立案

公開講座や社会教育主事講習、栃木県教育委員会や栃木県総合教育センターなどとの共催による指導者養成に関する事業を企画立案、実施します。

●地域連携に関するコーディネート

企画広報課地域連携係とともに、大学内の人材の紹介や交流機会の提供、情報の発信を行い、地域の団体が宇都宮大学の関係者とアクセスしやすいしくみをつくります。



COC+「とちぎ仕事学」部門

文部科学省の地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「輝くとちぎをリードする人材育成地元定着推進事業」の採択を受け、平成28年度より本格始動しました。とちぎをフィールドとする地域志向の宇都宮大学として、学生にとちぎの資源・課題・可能性を伝え、地域を志向した人材の育成や、学生にとちぎの企業人をつなげる活動等に取り組んでいます。

(平成28年度の活動の一例)

- 「地元で生きるを考える」をテーマにした「日光キャリア合宿」を開催。宇都宮大学と県内外の他大学生がチームに分かれ、日光市内の街歩きをして地域の課題を抽出し、地域活性のためのアイデアをまとめて日光市にプレゼンテーションしました。
- 「地域づくり×生き方の意味を問う」と題して、地域づくり実践者の講師2名を招き、学生と社会人の対話と思考の場を開きました。
- 学生向けのウェブマガジン「18歳からのとちぎ仕事学」を2月に開設し、とちぎで働く宇都宮大学のOB・OGに学生がインタビューした記事等を紹介しています。



地域共生研究開発センター

陽東キャンパス

Collaboration Center for Research and Development



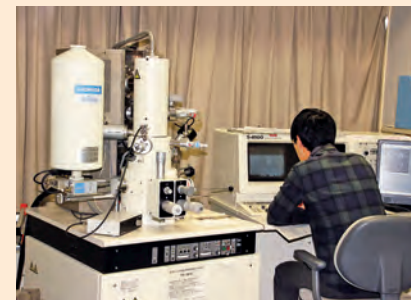
宇都宮大学地域共生研究開発センターは「産業界のニーズに合致した独創的な研究」、「有為な若手研究者の育成」、「地域と共生した産官学共同による創造的研究・技術開発の推進」、更に、「地域社会への貢献」を目的として、それまで個別に活動を行っていた学内の組織を2005年に統合して設立しました。2014年には、地域共生研究開発センター内のコーディネーション・リエゾン部門が、知的財産センターとの統合により、産学連携・知的財産部門として新たに活動を開始しています。当該部門はセンターの窓口であり、外部の弁護士、弁理士などの知的財産の専門家などから構成される客員教授や、大学内外の有識者の方々とともに、企業等からの要請に対して「ワンストップソリューション」でお応えします。2015年には、学内教員の研究活動を支援・強化することを目的としたURA (University Research Administrator) 室を新設し、専任のリサーチ・アドミニストレーターを配置しました。

以下、主要3部門についてご紹介します。

- 「産学連携・知的財産部門」はセンターの窓口であり、企業等からの要請に対して「ワンストップソリューション」で教員シーズとのマッチングを図ります。具体的には、企業ニーズの教員への提供、知財・有体物等の大学シーズの企業への展開、企業との共同研究の斡旋、特許出願や技術移転等の支援を行います。
- 「イノベーション創成部門」は、アントレプレナーシップを重要視しつつもベンチャービジネスに特化せず、大学のシーズを生かしながら産業界のニーズに応える産学官金連携を達成するためのイノベーション創出を指向した事業を推進します。そのために、イノベーション創出の種となる学内

の研究成果、あるいはその前段階となる将来性発展性を備えた研究計画への積極的な支援を行います。「先端研究推進」、「異分野融合研究推進」、「インキュベーション推進」が3つの柱となっています。

●「先端計測分析部門」は、多くの計測・分析機器類を有していることから、設立当初より学内の共同利用施設として、装置の維持管理、利用講習、および依頼分析を担当し、研究推進に貢献してきました。そして、他大学や公益機関との連携を図るとともに、2010年度からは依頼分析サービスを学外、民間にまで広め、既に多くの外部利用実績を有しています。



学生支援

峰 峰キャンパス 陽 陽東キャンパス

入学科・授業料

宇都宮大学の入学科・授業料は、全学部同額です。

■平成29年度(2017年度)入学生 入学科・授業料

入学科	282,000円	(入学時のみ)
授業料	年間535,800円	(半期267,900円)

※授業料の振替は、振替ごとに口座振替手数料がかかります。
※詳しくは、本学ホームページをご覧ください。

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/campuslife/cost.php>

入学科の免除・授業料の免除

■入学前1年以内に学費負担者が死亡、又は入学者もしくは学費負担者が風水害等の災害を受けたために、入学科の納付が著しく困難であると認められる場合には、本人の申請に基づき選考の上、入学科の全額又は半額が免除される制度があります。

■経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合及び入学前1年以内に学費負担者が死亡、又は学生もしくは学費負担者が風水害等の災害を受けたために、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合には、本人の申請に基づき選考の上、授業料の全額又は半額が免除される制度があります。

その他の学修費用

履修する授業により、教科書や実験・実習の教材の購入や、TOEIC受験料が必要です。教材は、大学生協で購入することができます。

また、学修や課外活動における事故に備えて、学生教育研究災害傷害保険に加入していただきます。

- TOEIC受験料(学部1年生) 7,605円
- e-Learning受講料(1年分) 3,888円
- 学生教育研究災害傷害保険・
学生教育研究賠償責任保険(4年間分) 保険料 4,660円

アルバイト・アパート等の紹介

- アルバイトを希望する学生には、大学生にふさわしい職種に限り大学生協にて紹介しています。
- 自宅から通学できない学生でアパート・貸間を希望する学生の申込みに応じ、大学生協にて随時空室の紹介をします。

奨学金制度

■本学独自の奨学金として、地域の方のご寄附などにより支援されるものがあります。

宇都宮大学3C基金 飯村チャレンジ奨学金	チャレンジ精神と夢にあふれる学生が学業に専念できるよう支援する奨学金です。 世帯収入400万円以下の学生が対象。月3万円を給付します。
宇都宮大学3C基金 入学応援奨学金	本学への入学を強く希望する高校生を後押しする奨学金です。 世帯収入400万円以下の栃木県内の高校3年生を対象に募集し、30万円を給付します。
宇都宮大学3C基金 増山奨学金	大学院に在籍する私費外国人留学生の本学での学修・生活支援や、海外に留学する本学大学院生の学修・留学生生活を支援します。 また、海外の優れた大学とのダブル・ディグリープログラムで留学した大学院生にも支給されています。
宇都宮大学成績優秀者表彰 (学業奨励奨学金)	向学心に燃え、学業成績、人物共に優れている者に対して、更なる勉学意欲向上に資することを目的に、10万円の奨学金を授与します。

その他、日本国籍の理工系大学院生を対象とした奨学金があります。

■教育の機会均等を図り、社会に有用な人材を育成するため、人物、学業成績共に優秀でありながら経済的理由により修学困難な学生に対して、本人の願い出により選考の上、奨学金が貸与又は給付される制度があります。

日本学生支援機構奨学金	無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金があり、本学では約4割の学生がこの奨学金の貸与を受けています。 (平成29年2月時点)
地方公共団体及び公益法人等	日本学生支援機構の他、地方公共団体及び公益法人等が募集している奨学金があります。

学生寮



雷鳴寮(男子)
寄宿料(月)／17,000円
定員／36名



陽東寮(男子)
寄宿料(月)／17,000円
定員／80名



第1寮(男子)
寄宿料(月)／7,000円
定員／36名



第2寮(女子)
寄宿料(月)／7,000円
定員／44名

共益費(光熱費等)(月)／約7,000円・食事／自炊・部屋／個室(洋室)

各寮の入寮者は選考により決定します。

※各寮の定員は4年生まで含めた定員なので、新入生の定員は約1/4と考えてください。

※入寮時に入居一時金として30,000円が必要となります。



宇都宮大学周辺の家賃相場

峰キャンパス及び陽東キャンパス周辺は、1K～1DKの学生向けの賃貸物件が豊富で、家賃相場は平均月3.5万円です。また、両キャンパスを含む地区は住宅地に隣接する平地で、徒歩・自転車による通学や生活が可能です。時間的にも経済的にも、ゆとりある学生生活が送れます。

大学周辺に居住する教職員も多数います。



近くには、
大型ショッピングモールもあります。

附属図書館

峰 陽

図書館本館(峰キャンパス)は3階まで吹き抜けのアトリウムがあり、ガラスの屋根を通して自然の光が射し込む、明るくくつろげる空間になっています。陽東キャンパスには附属図書館の分館があり、本館とあわせて約63万冊以上の蔵書を誇っています。

また、高度情報化時代に対応した電子図書館を目指して、コンピュータ室をはじめ館内の各所に100台近いパソコンを設置。インターネットによって世界中の最新情報にアクセスし、また海外の電子ジャーナル約6,200タイトルを読むことができ、最先端の学術研究情報を広く世界中から集めることも可能になりました。また、DVDやビデオ、CD、あるいはオンライン・データベースなどの電子媒体の充実も図っています。



「学生選書ツアー」を実施しています

利用者参加型の図書館づくりの一環として、「学生による学生のための選書」と題し「学生選書ツアー」を年に1回実施しています。ツアーでは10名程度の参加希望学生を募り、宇都宮市内の大型書店に出向いて直接書棚から図書館に置いてほしい本をじっくりと選んでいただけます。好きな本、みんなに読んでほしい本を選ぶことの楽しさを満喫することができます。館内の学生選書コーナーには、選んだ学生が作ったポップも展示されています。



選書ツアーの様子



選書コーナーの紹介

保健管理センター

峰 陽

保健管理センターでは、定期健康診断をはじめとする学生の健康管理および健康教育を行っています。

病気についての相談や診療・医療機関の紹介・救急処置などの身体面の健康管理とともに、大学生生活をめぐる精神心理面での悩み全般の相談に応じています。また、健康診断結果を用いての健康指導や調査研究、健康に関連する講演会や研修会の開催、冊子発行を行うとともに、ホームページから健康情報を提供しています。さらに、健康情報室にある血圧計・視力計・体脂肪計を自由に使用してもらうことで、学生の皆さんの健康の自己管理を目指しています。



学生団体 ECHO

ECHO環境改善学生サポーター

ECHOは環境意識の高い学生が学務部と協働して活動している学生団体です。生協に環境配慮型弁当容器Dappy!!(ダッピー)を導入したり、大学祭では環境を意識し屋台でのエコ容器の利用促進、ゴミ分別指導、屋台・地域からの廃油回収をしました。一緒に宇都宮大学をエコ大学に変えていきましょう!



2015大学祭 ゴミ分別指導の様子

学生団体 C.C.S.

宇都宮大学生協学生委員会

宇都宮大学生協学生委員会(C.C.S.)は生協の組合員である教職員や学生、また多くの人たちに、生協を有効に利用してもらえるよう活動しています。新入生のための交流会や24時間耐久リレーボウリング大会の企画運営をしています。また、環境に関する活動を行っています。



新入生交流会in峰 グループ交流の様子

“学生なんでも相談”

大学生活における、学生一人一人の様々な悩みや問題について、少しでも解決できるようサポートするため、大学内には「学生なんでも相談窓口」があります。

修学・履修に関する相談、留学や進路・就職のこと、友人・先輩後輩や教員、家族等との人間関係の悩み、セクハラ・パワハラ、人権侵害に関する相談、悪徳商法に引っかかってしまった!、どこに(誰に)相談してよいかわからないことなど、“なんでも”相談できます。

学生なんでも相談窓口

峰 地 区：学務部学生支援課 TEL:028-649-5072
陽東地区：学務部陽東分室 TEL:028-689-6003

教育・実習施設 日光自然ふれあいハウス

日光の戦場ヶ原にある宿泊可能な教育・実習施設です。

日光及び日光周辺の自然を学び、体験し、教育・研究や社会貢献活動等のために、全学の教職員と学生が利用できます。



国際交流

宇都宮大学では、研究・教育の両面で国際交流を進めるために、現在、33大学と大学間交流協定を、34大学・研究機関と部局間交流協定を締結しています(平成29年3月現在)。留学中に取得した単位は、一定条件を満たせば、本学で取得した単位として認められます。

東フィンランド大学、アイルランド国立大学ダブリン校とは、本学と留学先大学の双方の学位が取得できる、ダブルディグリー・プログラムを実施しており、これに対する積極的な支援も行っています。学生交流協定を締結している協定校との間では、毎年多くの交換留学を行っているほか、一定期間休学して私費留学する学生もいます。また、海外での短期語学研修や日本企業の海外事業所で国際インターンシップを行う学生を支援するなど、グローバルな人材の育成に取り組んでいます。

大学間交流協定校



交換留学

交換留学の場合には、本学に授業料を納付していれば、留学先の大学に授業料を支払う必要はありません。また、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給する海外留学支援制度奨学金や、大学コンソーシアムとちぎによる渡航費などの支援を受けることができます。

部局間交流協定校

(学部を主とした交流協定校)

国際学部(13)		台湾・新北市		ドイツ・トリア市		トリア大学(第Ⅱ学部)	
中国・広州市	華南農業大学(人文学院)	韓国・釜山市	釜慶大学校(人文社会科学大学)	ロシア・イルクーツク市	イルクーツク国立言語大学(国際事務局)		
中国・チチハル市	齊齊哈爾(チチハル)大学(外語学院)	ベトナム・ハノイ市	ハノイ大学	キューバ・ハバナ市	ハバナ大学(経済学部)※		
台湾・南投県	国立暨南国際大学(人文学院・教育学院)	シリア・ダマスカス市	ダマスカス大学(文学部)	メキシコ・コリマ市	コリマ大学(政治社会学部)		
		イギリス・プレストン市	セントラル・ランカシャー大学	スリランカ・キャンディ市	ペラデニヤ大学		
農学部(8)		工学研究科(5)		オプティクス教育研究センター(7)			
中国・浙江省	浙江省農業科学院(畜牧獣医研究所)※	中国・上海市	東華大学(環境科学と工程学院)	アメリカ・ツーソン市	アリゾナ大学(光科学学部)※		
タイ・バンコク市	キングモンクト工科大学(生物資源工学研究科)	中国・上海市	華東理工大学(機械と動力工程学院)	アメリカ・オーランド市	中央フロリダ大学(光工学部)※		
日本・東京都	国際連合大学(高等研究所)※	中国・遼寧省	遼寧理工大学(機械工程と材料科学工学研究科)	インド・コルカタ市	カルカッタ大学(工学部応用フォトニクス学科)※		
アメリカ・インディアナ州	パデュー大学(農学部)※	台湾・桃園県	龍華科技大学(工程学院・電資学院)	メキシコ・グアナジュアト州	セントロ・デ・インベスティガシオン・オプティカ・AC※		
ガーナ・グレーター・アクラ市	ガーナ大学(基礎応用科学部)	フィンランド・ヨエンスウ市	東フィンランド大学(自然及び森林科学部・研究科)★	シンガポール	南洋工科大学(オプティカルレーザー工学センター)※		
トルコ・ブルサ県	ブルサ工科大学(林学部)	★ダブルディグリープログラムのみ					
インドネシア・バジャランシン市	ランブナンクラット大学(農学部・林学部・理数学部)	※学生交流協定なし					
カンボジア・プノンペン市	カンボジア王立農業大学						

留学生の受け入れ

宇都宮大学では、各国から多くの留学生(私費留学生・国費留学生・外国政府派遣留学生等)を受け入れています。2016年5月1日現在、33か国・地域から244名の留学生が在籍し、アジア諸国からの留学生が全体の95%を占めています。そのなかには母国の大学に在籍したまま1年間交換留学する特別聴講生もいます。



留学体験談

農学部生物資源科学科 4年
鈴木 英仁

私は、2015年9月から約1年間、チェコのプラツキー大学に交換留学しました。さて、チェコはどんな国でしょうか。実際にそれを確かめることが私の目的でした。ヨーロッパに一年近く生活すると小さな違いも感じることができます。私は現地でもチェコ語を勉強し、自転車でもチェコを一周してみました。もちろん、新しい場所や言語を前にすると不安で怖かったです。しかし、そこから一歩踏み出すと、自分に自信が持てるようになりました。人によってやりたいことは様々ではありませんので、気になる国があれば行ってみてください。もちろん学部は関係ありません。自分から行動できる人、全力で勉強や遊びができる人はぜひ留学に挑戦してみてください。



チューター制度

チューター制度は、大学に在学する外国人留学生に対して、指導教員の指導の下に、大学が選定したチューターにより、教育・研究等について個別の課外指導を行い、留学生の学習・研究成果の向上を図ることを目的としています。チューターは、"Face to Face"で留学生の家庭教師として、また大学等における最初の学友として、留学生の悩みごとなどの相談者として活躍しています。

国際学部 国際文化学科 4年
椎名 毬子

私は留学経験があり、現地では沢山の学生に助けていただきました。今度は自分が日本へ留学に来た学生に何かしたいと思い、チューター制度に参加しています。友人として困ったことがあれば助け、楽しいことは共有しよう!というスタンスで活動をしています。観光や文化体験をしたり、市役所で手続きがあれば同行し、帰りに話しながらたこ焼きを食べた事もありました。相手の要望を待つだけの受け身の姿勢は避け、積極的に交流した事で、国籍を超えた友情を築くことが出来たのではないかと思います。語学や文化など相手から学ぶこともとても多く、チューター活動は本当に楽しいです!大学時代に何かしてみたいという方は、是非チューター制度に参加してみてください。



留学生アドバイザー

留学生アドバイザーは、留学生同士はもちろん留学生と日本人学生の交流の橋渡しをするための活動を行っています。海外留学経験者や海外留学を目指す学生、日本での生活が長い外国人留学生が、留学生を交えた各種イベントの実施やチューター間の意見交換、留学を考えている学生からの相談など、学生目線で国際交流の推進をしています。

国際学部 国際文化学科 4年
藤田 実央

私たち留学生アドバイザーは主に留学生の生活サポート、留学生と日本人学生の交流促進を目的としたイベントの企画などを行っています。生活のサポートとしては、宇都宮に到着した留学生を出迎え、住民登録・保険の手続きなどを手伝っています。またイベントは留学生と日本人の交流の場になると考え、季節に合ったイベントを企画・運営しています。クリスマスやハロウィーンはもちろん、夏には浴衣を着て流し・そうめんパーティーも行いました。みなさんもぜひ、身近なところから国際交流してみよう!



国際インターンシップ

国際インターンシップは、地域のニーズに応えるグローバルな人材育成のため、企業の皆様のご協力を得て、夏期と春期の年2回、協力企業の海外事務所等で実施しています。参加学生に対しては、大学から経済的な支援も行っています。

工学部 機械システム工学科 4年
板谷 翔太

学生である今のうちしかできないこと、かつ視野を広める良い機会ではないかと思い、私は夏期の国際インターンシップに参加することを決意しました。渡航先はタイ、期間は1ヶ月、現地企業(社長は日本人)にエンジニアとしての基礎を学びに行きました。業務そのものは国内でもできることですが、海外だと自分を取り巻く環境が全く違うため、ひとつひとつが刺激的でした。お互い母国語としない英語を用いてやりとりし、アドバイスを受けながら作成したエアシリンダには特別な価値がありそうです。何かを成し遂げたりした時はもちろん嬉しいですが、せっかく海外にきたのだから、思い立ったら即行動!という積極性を持ち、失敗の壁にぶち当たったことも経験のひとつとして大切なのではないかと感じました。



課外活動

Sports Clubs

- 陸上競技部 ●サッカー部 ●硬式野球部 ●硬式テニス部 ●ソフトテニス部 ●バレーボール部 ●卓球部 ●バスケットボール部 ●バドミントン部 ●柔道部 ●剣道部 ●合気道部 ●弓道部 ●器械体操部 ●ワンダーフォーゲル部 ●滑空部(滑空機を用いたフライト) ●馬術部 ●アメリカンフットボール部 ●ハンドボール部 ●水泳部 ●準硬式野球部 ●自転車愛好会 ●山岳部 ●ソフトボール同好会 ●プロレス研究会 ●doodle(ダンス) ●SQUARE(テニス) ●KUNOICHI(バスケットボール) ●バスケットボール同好会 ●愛球会(バレーボール) ●Q-TA(卓球) ●クライミングサークル ●その他、同好会多数



馬術部 第68回 招待東日本学生馬術大会 優勝 | 弓道部 第48回 関東学生弓道選手権大会秋季リーグ 決勝大会 準優勝
農学部4年 雨澤 毅明 第37回アジア自転車競技選手権大会チームタイムトライアル 銀メダル(第2位) その他国内外の大会で上位入賞

第 65 回関東甲信越大学体育大会の成績

期 間：平成28年8月15日(月)～31日(水) 参加大学数：13大学(約3,400名)
競 技 種 目：17種目 宇都宮大学参加種目(15種目) 参加人数(約270名)

団体戦

優 勝	バレーボール(男子)	※2年連続
優 勝	バレーボール(女子)	※5年連続
準優勝	ソフトテニス(女子)	
第3位	準硬式野球	
第3位	バドミントン(男子)	
第3位	バスケットボール(女子)	

個人戦

ソフトテニス(女子)	
準優勝	(渡部 佳乃、須藤 麻敏ペア)
	渡部 佳乃 農 学 部 3年
	須藤 麻敏 教育学部 1年
第3位	(松田あゆか、磯 日南子ペア)
	松田あゆか 国際学部 2年
	磯 日南子 農 学 部 2年

陸上競技

男子走高跳	
第1位	小森 翔太 教育学部 3年
第3位	鈴木 敦也 教育学部 1年
男子400m	
第2位	川口 真司 工 学 部 2年
男子4×400mR	
(小池 翔、高瀬 雅仁、牧野 有恭、川口 真司)	
小池 翔 教育学部 2年	
高瀬 雅仁 教育学部 2年	
牧野 有恭 農 学 部 3年	
川口 真司 工 学 部 2年	

女子1500m	
第3位	柳 好恵 教育学部 2年
女子やり投	
第3位	野中 紗希 教育学部 4年

水 泳

男子200m平泳ぎ	
第2位	村上 宏紀 工 学 部 3年

※学年は大会当時

陸上競技部



陸上競技部は、一人ひとりが自己ベスト更新を目指すとともに、各大会などの対抗戦でも各自が得点を取り宇都宮大学として上位入賞できるよう、峰キャンパスの陸上競技場で日々練習に励んでいます。毎年開催される関東甲信越大学体育大会や関東圏の各大会でも、男女ともに短・長距離走・走高跳・棒高跳・やり投げ等その他各種目で上位に入賞し、日頃の練習の成果を大いに発揮しています。

フライングディスク部



フライングディスク部は週3日、峰キャンパスの多目的グラウンドや野球場で、フライングディスク(フリスビー)を用いた団体競技アルティメットの練習を行っています。定期的開催される国内の大会での勝利を目指して、部員一丸となって練習に励んでいます。数年前には世界大会に出場したメンバーもあり、今後の活躍もさらに期待されています。

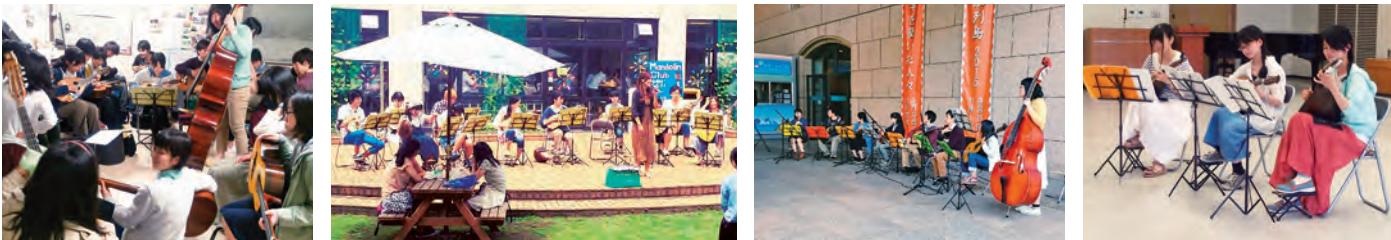
Culture Clubs

- 混声合唱団 ●管弦楽団 ●マンドリンクラブ ●考古学研究会 ●生物研究会 ●園芸研究会 ●探鳥会 ●天文星座研究会 ●囲碁部 ●日本舞踏サークル ●ていーだ太鼓(沖縄創作エイサー) ●ネイチャーフレンド(子供達との体験活動) ●フォークギター同好会 ●手話を学ぶ会 ●現代音楽研究会(ライブ活動) ●漫画研究会 ●さーくる箏 ●写真部 ●美術研究会 ●ブルース&ロック同好会 ●KAKEHASEEDS(ボランティア活動) ●演劇研究会 ●E.S.S(英会話研究会) ●心理学研究会 ●軽音楽研究会(BIG BANDによるJAZZ演奏) ●Band Stand うたう会 ●映画研究会 ●茶道部 ●新入生歓迎・大学祭実行委員会 ●TRPG同好会(テーブルトークロールプレイングゲーム) ●ちゅう食研究会(虫・野草の採取・考察・観察・調理) ●リソースネットワーク(南インドの女性支援) ●LOMO(リサイクル活動) ●ナムチャイ〜タイの子供達に絵本を贈る会〜 ●さとびと(棚田の保全、ボランティア) ●D-friend(農作業協力による地域活性化活動) ●HOLIC(フリーペーパー発行) ●おおるり(TOSS技量検定試験勉強) ●アカペラサークル U-Mic ●プラモデル研究会 ●華道部 ●文芸同好会 ●現代視覚文化研究会 ●その他、同好会多数



マンドリンクラブ

マンドリンクラブは、マンドリンの合奏の楽しさの共有と演奏技術の向上を目的として、課外活動共用施設や学生会館などで活動を行っています。年に一度の定期演奏会の他、桜の季節には宇都宮大学の陽東キャンパスで開催される「さくらフェスタ」での演奏、新入生歓迎演奏会や大学祭、またボランティア活動として市内等各所での出張演奏などにも積極的に参加し、多くの方々にマンドリンの音色を楽しんでいただけるよう、部員も日々の練習に励んでいます。



学生ボランティア支援室

学生の主体的なボランティア活動に対する奨励・支援のため、ボランティア活動等の機会の提供、サポート体制の充実、学生の皆さんが活動を行いやすい環境の整備、ボランティア活動等に関する啓発を目的として、2011年6月に開設されました。2011年3月11日に発生した東日本大震災直後の宮城県石巻市でのボランティア活動に始まり、岩手県内や宮城県亘理町等でのがれき

撤去や仮設住宅でのお話聞き取り調査支援、子供達への学習支援など、これまで20回を超える活動を支援しています。また、2015年9月に関東・東北地方を襲った「関東・東北豪雨」による鹿沼市を中心とした栃木県内の水害支援ボランティア活動への支援も新たに行っています。今後も宇大生が行うボランティア活動全般へのサポートを行っていきますので、興味のある方はぜひ参加してください。



宇都宮大学HP内 <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/campuslife/volunteer.php>

入試案内

平成30(2018)年度 入試日程

主な入試の予定を掲載します。具体的な日程や試験内容等については、「入学者選抜要項」、又は、入試ごとの「学生募集要項」でご確認ください。

		一般入試 (前期日程・後期日程)	推薦入試 (Ⅰ：センター試験を課さない) (Ⅱ：センター試験を課す)	AO入試	帰国生入試 社会人入試 外国人生徒入試
10月	上旬			出願受付	
	中旬				
	下旬			第1次選考結果発表	
11月	上旬		(推薦入試Ⅰ) 出願受付		
	中旬				
	下旬		(推薦入試Ⅰ) 入学試験	(社会基盤デザイン学科)第2次選考	
12月	上旬		(推薦入試Ⅰ) 合格者発表	(社会基盤デザイン学科)最終合格発表	出願受付
	中旬		(推薦入試Ⅰ) 入学手続	(社会基盤デザイン学科)入学手続	
	下旬				
1月	上旬				
	中旬	【大学入試センター試験】	【大学入試センター試験】	【大学入試センター試験】	
	下旬	(前期・後期共通) 出願受付	(推薦入試Ⅱ) 出願受付		入学試験
2月	上旬		(推薦入試Ⅱ) 入学試験 (推薦入試Ⅱ) 合格者発表	(コミュニティデザイン学科、 建築都市デザイン学科) 最終合格発表	合格者発表
	中旬		(推薦入試Ⅱ) 入学手続	(コミュニティデザイン学科、 建築都市デザイン学科) 入学手続	入学手続
	下旬	(前期日程) 個別学力検査			
3月	上旬	(前期日程) 合格者発表			
	中旬	(後期日程) 個別学力検査			
		(前期日程) 入学手続			
		(後期日程) 合格者発表			
	下旬	(後期日程) 入学手続			

上記の他、「理系5年一貫特別入試」を実施します。詳細は、「入学者選抜要項」又は「学生募集要項」でご確認ください。

一般入試状況(前期日程) 平成26年度～平成28年度

学部	学 科 ・ 課 程 等	平成28(2016)年度						平成27(2015)年度						平成26(2014)年度					
		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数
地域デザイン科学部	コミュニティデザイン学科	35	103	2.9	94	2.7	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	建築都市デザイン学科	35	158	4.5	149	4.3	41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	社会基盤デザイン学科	23	48	2.1	47	2.0	29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際学部	国際社会学科	20	130	6.5	125	6.3	30	22	69	3.1	63	2.9	35	22	79	3.6	71	3.2	31
	国際文化学科	20	123	6.2	116	5.8	30	22	95	4.3	90	4.1	37	22	82	3.7	78	3.5	33
教育学部	学校教育教員養成課程	学校教育・特別支援教育系	22	79	3.6	76	3.5	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		教科文系	30	73	2.4	71	2.4	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		教科理系	27	58	2.1	58	2.1	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		教科実技系	24	92	3.8	89	3.7	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		文系	学校教育専攻				—	43	140	3.3	138	3.2	15	43	121	2.8	115	2.7	15
			国語教育専攻				—												
			社会科教育専攻	—	—	—	—												
			家政教育専攻				—												
			英語教育専攻				—												
		理系	数学教育専攻	—	—	—	—	24	55	2.3	53	2.2	15	24	100	4.2	99	4.1	15
			理科教育専攻				—												
			技術教育専攻				—												
		実技系	音楽教育専攻	—	—	—	—	6	18	3.0	18	3.0	7	6	9	1.5	9	1.5	7
			美術教育専攻	—	—	—	—	6	12	2.0	11	1.8	6	6	12	2.0	12	2.0	8
			保健体育専攻	—	—	—	—	9	31	3.4	30	3.3	9	9	46	5.1	46	5.1	9
		特別支援教育コース		—	—	—	—	11	16	1.5	16	1.5	11	11	30	2.7	29	2.6	12
		総合人間形成課程		—	—	—	—	30	75	2.5	72	2.4	39	30	78	2.6	74	2.5	40
工学部	機械システム工学科	49	117	2.4	112	2.3	58	49	142	2.9	142	2.9	56	49	91	1.9	90	1.8	58
	電気電子工学科	54	118	2.2	113	2.1	64	54	122	2.3	119	2.2	61	54	123	2.3	118	2.2	62
	応用化学学科	53	138	2.6	131	2.5	61	53	143	2.7	139	2.6	61	53	152	2.9	149	2.8	62
	建設学科	—	—	—	—	—	—	54	212	3.9	203	3.8	66	54	187	3.5	182	3.4	66
農学部	情報工学科	55	119	2.2	117	2.1	63	55	115	2.1	113	2.1	67	55	141	2.6	136	2.5	64
	生物資源科学科	42	103	2.5	102	2.4	48	44	123	2.8	119	2.7	48	44	127	2.9	119	2.7	49
	応用生命化学科	22	49	2.2	46	2.1	27	22	52	2.4	50	2.3	24	22	46	2.1	44	2.0	28
	農業環境工学科	23	83	3.6	81	3.5	31	25	69	2.8	67	2.7	40	25	68	2.7	65	2.6	35
	農業経済学科	27	81	3.0	75	2.8	34	28	69	2.5	67	2.4	36	28	86	3.1	83	3.0	35
	森林科学科	24	64	2.7	63	2.6	35	27	82	3.0	79	2.9	30	27	84	3.1	82	3.0	32

※地域デザイン科学部は、平成28年度に設置及び学生募集開始。
※教育学部総合人間形成課程及び工学部建設学科は、平成28年度募集停止。工学部建設学科は、地域デザイン科学部建築都市デザイン学科及び社会基盤デザイン学科に移行。
※教育学部学校教育教員養成課程は、平成28年度に募集区分を変更。

一般入試状況(後期日程) 平成26年度～平成28年度

学部	学 科 ・ 課 程 等	平成28(2016)年度						平成27(2015)年度						平成26(2014)年度					
		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数
地域デザイン科学部	コミュニティデザイン学科	10	58	5.8	22	2.2	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	建築都市デザイン学科	9	53	5.9	25	2.8	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	社会基盤デザイン学科	12	36	3.0	17	1.4	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
教育学部	学校教育教員養成課程	学校教育・特別支援教育系	6	31	5.2	15	2.5	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		教科文系	9	79	8.8	35	3.9	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		教科理系	8	42	5.3	19	2.4	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		文系	学校教育専攻				—	10	101	10.1	48	4.8	5	10	94	9.4	28	2.8	3
			国語教育専攻				—												
			社会科教育専攻	—	—	—	—												
			家政教育専攻				—												
			英語教育専攻				—												
		理系	数学教育専攻				—	7	37	5.3	18	2.6	4	7	65	9.3	31	4.4	8
			理科教育専攻	—	—	—	—												
			技術教育専攻				—												
		特別支援教育コース		—	—	—	—	3	10	3.3	2	0.7	0	3	24	8.0	7	2.3	3
		総合人間形成課程		—	—	—	—	10	51	5.1	30	3.0	12	10	51	5.1	18	1.8	12
工学部	機械システム工学科	12	36	3.0	15	1.3	10	12	59	4.9	28	2.3	14	12	63	5.3	40	3.3	12
	電気電子工学科	15	34	2.3	15	1.0	14	15	75	5.0	35	2.3	16	15	86	5.7	37	2.5	16
	応用化学学科	17	98	5.8	42	2.5	23	17	180	10.6	66	3.9	30	17	110	6.5	46	2.7	25
	建設学科	—	—	—	—	—	—	8	90	11.3	42	5.3	9	8	77	9.6	44	5.5	10
農学部	情報工学科	10	23	2.3	11	1.1	8	10	54	5.4	27	2.7	11	10	37	3.7	21	2.1	10
	生物資源科学科	9	31	3.4	17	1.9	11	10	76	7.6	48	4.8	10	10	67	6.7	28	2.8	11
	応用生命化学科	3	35	11.7	18	6.0	3	6	33	5.5	18	3.0	15	6	44	7.3	24	4.0	7
	農業環境工学科	3	15	5.0	10	3.3	4	3	27	9.0	14	4.7	3	3	34	11.3	16	5.3	9
農学部	農業経済学科	3	20	6.7	7	2.3	6	5	49	9.8	23	4.6	5	5	92	18.4	58	11.6	16

※国際学部、教育学部学校教育教員養成課程教科実技系及び農学部森林科学科では、後期日程を実施していません。
※地域デザイン科学部は、平成28年度に設置及び学生募集開始。
※教育学部総合人間形成課程及び工学部建設学科は、平成28年度募集停止。工学部建設学科は、地域デザイン科学部建築都市デザイン学科及び社会基盤デザイン学科に移行。
※教育学部学校教育教員養成課程は、平成28年度に募集区分を変更。

入試案内

一般入試(前期日程・後期日程)の成績情報(平成26年度～平成28年度)

学部	学 科 ・ 課 程 等	日程	平成28(2016)年度						平成27(2015)年度						平成26(2014)年度					
			大学入試センター試験			個別学力検査			大学入試センター試験			個別学力検査			大学入試センター試験			個別学力検査		
			配点	最高点	平均点	配点	最高点	平均点	配点	最高点	平均点	配点	最高点	平均点	配点	最高点	平均点	配点	最高点	平均点
地域デザイン科学部	コミュニティデザイン学科	前期日程	900	732.8	605.8	400	308.0	264.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		後期日程	900	659.6	587.3	300	243.0	218.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	建築都市デザイン学科	前期日程	1000	835.6	721.0	400	381.3	305.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		後期日程	1100	非公表		300	非公表		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	社会基盤デザイン学科	前期日程	900	658.4	583.5	500	409.0	340.1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		後期日程	900	692.6	571.2	300	254.0	204.3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
国際学部	国際社会科学科	前期日程	1000	819.2	736.8	800	616.0	533.3	1000	769.8	690.6	800	647.0	561.2	900	675.2	593.5	900	727.0	639.8
	国際文化学科	前期日程	1000	831.8	749.3	800	632.0	564.7	1000	790.2	692.2	800	637.0	583.7	900	736.0	617.7	900	679.0	631.5
教育学部	学校教育・特別支援教育系 (学校教育, 特別支援教育分野)	前期日程	900	637.4	596.3	300	285.0	226.8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		後期日程	900	670.8	627.0	課していない			－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	教科文系 (国語, 社会, 家庭, 英語分野)	前期日程	900	720.0	643.6	300	285.0	226.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		後期日程	900	733.2	673.3	課していない			－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	教科理系 (数学, 理科, 技術分野)	前期日程	900	682.0	600.3	300	300.0	253.2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		後期日程	900	718.2	665.8	課していない			－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	教科実技系 (音楽, 美術, 保健体育分野)	前期日程	700	541.8	473.1	400	391.0	306.6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		後期日程	700	541.8	473.1	400	391.0	306.6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	文系 (学校教育, 国語, 社会科, 家政, 英語教育専攻)	前期日程	－	－	－	－	－	－	900	702.8	603.2	300	264.0	205.7	900	705.8	607.9	300	277.5	223.0
		後期日程	－	－	－	－	－	－	900	747.6	678.3	課していない			900	708.2	631.3	課していない		
	理系 (数学, 理科, 技術教育専攻)	前期日程	－	－	－	－	－	－	900	705.0	643.6	300	270.0	197.8	900	726.4	632.1	300	300.0	228.8
		後期日程	－	－	－	－	－	－	900	非公表		課していない			900	726.4	673.2	課していない		
	実技系	音楽教育専攻	前期日程	－	－	－	－	－	700	非公表		400	非公表		700	非公表		400	非公表	
		美術教育専攻	前期日程	－	－	－	－	－	700	非公表		400	非公表		700	非公表		400	非公表	
		保健体育専攻	前期日程	－	－	－	－	－	700	非公表		400	非公表		700	非公表		400	非公表	
		後期日程	－	－	－	－	－	－	900	669.6	566.8	300	243.0	182.9	900	614.2	590.0	300	240.0	217.0
	特別支援教育専攻	前期日程	－	－	－	－	－	－	900	合格者なし			課していない			900	非公表		課していない	
		後期日程	－	－	－	－	－	－	900	合格者なし			課していない			900	非公表		課していない	
	総合人間形成課程	前期日程	－	－	－	－	－	－	900	686.0	588.3	400	336.0	267.1	900	655.4	607.0	400	380.0	298.0
		後期日程	－	－	－	－	－	－	900	741.8	673.0	課していない			900	723.6	640.9	課していない		
工学部	機械システム工学科	前期日程	900	665.8	600.7	500	452.0	358.8	900	701.4	617.7	500	350.0	262.0	900	664.6	603.3	500	398.0	284.2
		後期日程	900	720.2	680.0	課していない			900	756.2	706.5	課していない			900	724.4	692.0	課していない		
	電気電子工学科	前期日程	800	574.4	513.6	500	480.0	363.7	800	617.1	530.9	500	364.0	261.1	800	597.0	542.4	500	414.0	297.3
		後期日程	800	606.9	563.3	100	93.0	52.9	800	638.8	589.7	100	85.0	71.7	800	636.1	592.8	100	92.0	66.1
	応用化学科	前期日程	900	684.2	613.1	400	322.0	266.1	900	675.2	610.3	400	354.0	296.2	900	679.8	615.8	400	350.0	249.3
		後期日程	900	680.2	627.1	300	207.0	163.1	900	699.0	647.3	300	274.0	200.1	900	710.6	651.9	300	226.0	177.1
	建設学科 (建築学コース)	前期日程	－	－	－	－	－	－	900	720.8	625.9	500	371.0	296.6	900	681.8	623.8	500	423.0	323.5
		後期日程	－	－	－	－	－	－	1000	非公表		200	非公表		1000	非公表		200	非公表	
	建設学科 (建設工学コース)	前期日程	－	－	－	－	－	－	900	674.2	605.5	500	324.0	263.4	900	652.4	581.6	500	364.0	297.0
		後期日程	－	－	－	－	－	－	1000	非公表		200	非公表		1000	非公表		200	非公表	
	情報工学科	前期日程	1000	741.4	674.2	500	431.0	350.3	1000	752.0	680.6	500	342.0	256.9	1000	786.0	679.8	500	366.0	282.9
		後期日程	900	非公表		課していない			900	778.2	690.8	課していない			900	749.8	681.7	課していない		
農学部	生物資源科学科	前期日程	900	762.8	637.5	300	297.0	229.1	900	699.6	631.3	300	260.0	230.7	900	731.6	626.8	300	260.0	217.5
		後期日程	1000	803.8	719.7	課していない			1000	794.6	781.8	課していない			1000	803.5	767.4	課していない		
	応用生命化学科	前期日程	900	691.0	630.4	300	249.0	221.5	900	709.0	633.9	300	248.0	226.0	900	719.8	632.5	300	242.0	191.4
		後期日程	1000	非公表		課していない			1000	839.8	757.4	課していない			1000	非公表		課していない		
	農業環境工学科	前期日程	900	619.4	584.4	300	226.2	189.6	900	616.0	580.0	300	235.4	174.1	900	634.2	581.8	300	259.0	179.8
		後期日程	900	非公表		課していない			900	非公表		課していない			900	非公表		課していない		
	農業経済学科	前期日程	900	671.8	585.8	300	275.0	200.3	900	647.0	583.4	300	252.0	214.1	900	672.6	596.5	300	223.7	175.5
		後期日程	900	非公表		課していない			900	非公表		課していない			900	707.8	654.6	課していない		
	森林科学科	前期日程	1000	734.3	660.1	300	282.0	222.6	1000	725.2	647.0	300	265.0	222.7	1000	777.0	662.6	300	237.5	186.8
		後期日程	1000	734.3	660.1	300	282.0	222.6	1000	725.2	647.0	300	265.0	222.7	1000	777.0	662.6	300	237.5	186.8

※合格者が10人に満たない場合は、個人を特定できるおそれがあり、成績は公表しませんので「非公表」と記載しています。 ※地域デザイン科学部は、平成28年度に設置及び学生募集開始。
※教育学部総合人間形成課程及び工学部建設学科は、平成28年度募集停止。工学部建設学科は、地域デザイン科学部建築都市デザイン学科及び社会基盤デザイン学科に移行。
※教育学部学校教育教員養成課程は、平成28年度に募集区分を変更。 ※国際学部、教育学部学校教育教員養成課程教科実技系及び農学部森林科学科では、後期日程を実施していません。

推薦入試状況(平成26年度～平成28年度)

推薦入試Ⅰ

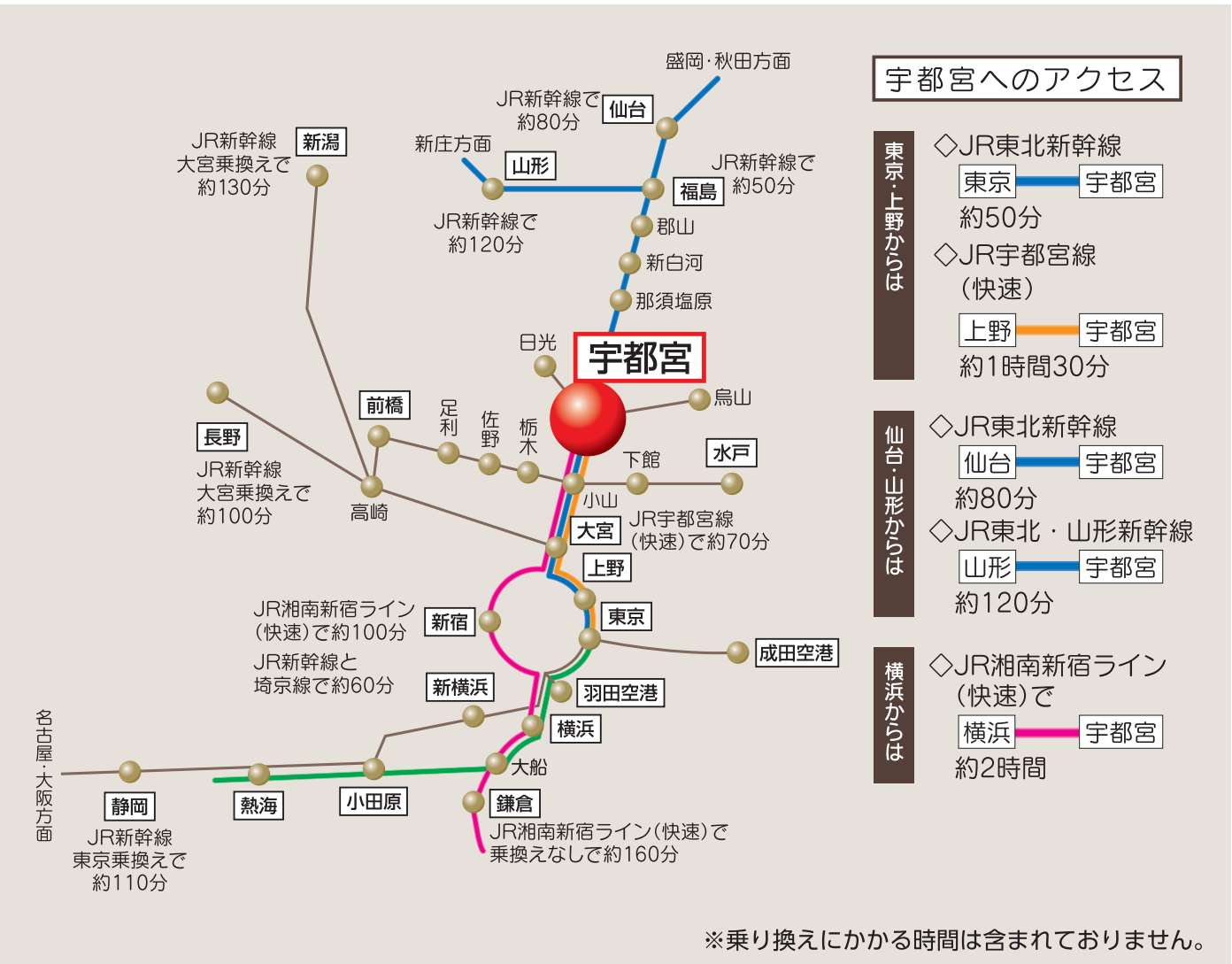
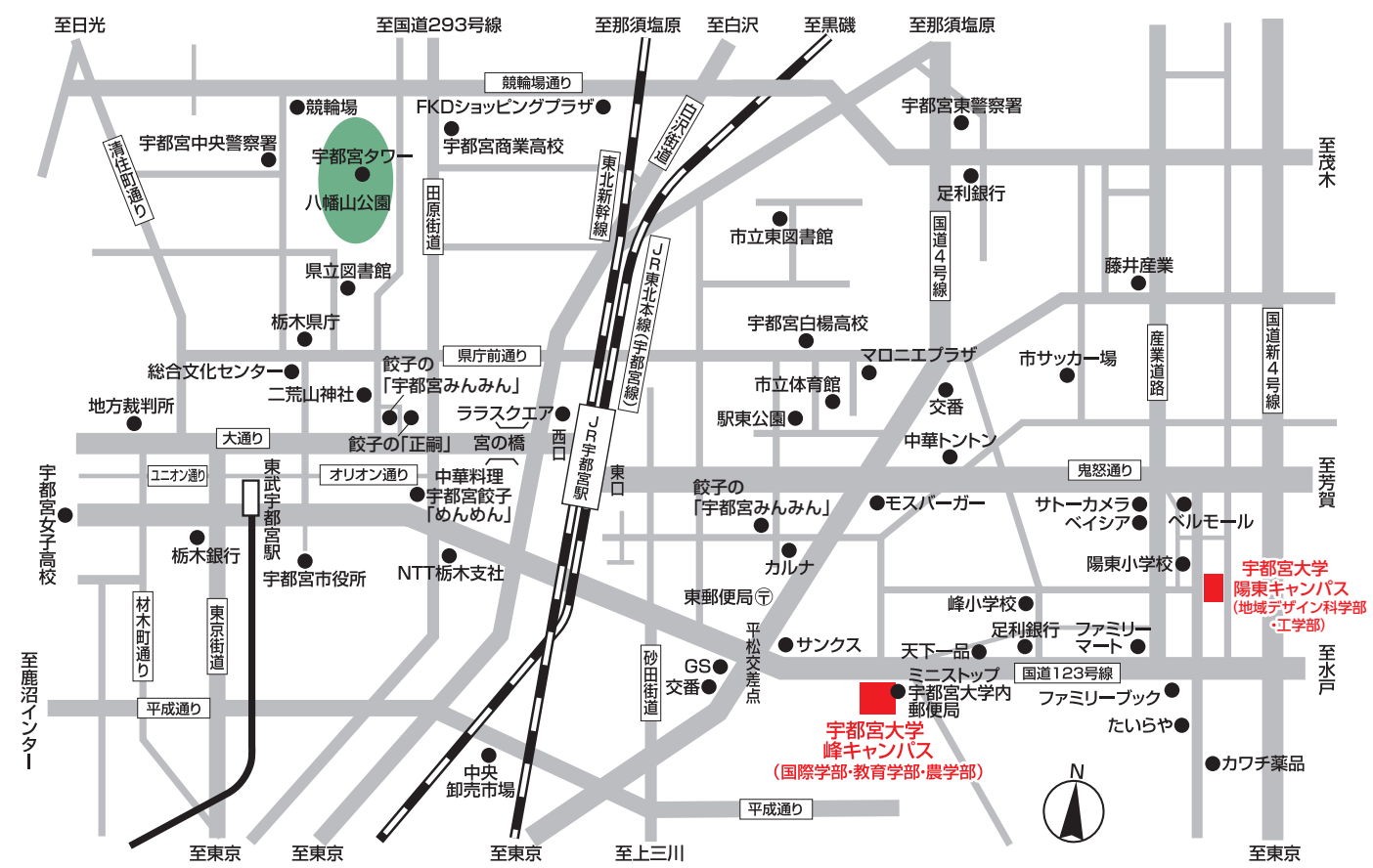
学部	推 薦 区 分	学 科 等		平成28(2016)年度				平成27(2015)年度				平成26(2014)年度				
				募集人員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集人員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集人員	志願者数	志願倍率	合格者数	
国際学部	一 般 推 薦	国 際 社 会 学 科		18	59	3.3	18	21	64	3.0	21	21	56	2.7	21	
		国 際 文 化 学 科		18	73	4.1	18	21	72	3.4	21	21	78	3.7	21	
教育学部	一 般 推 薦 (A)	学校教育教員養成課程	学校教育・特別支援教育系	学 校 教 育 分 野	2	13	6.5	2	2	15	7.5	2	2	22	11.0	2
				特別支援教育分野	2	14	7.0	2	3	10	3.3	4	3	12	4.0	4
			教科文系	国 語 分 野	2	6	3.0	2	2	10	5.0	2	2	11	5.5	3
				社 会 分 野	2	10	5.0	2	3	4	1.3	3	3	9	3.0	3
				家 庭 分 野	2	14	7.0	3	3	7	2.3	3	3	9	3.0	4
				英 語 分 野	2	8	4.0	2	2	10	5.0	3	2	4	2.0	1
			教科理系	数 学 分 野	2	9	4.5	2	2	13	6.5	3	2	11	5.5	3
				理 科 分 野	2	3	1.5	2	4	8	2.0	4	4	12	3.0	4
				技 術 分 野	2	6	3.0	2	3	9	3.0	4	3	4	1.3	4
			教科実技系	音 楽 分 野	2	11	5.5	2	2	10	5.0	2	2	8	4.0	2
	美 術 分 野	2		6	3.0	2	2	6	3.0	3	2	1	0.5	1		
	保 健 体 育 分 野	2		13	6.5	2	3	10	3.3	3	3	13	4.3	4		
	一 般 推 薦 (B)	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程 (全 て の 系 ・ 分 野)			20	45	2.3	22	—	—	—	—	—	—	—	
	一 般 推 薦				—	—	—	—	20	44	2.2	20	44	2.2	22	
	工学部	一 般 推 薦	機 械 シ ス テ ム 工 学 科		15	26	1.7	15	15	27	1.8	15	15	19	1.3	16
電 気 電 子 工 学 科			9	17	1.9	9	9	17	1.9	11	9	20	2.2	10		
応 用 化 学 科			12	26	2.2	12	12	29	2.4	12	12	32	2.7	11		
建 設 学 科			建 築 学 コ ー ス	—	—	—	—	4	24	6.0	4	4	14	3.5	4	
			建 設 工 学 コ ー ス	—	—	—	—	3	4	1.3	4	3	5	1.7	3	
情 報 工 学 科		8	24	3.0	15	8	24	3.0	10	8	9	1.1	8			
専 門 高 校 推 薦		機 械 シ ス テ ム 工 学 科		3	6	2.0	3	3	5	1.7	3	3	3	1.0	2	
		電 気 電 子 工 学 科		1	2	2.0	1	1	2	2.0	2	1	3	3.0	1	
		応 用 化 学 科		1	0	0.0	—	1	1	1.0	0	1	0	0.0	0	
		建 設 学 科	建 設 工 学 コ ー ス	—	—	—	—	1	1	1.0	1	1	2	2.0	1	
専 門 高 校 ・ 総 合 学 科 推 薦	情 報 工 学 科		1	4	4.0	1	1	4	4.0	1	1	1	1.0	1		
農学部	一 般 推 薦	生 物 資 源 科 学 科		8	52	6.5	8	12	35	2.9	12	12	51	4.3	13	
		応 用 生 命 化 学 科		7	27	3.9	9	7	23	3.3	7	7	32	4.6	8	
		農 業 環 境 工 学 科		2	2	1.0	1	3	2	0.7	1	3	3	1.0	1	
		農 業 経 済 学 科		4	19	4.8	4	5	15	3.0	6	5	7	1.4	5	
		森 林 科 学 科		2	8	4.0	2	6	25	4.2	7	6	11	1.8	6	
	生 物 資 源 科 学 科		4	10	2.5	4	4	9	2.3	4	4	8	2.0	4		
	専 門 高 校 ・ 農 業 関 連 学 科 推 薦	森 林 科 学 科		2	3	1.5	1	2	4	2.0	2	2	2	1.0	2	
専 門 高 校 ・ 総 合 学 科 推 薦	農 業 経 済 学 科		2	4	2.0	2	2	8	4.0	3	2	2	1.0	2		

都心へのアクセスは抜群！

宇都宮大学は、栃木県で唯一の国立大学法人。
キャンパスは北関東最大の都市、餃子で有名な宇都宮市の街中にあり、
JR宇都宮駅からバスで15分～20分の場所に位置するという抜群の立地条件で、
峰キャンパスであれば、徒歩でも30分程度で到着できます。
キャンパス周辺には坂が少なく商店も多いため、ショッピングやバイトも徒歩や自転車でOK！
JR宇都宮駅から東京までは新幹線で約50分！東北各県とも直通しています。
JR湘南新宿ラインなら渋谷や横浜まで乗り換え不要。就活や帰省に、アクセスは抜群です。

日光・那須・佐野・・・
観光スポットにも日帰りで行ける！

宇都宮市のある栃木県には、
世界遺産のある日光市や自然豊かな那須町、
また佐野ラーメンで有名な佐野市など、
宇都宮以外にも観光スポットがたくさん！
宇都宮市に住めば、
日帰りで観光を楽しむこともできます。



※乗り換えにかかる時間は含まれておりません。



峰キャンパス
JR宇都宮駅から2.2km
バス約15分



陽東キャンパス
JR宇都宮駅から4.2km
バス約20分

2017
年度

主なイベント・入試等

さくらフェスタ カタクリまつり

4月 — 5日(水)：入学式

7月 — 17日(月・祝)：夏のオープンキャンパス2017

8月 — 5日(土)～9月30日(土)：附属図書館高校生に学習室を開放
(要・生徒手帳)

※ただし大学一斉休業日(8月11日～16日)及び蔵書点検日は休業

11月 — 3日(金・祝)：秋のオープンキャンパス2017

18日(土)・19日(日)：峰ヶ丘祭(大学祭)

下旬：推薦入試I(大学入試センター試験を課さない)[工学部]

AO入試第2次選考[地域デザイン科学部]

推薦入試I(大学入試センター試験を課さない)

[国際学部・教育学部・農学部]

1月 — 13日(土)・14日(日)：大学入試センター試験

下旬：帰国生入試[国際学部]

社会人入試[国際学部]

外国人生徒入試[国際学部]

2月 — 上旬：推薦入試II(大学入試センター試験を課す)

[農学部農業環境工学科・森林科学科]

25日(日)：一般入試(前期日程)

3月 — 12日(月)：一般入試(後期日程)

23日(金)：学位記授与式

カタクリまつり

4月上旬から中旬、農学部附属演習林(船生)にあるカタクリ(ユリ科カタクリ属に属する多年草)の群生地を一般公開しています。



動画で宇都宮大学の
雰囲気を見る
→YouTubeチャンネルへアクセス



携帯電話・
スマートフォン用
サイト(受験生向け)



進学相談会
日程等の詳細はホームページ
をご覧ください。



※スマートフォン推奨

国立大学法人
宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

宇都宮大学 企画広報部 企画広報課

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL/028-649-8649 FAX/028-649-5026